



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

Toyo University supports the Sustainable Development Goals

2022年度 東洋大学 社会貢献センター年報

TOYO University Center for Social Contribution 2022 Annual Report



東洋大学

目次

刊行にあたって

| | |
|---------------|---|
| 東洋大学社会貢献センター長 | 1 |
|---------------|---|

社会貢献センターについて

| | |
|--------------------------|---|
| 東洋大学社会貢献センター規程 | 4 |
| 社会貢献センター組織図 | 6 |
| 2022年度 社会貢献センター運営委員会名簿 | 6 |
| 2022年度 社会貢献センター運営委員会活動記録 | 7 |

生涯学習部門

| | |
|----------------------------------|----|
| 生涯学習部門の歴史的背景 | 13 |
| 2022年度 公開講座と講師派遣事業の概要 | 16 |
| 公開講座 | |
| 2022年度 公開講座実績一覧 | 21 |
| 公開講座アンケート結果 | 24 |
| 過去3年間の受講者数 | 39 |
| PICK UP | 44 |
| 資格講座 | |
| 2022年度 資格講座 | 47 |
| 講師派遣 | |
| 2022年度 「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」実施報告 | 48 |
| 2022年度 講師派遣事業 派遣先実績一覧 | 52 |
| PICK UP | 57 |

社会貢献部門

| | |
|---------------------------|-----|
| 社会貢献情報収集 | |
| 社会貢献情報収集の概要 | 62 |
| 2022年度調査 社会貢献活動一覧 | 64 |
| PICK UP | 79 |
| 地域活性化活動支援事業 | |
| 地域活性化活動支援事業の概要 | 84 |
| 2022年度 地域活性化活動支援事業一覧・活動報告 | 85 |
| 社会貢献活動助成・表彰制度 | |
| 社会貢献活動助成・表彰制度 | 96 |
| 2022年度 社会貢献活動助成 表彰式・報告会 | 99 |
| SDGs 実践講座 | |
| 2022年度 東洋大学 SDGs 実践講座活動報告 | 101 |

社会貢献センター 内部評価

| | |
|------------------------|-----|
| 東洋大学社会貢献センターに対する内部評価結果 | 126 |
|------------------------|-----|

刊行にあたって



東洋大学社会貢献センター長
高山 直樹

東洋大学は、2012年創立125周年を迎え、創設者井上円了の教育理念のもと「グローバル人財」の育成を目指して、「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」を3本の柱とする未来宣言を行いました。その宣言を具現化するために、社会貢献センターは、従来の「生涯学習センター」を継承、発展させ、日本や国際社会への社会貢献を展開するために設立されました。

創立者・井上円了は、「諸学の基礎は哲学にあり」を掲げ、「他者のために自己を磨く、活動の中で奮闘する」人間の育成を教育の大きな柱としてきました。また、「余資なく、優暇なき者(資産や時間に余裕がない人)のために教育の機会を開放する」という理念を掲げ、本学の前身である「哲学館」を創立しました。そこでは『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」を行い、現在の通信教育へと継承してきました。さらに円了は、欧米視察により、「日本と日本人の改良」が必要との認識に至り、「哲学館」を大学へと発展させるために、1890(明治23)年から全国巡講を始めました。全国で実施された巡回講演は、延べ5,129回を数え、130万人を超える人々がその講演を聴いたとされています。この円了の全国巡講が現在の社会貢献センターの事業の柱として、講師派遣事業や公開講座などへと引き継がれて現在に至っています。

現在、社会貢献センターでは、建学の精神の共有と継承を図ると同時に、上記の未来宣言を推進すべく、様々な事業を企画し、活動を展開しています。

1 社会貢献部門

- ・ボランティアマインドの滋養：学生のボランティア活動の推進と支援等
- ・社会的活動に対応したボランティアの推進：学生と教員による地域活性化活動支援等
- ・SDGsにつながる教育の展開：SDGs アンバサダー（学生）の育成等
- ・災害等緊急支援ボランティアの推進：学生と教職員による地震、災害対策等

2 生涯学習部門

- ・人生100歳時代の学びの支援：生涯学習のための多様な機会の提供
- ・公開講座、資格取得講座、講師派遣事業の実施
- ・リカレント講座の実施

社会貢献センターの様々な活動主体は、学生であり、教職員であり、また地域の人々との協働であることが特徴です。この協働の輪をひろめ、深めていく過程のなかで、地域社会、日本そして世界の「平和・人権・豊かな環境づくり」を創っていくことを支援していくことが社会貢献センターの使命です。

いま、国内外において戦争、自国優先の経済政策、社会正義を振りかざしての後を絶たないテロ、コロナ禍による諸問題、差別、格差、虐待をはじめとする様々な「社会問題」が顕在化してきています。そして私たちは、「いま・ここ」(Here and Now)で生きています。「いま・ここ」に生きついでいる様々な場面が、未来の「いま・ここ」に大きな影響を及ぼすこととなります。自らの生活というミクロレベルの「いま・ここ」という「ローカル」な視点と、それらに密接に関係している自分、地域、国および人々、宗教、自然、環境等を世界、宇宙をつなげていく視点である「グローバル」な視点の両方を持つことが求められています。「グローバル」な視点です。それはまさに、本学での「哲学」を基盤とした各学問の学びを深めることです。そしてさらに様々な実践活動に参画していくことが、「社会問題」の解消に貢献するのです。「いま・ここ」にある「わたし」が、社会の諸問題にいかに向きあうのかが問われています。

現代の新しい社会づくりを目指して、東洋大学の学生、教職員、卒業生たちが力を合わせ、また市民の皆様と一緒に新しい挑戦について考え、様々な課題に真摯に取り組みたいと思います。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

社会貢献センターについて

○東洋大学社会貢献センター規程（平成25年4月11日規程第49号）

東洋大学社会貢献センター規程

平成25年規程第49号

平成25年4月11日

公示

平成25年4月1日

施行

改正 平成27年6月1日 平成28年6月1日
平成29年4月1日

東洋大学生涯学習センター規則（平成8年規則第131号）の全部を改正する。

（設置）

第1条 東洋大学学則第8条第1項に基づき、東洋大学（以下「本学」という。）に「東洋大学社会貢献センター」（以下「社会貢献センター」という。）を置く。

（目的）

第2条 社会貢献センターは、生涯教育に関する諸事業を積極的に推進するとともに、社会貢献活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献の発展に寄与し、もって社会に開かれた大学としての本学の発展に資することを目的とする。

（構成）

第3条 社会貢献センターに、生涯学習部門と社会貢献部門を置く。

（事業）

第4条 社会貢献センターは、第2条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

2 生涯学習部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 生涯学習プログラムの開発
- (2) 公開講座等の開催
- (3) 生涯学習に関する広報活動及び案内
- (4) 生涯学習に関する資料の収集
- (5) その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

3 社会貢献部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 社会貢献プログラムの開発
- (2) 本学各部署で実施されている社会貢献活動に関する情報の収集、連携促進及び発信
- (3) ボランティア活動その他社会貢献に係る支援策に関する事項
- (4) その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

4 前項第3号に規定するボランティア活動を推進するために東洋大学ボランティア支援室を置き、その運営等必要な事項については、別に定める。

（センター長）

第5条 社会貢献センターに、センター長を置く

2 センター長は、社会貢献センターの事業を統括し、社会貢献センターを代表する。

3 センター長は、本学の専任教授のうちから、学長の推薦により、理事長が任命する。

4 センター長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（副センター長）

第6条 社会貢献センターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、本学の専任教授のうちから、センター長及び学長の推薦により、理事長が任命する。

3 副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるとき又はセンター長が欠けたときは、センター長の職務を代理し、又は代行する。

4 副センター長の任期は2年以内とし、センター長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

(社会貢献センター運営委員会)

第7条 社会貢献センターに、社会貢献センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

(運営委員会の組織)

第8条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) センター長及び副センター長
- (2) 各学部及び大学院が推薦する専任教員 各1名
- (3) 学長が推薦する者 若干名
- (4) 通信教育部長
- (5) 学生部長
- (6) 教務部長

(委員の任期)

第9条 前条第2号及び第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(審議事項)

第10条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生涯学習プログラムの基本方針
- (2) 社会貢献プログラムの基本方針
- (3) 社会貢献センターの事業計画に関する事項
- (4) 学長から諮問された事項
- (5) その他社会貢献センターに関する重要事項

(議長)

第11条 運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第12条 議長は、必要に応じ、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第13条 運営委員会は、専門的な事項その他特に必要な事項について調査審議するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

(事業計画)

第14条 センター長は、当該年度の10月末日までに次年度の事業計画を定め、学長の承認を受けなければならない。

2 センター長は、各年度の事業の実施結果について、当該年度終了後1カ月以内に、学長に報告しなければならない。

3 事業計画を変更する場合は、学長の承認を受けなければならない。

(事務の所管)

第15条 社会貢献センターの事務は、エクステンション課が所管する。

(細則)

第16条 この規程の実施について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

(改正)

第17条 この規程の改正は、学長が運営委員会の意見を聴いて行う。

附 則

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、東洋大学生涯学習センター規則(平成9年4月1日施行)は、廃止する。

附 則(平成27年規程第153号)

この規程は、平成27年6月1日から施行する。

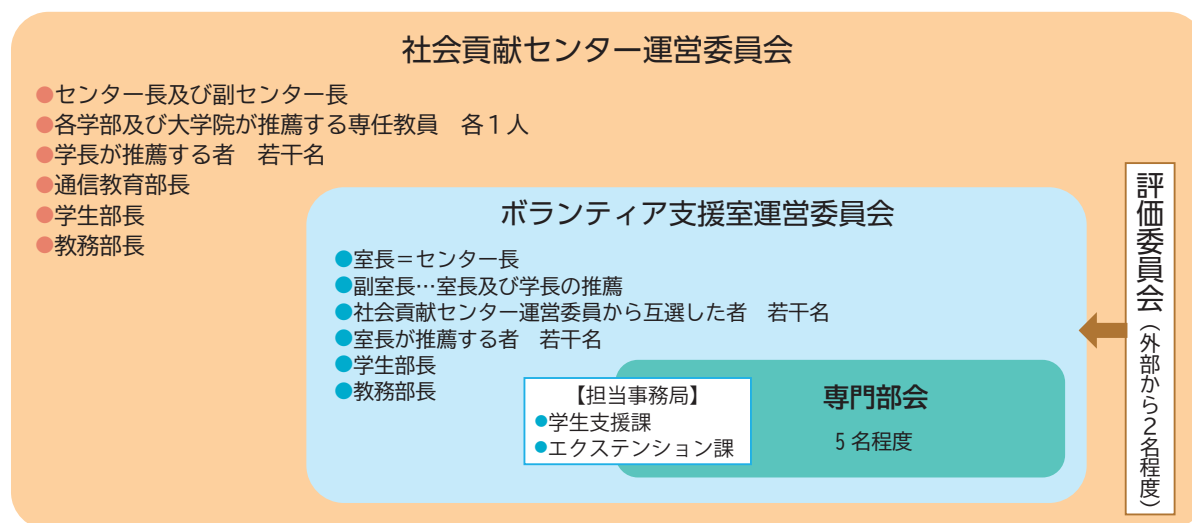
附 則(平成28年規程第90号)

この規程は、平成28年6月1日から施行する。

附 則(平成29年規程第2号)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

社会貢献センター組織図



2022年度 社会貢献センター運営委員会名簿

2023年3月31日現在

| No. | 役職 | 東洋大学社会貢献センター規程 | 学部等 | 氏名 |
|-----|-----------------|---------------------------|-----------------|--------------------|
| 1 | センター長 | 第5条、第8条第1項第1号 | 社会学部 | 高山 直樹 |
| 2 | 運営委員 | 第8条第1項第2号 (各学部及び大学院推薦) | 文学部 | 金子 有子 |
| 3 | | | 経済学部 | 澁澤 健太郎 |
| 4 | | | 経営学部 | 増子 敦仁 |
| 5 | | | 法学部 | ジェイムズ ダニエル ショート |
| 6 | | | 社会学部 | 中村 功 |
| 7 | | | ライフデザイン学部 | 金子 元彦 |
| 8 | | | 理工学部 | 神山 藍 |
| 9 | | | 総合情報学部 | 小瀬 博之 |
| 10 | | | 生命科学部 | 藤村 真 |
| 11 | | | 食環境科学部 | 佐藤 順 |
| 12 | | | 国際学部 | 中村 香子 |
| 13 | | | 国際観光学部 | 古屋 秀樹 |
| 14 | | | 情報連携学部 | 浅野 泰仁 |
| 15 | | | 大学院 | 松永 光雄 |
| 16 | | | 第8条第1項第3号(学長推薦) | 文学部 |
| | | | 法学部 | 清水 宏 |
| | | | 生命科学部 | 川口 英夫 |
| 17 | | 第8条第1項第4号(通信教育部長) | 文学部 | 原田 香織 |
| 18 | 第8条第1項第5号(学生部長) | 法学部 | 早川 和宏 | |
| 19 | 第8条第1項第6号(教務部長) | 国際観光学部 | 東海林 克彦 | |

2022年度 社会貢献センター運営委員会活動記録

第1回：2022年4月13日(水)【書面会議】

検討依頼事項：

- ① 北区及びドナルド・キーン財団との連携によるドナルド・キーン氏の蔵書整理について
- ② 【緊急】講演会「ウクライナの人々や子どもたちは今～現地で起きていることを知り、私たちができることを考えよう～」について

報告事項：

- ① 社会貢献センター運営委員会及びボランティア支援室運営委員組織図について
- ② 2022年度 社会貢献センター運営委員及び各種助成事業等選考分担について
- ③ 地域活性化活動支援事業 派遣申し込み
- ④ 文京区 夏休みこどもアカデミア SDGs 講座について
- ⑤ 【ボランティア支援室報告】 ボランティア支援室活動計画(4.13現在)
- ⑥ 東洋大学 SDGs アンバサダー(個人)更新手続き及び(団体)の認定について
- ⑦ 外部からのボランティア募集について
- ⑧ [参考]【2022年度 春期公開講座】
- ⑨ 【2022年度 学生団体による社会貢献活動助成一覧】
- ⑩ 【地域活性化活動支援事業採択一覧】
- ⑪ ボランティア支援室(育成会)事業計画】
- ⑫ 【ボランティア支援室(育成会)事業計画】

第2回：2022年5月25日(水)【書面会議】

報告事項：

- ① 地域活性化活動支援事業(追加募集)他について
- ② 学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト(追加募集)について
- ③ ウクライナ関連 特別講演会 全3回
- ④ 特別講演会「正しく怖がるインターネット～事例に学ぶ情報モラル～」
- ⑤ 北区及びドナルド・キーン財団との連携によるドナルド・キーン氏の蔵書整理について
- ⑥ ボランティア支援室報告
 - ・文京区内社会貢献関連施設スタディーツアー
 - ・ゴミの日のクリーンアップ活動「ゴミ拾い王は俺だ！文京区ゴミ拾い選手権」
 - ・カンボジアフェスティバル
 - ・ボランティア支援室スタッフ活動報告
- ⑦ SDGs 関連事業報告
 - ・2022年度 新規アンバサダー募集について
 - ・SDGs 認知度アンケート「あなたのSDGs」認知度調査
 - ・2021年度 アンケート結果 比較概要
 - ・東洋大学生がワークショップで考えるSDGs(入門基礎編)～SDGsと自分のつながりを考えよう～【SDGsアンバサダー ワorkshopグループ企画】

第3回：2022年6月21日(火) 【書面会議】

検討依頼事項：

- ① 2022年度 自己点検・評価報告書について

報告事項：

- ① 北区及びドナルド・キーン財団との連携によるドナルド・キーン氏の蔵書整理について
- ② 地域活性化活動支援事業の実施について
- ③ 株式会社シード65周年記念事業 映像作成協力について
- ④ 全学総合科目 SDGs 実践講座～17ゴールへの第1歩～
- ⑤ リカレント教育について
- ⑥ 【ボランティア支援室報告】
 - ・SDGs アンバサダーによる各種事業計画等

第4回：2022年7月19日(火) 【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 2023年度 公開講座開講方針について
- ② 2023年度 講師派遣方針について
- ③ 地域活性化活動支援事業の実施について

報告事項：

- ① 北区及びドナルド・キーン財団との連携によるドナルド・キーン氏の蔵書整理について
- ② 2022年度 秋期公開講座について
- ③ 地域活性化活動支援事業の実施について
- ④ 【ボランティア支援室報告】
 - ・企業 CSR スタディーツアー
 - ・SDGs 団体アンバサダー Smile F LAOS フェアトレード ラオスコffee販売
 - ・学生課外活動育成会 デイキャンプで遊ぼう会
 - ・2022年度 東洋大学 SDGs Weeks
 - ・夏休み 中学生のための宿題サポートボランティア

第4回(追加報告)：2022年7月27日(水) 【書面会議】

報告事項：

- ① 社会学部社会福祉学科「社会福祉学総合演習」実習学生の受け入れについて
- ② フィリピンの若者とつくるSDGsアクション
- ③ いわき市の農漁業現状を発信するスタディーツアー
- ④ SDGs カフェ ジェンダー編「We Body」ーWomen's body is「We Body」
- ⑤ Hands to Hands 2022春

第5回：2022年8月27日(土) 【書面会議】

報告事項：

- ① 東洋大学 SDGs アンバサダー要項の改正(案)について
- ② ボランティア・社会貢献活動等、相談スペースのトライアル設置に関する要望について
- ③ 2022年度企画 SDGs アンバサダー自己評価票について
- ④ 地域活性化活動支援事業の実施について
- ⑤ 2023年度以降、公開講座実施に際しての雨水会との連携について

第6回：2022年9月16日(金) 【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 予算要求について
- ② 公開講座 SDGs コースの SDGs アンバサダー無料受講について

報告事項：

- ① 春期公開講座報告について
- ② 講師派遣報告について
- ③ 中野区「少年・少女野球教室」開催について
- ④ 赤羽台キャンパスにおけるボランティア・社会貢献活動等、相談スペースのトライアル設置に関する要望について
- ⑤ ドナルドキーン氏蔵書整理 進捗状況について
- ⑥ ボランティア支援室各種事業報告
 - ・カーボンニュートラルはじめの一步 「SDGs と気候変動と大学と…」
 - ・Toyo Eid Celebration Party 東洋大学イード祭
 - ・フェアトレードの普及促進を目的としたラオス産オリジナルコーヒーの販売「キックオフ」(Smile F LAOS)
 - ・SDGs カフェ スペシャルオリックス(SO) ってなーに？
 - ・東洋大生がワークショップで考える SDGs「これからの働き方と働きがいについて考える」
 - ・【NPO 法人 キッズドア】東洋大学キャンパスツアー
 - ・文京子どもアカデミア講座 「世界と日本の災害と子どもたち」
 - ・河口湖畔清掃ボランティア
 - ・フィリピンの若者たちとつくる SDGs アクション
- ⑦ ボランティア支援室各種事業計画
 - ・SDGs カフェ ジェンダー編 「We Body」
 - ・東洋大学 SDGs コンテスト

第7回：2022年11月2日(水) 【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 2023年度 地域活性化活動支援事業について(教員と学生が一緒に活動)
- ② 2023年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び2022年度社会貢献活動に対する表彰について(学生のみ活動)

報告事項：

- ① 地域活性化活動支援事業実施
- ② 北区及びドナルド・キーン財団との連携によるドナルド・キーン氏に係る各種事業について
- ③ 【ボランティア支援室報告】
 - ・SDGs Weeks 各種企画実施中
 - ・ボランティアやっただけで終わらせないための「対話のシカタ」課外活動育成会支援事業

第8回：2022年12月8日(木) 【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 2023年度 公開講座開講に伴う非常勤講師への依頼について

報告事項：

- ① 社会貢献事業実施状況調査について
- ② 北区及びドナルド・キーン財団との連携によるドナルド・キーン氏に係る各種事業について
- ③ 東洋大学の起業家とアントレプレナーシップ 公開講座実施について
- ④ SDGs Weeks 各種報告
- ・コスメバンクプロジェクト2022 (第2弾) Hands to Hands 実施について
 - ・盲導犬体験会実施について
- ⑤ ボランティア支援室 実施計画
- ・福島の子どもに寄り添うプログラム(課外活動育成会企画) 実施について
 - ・東洋大学生が宮城県 南三陸町に行き見て、聞いて、考える 宿泊スタディーツアー ～復興を遂げたこれからの東北に必要なものとは?～ (課外活動育成会企画) 実施について

第9回：2023年1月20日(金) 【書面会議】

報告事項：

- ① 2023年度 全学総合 SDGs 実践講座(案) 及び2023年度募集要項他について
- ② 甫水会との「東洋大学公開講座に関する確認事項(案)」について
- ③ 地域活性化活動支援事業実施について
- ④ 学生団体による社会貢献活動奨励プロジェクト助成金変更について
- ⑤ ボランティア支援室報告
- ・SDGs Week EXPO 2022見学会
 - ・文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会 東洋大学のSDGs 推進に関する取り組み
- ⑥ ボランティア支援室実施計画
- ・災害救済ボランティア講座 締め切り延長中
 - ・感染症まん延期に大地震! あなたはどう、生き延びる?～首都直下型地震に備える! 東洋大学宿泊サバイバル体験2023～【課外活動育成会費企画】
 - ・「被災地のまちづくりを考え発信するスタディーツアー」実施について【課外活動育成会費企画】 締め切り延長中

第10回：2023年2月9日(木) 【書面会議】

審議事項：

- ① 東洋大学社会貢献センター規程の一部改正について

報告事項：

- ① 2022年度 公開講座等実施一覧
- ② 2023年度 春期公開講座等実施予定一覧
- ③ 2022年度 講師派遣実施一覧

- ④ 全学総合 SDGs 実践講座について
- ⑤ 地域活性化活動支援事業実施について
- ⑥ 2023年度 地域活性化活動支援事業 一次募集選考結果
- ⑦ 東洋大学生が宮城県 南三陸町に行って見て、聞いて、考える 宿泊スタディーツアー
～復興を遂げたこれからの東北に必要なものとは？～（課外活動育成会企画）実施について
- ⑧ 社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会、課外活動団体報告会、地域活性化活動支援事業報告会について

第11回：2023年2月22日(水) 【書面会議】

報告事項：

- ① 2022年度 公開講座ポイント獲得者数について
- ② SDGs コンテスト結果発表
- ③ 2022年度 東洋大学社会貢献活動表彰について
- ④ 災害救済ボランティア講座について
- ⑤ 感染症まん延期に大地震！あなたはどうか、生き延びる？～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験2023～【課外活動育成会費企画】について

第12回：2023年3月7日(火) 【書面会議】

審議事項：

- ① リカレント教育将来構想検討会 WG 検討報告(案) について
- ② 地域活性化活動支援事業 継続活動について

報告事項：

- ① 地域活性化活動支援事業活動報告及び現地団体アンケート結果について
- ② 2022年度 SDGs アンバサダー自己評価及び2023年度継続手続きについて
- ③ 2023年度 学生団体による社会貢献活動助成について
- ④ 2022年度 学生団体による社会貢献活動助成報告について
- ⑤ 被災地のまちづくりを考え発信するスタディーツアーについて

第13回：2023年3月15日(水)

報告事項：

- ① 2022年度予算執行報告及び2023年度予算執行計画について
- ② 内部評価の結果について
- ③ ドナルド・キーン氏の蔵書整理・調査プロジェクトについて
- ④ リカレント教育将来構想検討会 WG 検討報告について
- ⑤ 2022年度 「地域」活動報告会・交流会について
- ⑥ 2022年度 SDGs 活動報告について
- ⑦ 赤羽台ボランティア支援室トライアルオープン
- ⑧ 献血活動の協力（本郷ロータリークラブ）について

生涯學習部門

■ 公開講座

■ 資格講座

■ 講師派遣

生涯学習部門の歴史的背景

1. 公開講座の歴史的背景

本学の前身である哲学館では、創立直後に日曜講義として一般に向けて仏教哲学を中心に講じる機会を設けたとの記録がある。これは、創立者井上円了が、新しい情報として入手していたアメリカ等で行われていた「サマースクール」とその日本版とも呼ぶべき通信講学会でその実施を経験していた夏期学校等に影響を受けつつ実施されたものであると思われる。日本でも非常に早い時期の実施であり、創立以来、本学が一貫して教育を広く民衆に提供する役割を果そうとしてきたことの証でもある。

第2次世界大戦後、多くの国立大学で周辺住民や一般社会人を対象にした公開講座が開かれ、その伝統は現在に引き継がれている。本学でも、特に教員の免許法認定講習は1949（昭和24）年という早い時期から実施され、1986（昭和61）年度までに330回も開講したという歴史を有する。また、1979（昭和54）年には「市民大学講座」の企画が学長により提起され、地域の人々に、大学の持つ知的な資源を提供する社会貢献事業は一貫して重視されてきたものであった。

高度経済成長を遂げた日本の新しい社会にあって、人々の生涯にわたる学習への要求はますます高いものとなり、その期待を受けて、1975（昭和50）年代後半になるといくつかの国立大学に公開講座のためのセンターが設けられ、組織的な公開講座事業が始まった。

明治期の設立当初から高等教育の拡張を自らの使命としてきた私立大学の伝統校は、公開講座を独自のスタイルで発展させてきた歴史があった。生涯教育の制度化が世界的な課題となり始めた時期、私立大学はそれぞれのミッションに沿った公開講座の組織化を進めた。

政府は、1990（平成2）年、生涯学習の基盤整備に関わる新しい法律を制定した。それまでの社会教育法と並立する形となり、人々は多様な学習機会を享受することになった。この時期、特に高等教育機関に対する期待は高いものであったため、生涯学習に関する包括的な法律の制定よりも、生涯学習に資する公開講座の設置においては大学自身の方が早く対応していたことになる。

本学に生涯学習センターが設置されたのは、1997（平成9）年であった。創立期以来の理念を守ろうとする伝統を引き継ぎ、多様な公開講座実施の経験を踏まえ、一層組織的に大学の知を地域社会に還元していこうとする動きであった。その後、キャンパス拡張に伴って新たに発生した近隣自治体との連携の必要等から、公開講座は継続的な改変・拡充を経ながら発展して現在に至る。また、2020年度からは、コロナウイルス「COVID-19」の影響もあり、Webを利用したオンライン講座の展開を行っている。対面とWeb型のハイフレックス型で講座を展開することで多様なニーズに応えられるような講座展開を行っている。

2. 講師派遣事業の歴史的背景

現在の本学の講師派遣事業は、創立者である井上円了による全国巡回講演に由来する記念事業として、没後80年を経た1999（平成11）年に開始されたものである。

哲学館創立直後の1888(明治21)年、井上円了は1年間の欧米視察に出かけたがそのことを通じて、「日本と日本人の改良」が必要であるとの認識に至る。その後、円了は哲学館の財政危機を脱し大学設立のための開設資金を得るために、全国を巡回し講演をすると共にその後募金をお願いするという計画を立てる。既に卒業生を輩出していたことや講義録の配信による通信教育を進めていたこともあり、全国各地に円了を招聘しようとする人物が存在していた。そして、いよいよ1890(明治23)年11月より、円了は自らが全国各地に赴いて講演をする教育活動に着手したのである。欧米への視察により、ケンブリッジ大学を起点としてイギリス各地及びアメリカにおいて急速に発展していた大学の構外講義、いわゆるユニバーシティ・エクステンション事業をつぶさに見聞して来た円了にとって、これは日本における大学拡張への着手であったと言えよう。

その後、1898(明治31)年～1902(明治35)年、1906(明治39)年～1919(大正8)年と講演旅行を続け、全国で実施された巡回講演は合計で5,129回を数えた。講演は、村や町の小学校の講堂やお寺等で開催され、延べ130万人を超える人々がその講演を聴いたとされる。この偉業は、今日まで、誰も手の届かない回数の講演である。受け入れた地域の人々は、「井上円了博士」が直接出向いての講演ということで、地域を挙げて歓迎したとされる。当時こうした講演を聞く機会を持たなかった民衆が多数聴講した様子が、円了による記録のみならず、全国各地で記録され今日まで保存されている。こうした講演をきっかけとして、ご寄付を頂くこととなり、本学はまさに日本各地の人々の貴重な志によって支えられ、その基礎が築かれたと言っても過言ではない。

1997(平成9)年に設立110年を迎えていたこともあり、「110年目の御礼」と題するプロジェクトが企画され、1999(平成11)年度には創立者井上円了の没後80周年を記念した事業が構想された。そのひとつが、創立時に社会から受けた支援(寄付金)への御礼と、創立者の精神を活かした社会貢献としての講師派遣事業であった。同年度から始まった講師派遣回数は、22年間で2,325回に達した。それでもなお、創立者の講演回数には遠く及ばず、この事業は今後も継続し続けなければならないものである。

1999(平成11)年に開始された講師派遣事業は、23年間で全国各地に2,374件の実績を残すことができた。本事業は、長く高校生を対象とした内容と、一般成人を対象とした派遣とに区分されてきた。高校では2000(平成12)年度より情報化や国際化などに対応した現代的な課題を扱う「総合的な学習の時間」が本格的に導入された。文部科学省によると、「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする」(文部科学省HPより引用)とされており、現代社会の課題を専門的な立場から研究している大学教員による講演は、そうした思考の材料を提供する意味で大いに貢献するものであった。講師派遣事業の存在が知られると、2001(平成13)年度には100件もの依頼が殺到した。ただし、いわゆる学力低下論がマスコミ等で喧伝されるにつれて、総合的な学習の時間への評価は二分されるようになり、2011(平成23)年度より実施された新しい学習指導要領では、実質的にその時間数が減る。さらに、教育目標のねらいが明確に示され、全体計画や単元計画を綿密に立てて指導することと

なり、教科横断的な領域において体験的な学習活動がより重視されるようになった。そうした動きに連動するかのように、高校の総合的な学習の時間に対応した講師派遣の申し込みは2012（平成24）年度より激減した。

一般成人を対象とした講師派遣は、公民館などの社会教育施設及び関連施設において開催される住民対象の講座、教育委員会主催の家庭教育学級や高齢者学級、市民大学等、そして社会教育関係団体による事業等、派遣を求める主催団体は多様であった。

2015（平成27）年度には、グローバル教育の深化の一環として、本学が有する他国文化の知識を企業の海外活動に資するよう「企業研修支援プログラム」をスタートさせた。本プログラムは、2016（平成28）年度より有料とし、2018（平成30）年度からは「研修支援プログラム」と名称を改め、企業のみならず各種団体でのスキルアップ研修に対応した。2016（平成28）年から2019年度においては、小中高等学校や特別支援学校に向けて、五輪をはじめスポーツに関する講義を行う「オリンピック・パラリンピック学習支援講座」を設けた。

2020年度では、コロナウイルス「COVID-19」の影響により、Web オンラインを利用した講師派遣を初めて実施した。また、本学のSDGs達成に向けた取り組みの1つとして、小中高等学校や特別支援学校を対象とした「SDGs達成学習支援プログラム」を開始し、今年度は18件が実施に至った。

生涯学習部門

2022年度 公開講座と講師派遣事業の概要

1. 公開講座

「オープン講座」、「エクステンション講座 A・C」、「リカレント講座 R」「文化公演」、「その他（文京アカデミア講座、川越小・中学生サマースクール等）」、「資格講座」という5区分で実施をしている。2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に配慮をしつつ対面形式、及び Web 形式で講座を開講した。

対面式については、感染防止対策（定員の削減、座席間距離の確保、検温、机等の消毒など）を行いながらの実施となった。それぞれの概要は次の通りである。

2021年度に引き続き「公開講座ポイント制度」を実施。有料エクステンション講座を受講すると、講義の時間および出席率に応じて「公開講座ポイント」が付与され、学期末に「修了証[賞状]」が贈呈される。受講者のモチベーションを上げることを目的にしている。

1) オープン講座（無料）

2015（平成27）年度まで「市民大学講座」「学術講演会」として開講されていた無料講座を2016（平成28）年度より合わせて「オープン講座」と名称変更し、各キャンパスを会場として実施している。

春期白山キャンパスでは、「カーボンニュートラル（脱炭素）～なぜ？ どうする？～」、「無意識を鍛える－変化の時代を生き抜くための円了100の言葉－」をテーマに講座を開講した。秋期は、「井上円了の真宗観」、「災害の心理 ～避難・パニック・流言について～」をテーマに開講した。

2) エクステンション講座（A, C）

教養や最新研究や事例まで幅広いテーマの講座を取り扱う A 講座、地域と連携した C 講座を設けており、その中でもさらに「歴史コース」「文学コース」「哲学・宗教コース」「人生100年コース」に分類して講座を展開している。

2022年度も引き続きパンデミックの影響により感染症対策を行いながら講座を開講することを余儀なくされたが、Web 講座も継続して実施し、対面とのハイフレックス形式で講座を開講した。

春期は、A 講座14コース、C 講座1コース計15講座を開講した。A 講座では、唯識思想、三国志、村上春樹、中国古典詩、介護など、多種多様なテーマを取り上げ、その他にも「人生100年コース」からは、著名な講師を招いた「アニメビジネスの現在・過去・未来」や、子供含む家族参加も対象とした「キリンの身体のふしぎ」等の講座も開講していずれの講座も受講者より好評であった。

C 講座では京都府舞鶴と連携し、「海軍鎮守府開庁120年事業の展開～赤レンガを活かした

まちづくり～」というテーマで講座を開講した。

秋期は、A 講座15コースを開講した。

A 講座では、鎌倉幕府、米国中間選挙、源氏物語、年金、SDGs 等をテーマとした講座を開講した。その他、源氏物語や万葉集講座は春期に引き続き開講しており、受講者より定評のある講座である。

いずれの講座も総合大学ならではのテーマ設定で多様な講座を提供することができた。

3) リカレント講座(R)

春期は「デザイン思考」と「複式簿記」をテーマに講座を開講し、秋期は本学卒業生の起業家の方々に講師に招聘して「東洋大学の起業家とアントレプレナーシップ」をテーマにリカレント講座を開講した。アントレプレナーシップ講座では、企業、企業経営、事業成長の経験を学びアントレプレナーシップ(起業家精神)を見出すことを目的とし、講座を開講した。

講演当日は熱意あふれる学生や一般の方が参加をされ、活発な質疑応答、意見交換も行われた。実施後は、ダイジェスト動画を作成し本学 Web サイトにて講演の様子を公開している。

4) 文化公演

林家時蔵氏をはじめ、本学卒業生の落語家を招聘し、文学部及び井上円了哲学センターと共催で、円了ホールで落語公演を実施した。一般約167名、学生約150名と多くの方が参加し大変有意義な講演となった。

5) 資格講座

2016年度より始まった当講座は、学生の就職活動時または就職後、及び社会人の学び直しによるキャリアアップまたは再雇用に必要な資格の取得を目的としている。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を取りながら、Web での開講も並行して実施をした。春期に4 講座、秋期は3 講座実施した。2023年度も感染拡大防止策を行いながら、学内外での周知を徹底するとともに、本学に求められる資格講座のニーズに応えられる仕組みづくりを引き続き行っていく予定である。

2. 講師派遣事業

今年度は、3つのプログラム全体で99件の申し込みがあり、このうち実施に至ったのが84件であった。キャンセル・中止となった15件の申し込みのうち、新型コロナ感染を理由としたものは3件にとどまり、昨年に比べ実施件数が35件増加し、コロナ禍以前(2019年度)の実施件数に迫る勢いを見せた。(図-1)

例年に引き続き、関東の実施件数の比率が突出して高い一方、関東以外の実施件数が昨年に比べ2.2倍に増加し、その全体に占める比率はコロナ禍以前に戻りつつある。(図-1、図-2)

また、実施団体の種別比率は例年とほぼ変わらないなか、SDGs(小・中・高等学校)の申込み件数及び全体に占める比率が、2019年度のプログラム開始当初から徐々に増加している様子が見受けられる。(図-3、図-4)

実際に派遣に応じた講師は、専任教員が42名で実施件数59件と多数を占めており、東洋大学専任教員にとっても重要な役割として認識されている。さらに、名誉教授・元教授・客員教授

14名による25件という数字も明記しておきたい。

テーマについては、「文学・芸術」分野への申し込み（第1希望）が昨年度に比べ8ポイント上昇し、やや大きな伸びを見せたほか、例年通り「教育・子ども」「健康・運動・医療・食」「共生・福祉」分野が人気を博した。（図-5）

図-1 過去5年実施件数

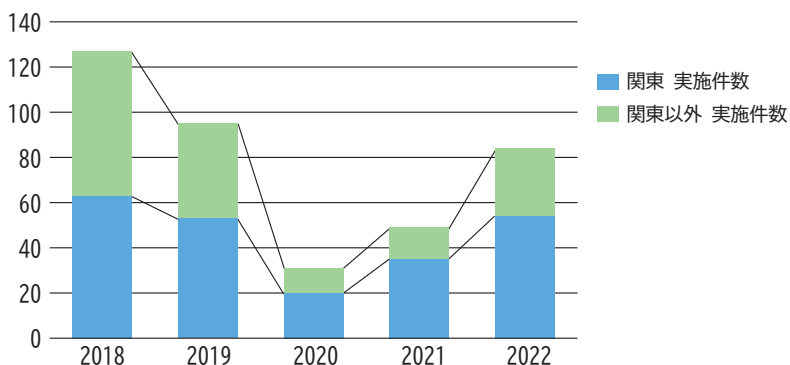


図-2 地域別に見た講師派遣

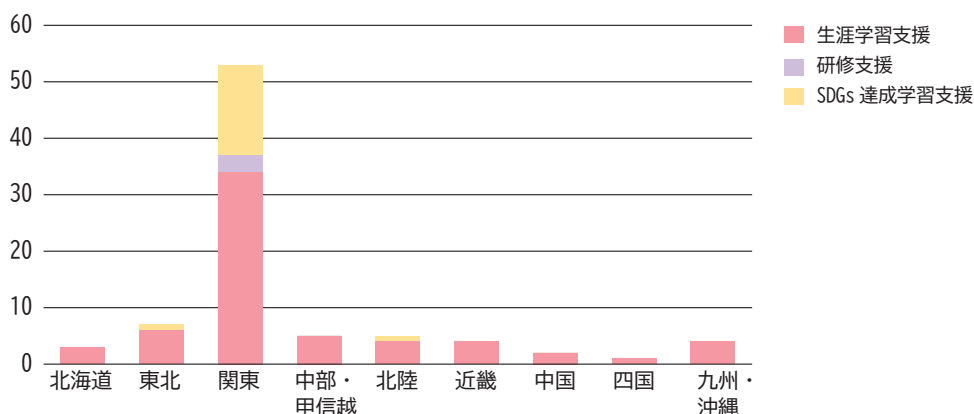


図-3 派遣先団体種別に見た講師派遣

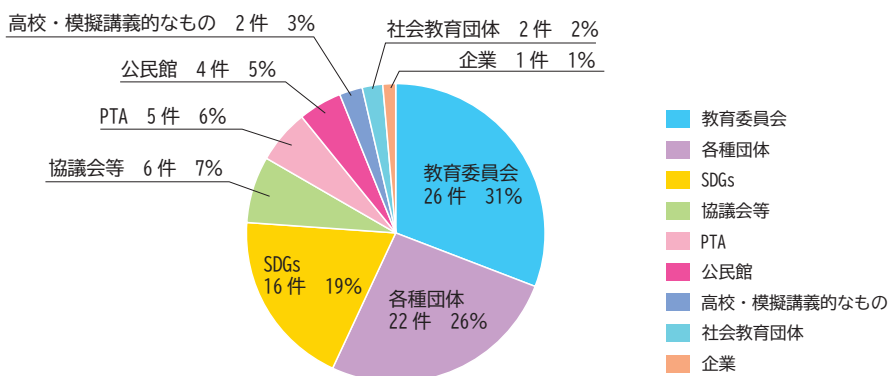


図-4 派遣実施件数一覧(1999年度～2022年度)

| 地域 | 1999年度 | | | 2000年度 | | | 2001年度 | | | 2002年度 | | | 2003年度 | | | 2004年度 | | | 2005年度 | | |
|--------|--------|-----|-----|--------|----|----|--------|----|-----|--------|----|-----|--------|----|-----|--------|----|----|--------|----|----|
| | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 |
| 北海道 | 0 | 12 | 12 | 1 | 3 | 4 | 3 | 3 | 6 | 1 | 5 | 6 | 3 | 2 | 5 | 1 | 4 | 5 | 0 | 4 | 4 |
| 東北 | 6 | 21 | 27 | 0 | 11 | 11 | 9 | 2 | 11 | 15 | 5 | 20 | 9 | 2 | 11 | 6 | 3 | 9 | 2 | 6 | 8 |
| 関東 | 6 | 90 | 96 | 4 | 20 | 24 | 41 | 11 | 52 | 34 | 16 | 50 | 51 | 20 | 71 | 27 | 29 | 56 | 18 | 25 | 43 |
| 中部/甲信越 | 0 | 30 | 30 | 0 | 13 | 13 | 0 | 19 | 19 | 0 | 22 | 22 | 0 | 8 | 8 | 0 | 7 | 7 | 2 | 4 | 6 |
| 北陸 | 0 | 10 | 10 | 0 | 8 | 8 | 0 | 9 | 9 | 0 | 13 | 13 | 0 | 5 | 5 | 0 | 4 | 4 | 0 | 1 | 1 |
| 近畿 | 0 | 20 | 20 | 2 | 2 | 4 | 8 | 4 | 12 | 8 | 2 | 10 | 0 | 8 | 8 | 0 | 7 | 7 | 0 | 4 | 4 |
| 中国 | 2 | 13 | 15 | 0 | 3 | 3 | 11 | 0 | 11 | 8 | 3 | 11 | 0 | 4 | 4 | 0 | 3 | 3 | 0 | 1 | 1 |
| 四国 | 0 | 6 | 6 | 0 | 3 | 3 | 4 | 0 | 4 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 |
| 九州・沖縄 | 2 | 13 | 15 | 0 | 8 | 8 | 6 | 5 | 11 | 8 | 5 | 13 | 0 | 5 | 5 | | 3 | 3 | 0 | 1 | 1 |
| 合計 | 16 | 215 | 231 | 7 | 71 | 78 | 82 | 53 | 135 | 76 | 71 | 147 | 63 | 56 | 119 | 34 | 62 | 96 | 22 | 47 | 69 |

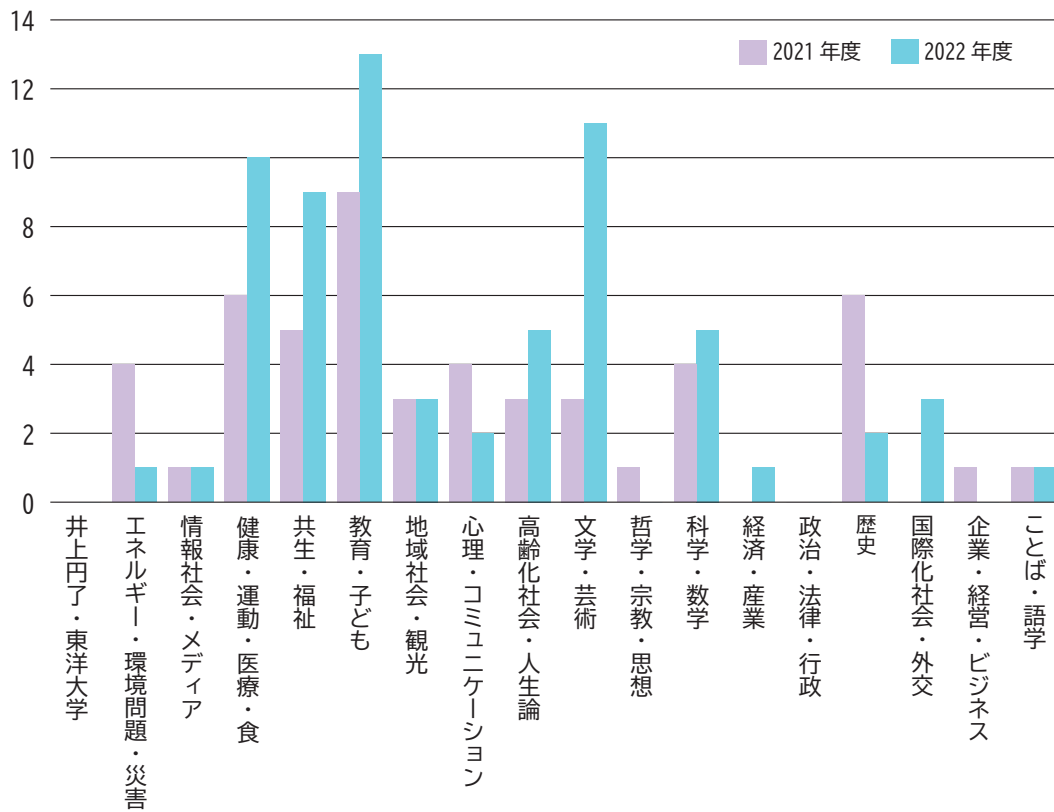
| 地域 | 2006年度 | | | 2007年度 | | | 2008年度 | | | 2009年度 | | | 2010年度 | | | 2011年度 | | | 2012年度 | | |
|--------|--------|----|----|--------|----|----|--------|----|----|--------|----|----|--------|----|----|--------|----|-----|--------|----|----|
| | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 | 高校 | 一般 | 計 |
| 北海道 | 2 | 2 | 4 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 | 4 | 0 | 5 | 5 | 0 | 2 | 2 | 0 | 5 | 5 | 0 | 5 | 5 |
| 東北 | 2 | 3 | 5 | 2 | 7 | 9 | 2 | 6 | 8 | 1 | 8 | 9 | 3 | 5 | 8 | 1 | 7 | 8 | 0 | 5 | 5 |
| 関東 | 18 | 39 | 57 | 16 | 40 | 56 | 19 | 42 | 61 | 13 | 31 | 44 | 10 | 39 | 49 | 17 | 37 | 54 | 5 | 45 | 50 |
| 中部/甲信越 | 2 | 3 | 5 | 5 | 2 | 7 | 3 | 4 | 7 | 0 | 7 | 7 | 1 | 7 | 8 | 1 | 10 | 11 | 0 | 9 | 9 |
| 北陸 | 2 | 1 | 3 | 2 | 2 | 4 | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 4 | 0 | 2 | 2 | 2 | 4 | 6 | 0 | 0 | 0 |
| 近畿 | 2 | 5 | 7 | 1 | 4 | 5 | 0 | 6 | 6 | 0 | 6 | 6 | 1 | 6 | 7 | 0 | 8 | 8 | 0 | 9 | 9 |
| 中国 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 4 | 4 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 2 |
| 四国 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 2 | 2 |
| 九州・沖縄 | 1 | 3 | 4 | 0 | 2 | 2 | 0 | 6 | 6 | 1 | 3 | 4 | 0 | 4 | 4 | 0 | 6 | 6 | 0 | 8 | 8 |
| 合計 | 31 | 57 | 88 | 28 | 58 | 86 | 29 | 67 | 96 | 16 | 64 | 80 | 15 | 70 | 85 | 21 | 79 | 100 | 5 | 85 | 90 |

| 地域 | 2013年度 | | | 2014年度 | | | 2015年度 | | | 2016年度 | | | 2017年度 | | | 2018年度 | | | | | |
|--------|--------|----|----|--------|----|------|--------|-----|-----|--------|---|-----|--------|----|----|--------|-----|----|---|-----|-----|
| | 高校 | 一般 | 計 | 生涯 | 計 | 企業生涯 | 計 | 企業 | オリ | 生涯 | 計 | 企業 | オリ | 生涯 | 計 | 研修 | オリ | 生涯 | 計 | | |
| 北海道 | 0 | 6 | 6 | - | 7 | 7 | 0 | 7 | 7 | 0 | 0 | 5 | 5 | 0 | 0 | 9 | 9 | 0 | 0 | 10 | 10 |
| 東北 | 0 | 7 | 7 | - | 11 | 11 | 0 | 14 | 14 | 0 | 0 | 16 | 16 | 0 | 0 | 14 | 14 | 2 | 0 | 11 | 13 |
| 関東 | 3 | 42 | 45 | - | 49 | 49 | 6 | 53 | 59 | 0 | 9 | 61 | 70 | 5 | 8 | 60 | 73 | 6 | 7 | 50 | 63 |
| 中部/甲信越 | 1 | 4 | 5 | - | 11 | 11 | 0 | 4 | 4 | 0 | 0 | 12 | 12 | 1 | 2 | 12 | 15 | 0 | 1 | 10 | 11 |
| 北陸 | 0 | 1 | 1 | - | 6 | 6 | 0 | 8 | 8 | 0 | 0 | 5 | 5 | 0 | 0 | 6 | 6 | 1 | 0 | 7 | 8 |
| 近畿 | 0 | 4 | 4 | - | 7 | 7 | 0 | 5 | 5 | 0 | 0 | 9 | 9 | 2 | 0 | 9 | 11 | 0 | 0 | 9 | 9 |
| 中国 | 0 | 7 | 7 | - | 4 | 4 | 0 | 5 | 5 | 0 | 0 | 5 | 5 | 0 | 0 | 7 | 7 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| 四国 | 0 | 1 | 1 | - | 1 | 1 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| 九州・沖縄 | 0 | 7 | 7 | - | 3 | 3 | 0 | 6 | 6 | 0 | 0 | 5 | 5 | 0 | 0 | 12 | 12 | 0 | 0 | 6 | 6 |
| 合計 | 4 | 79 | 83 | - | 99 | 99 | 6 | 105 | 111 | 0 | 9 | 121 | 130 | 8 | 10 | 131 | 149 | 9 | 8 | 110 | 127 |

| 地域 | 2019年度 | | | | 2020年度 | | | | 2021年度 | | | | 2022年度 | | | | 合計 | | | | | |
|--------|--------|----|----|----|--------|------|----|----|--------|------|----|----|--------|------|----|----|-----|----|----|------|--------|------|
| | 研修 | オリ | 生涯 | 計 | 研修 | SDGs | 生涯 | 計 | 研修 | SDGs | 生涯 | 計 | 研修 | SDGs | 生涯 | 計 | 高校 | 企業 | オリ | SDGs | 一般(生涯) | 計 |
| 北海道 | 0 | 0 | 5 | 5 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 3 | 3 | 13 | 0 | 0 | 0 | 111 | 124 |
| 東北 | 0 | 0 | 10 | 10 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 1 | 6 | 7 | 58 | 2 | 0 | 1 | 185 | 246 |
| 関東 | 2 | 10 | 41 | 53 | 2 | 7 | 11 | 20 | 1 | 9 | 25 | 35 | 3 | 16 | 34 | 53 | 282 | 25 | 34 | 32 | 910 | 1283 |
| 中部/甲信越 | 0 | 1 | 8 | 9 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 4 | 0 | 0 | 5 | 5 | 15 | 2 | 4 | 0 | 215 | 236 |
| 北陸 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 4 | 5 | 8 | 1 | 0 | 1 | 106 | 116 |
| 近畿 | 0 | 0 | 6 | 6 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 | 4 | 22 | 2 | 0 | 0 | 146 | 170 |
| 中国 | 0 | 0 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 26 | 0 | 0 | 0 | 73 | 99 |
| 四国 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 7 | 0 | 0 | 0 | 35 | 42 |
| 九州・沖縄 | 0 | 0 | 7 | 7 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 | 4 | 18 | 0 | 0 | 0 | 124 | 142 |
| 合計 | 2 | 11 | 82 | 95 | 2 | 7 | 22 | 31 | 2 | 9 | 38 | 49 | 3 | 18 | 63 | 84 | 449 | 32 | 38 | 34 | 1905 | 2458 |

※2014年度より一般(社会人)と高校を一本化し、「生涯学習」支援プログラムとして実施。
 ※2015年度より新規に「企業研修」支援プログラムを開始。
 ※2016年度より新規に「オリンピック・パラリンピック教育」支援プログラムを開始。
 ※2020年度より新規にSDGs(持続可能な開発目標)達成学習支援プログラムを開始。

図-5 第1希望申し込みテーマ件数比較



※キャンセル・中止講演含む

※生涯学習・研修支援プログラム対象

公開講座

2022年度 公開講座実績一覧

①オープン講座(無料) ※文化公演・リカレント無料講座含む

| 学期 | 場所 | No | 形式 | テーマ | 主な講師 | 期間 | 回数 | 総時間数/分 | 受講料 | | | 申込者数 | | | | | | 合計 |
|-----------|----|----|--------|------------------------------------|------------|--------------------|----|--------|-----|-----|---------|------|-----|-----|-----|-------|-----|----|
| | | | | | | | | | 一般 | | 学生 | 一般 | | | 学生 | | | |
| | | | | | | | | | 対面 | Web | 対面/ Web | 対面 | Web | 一般計 | 対面 | Web | 学生計 | |
| 春 | 白山 | F1 | ハイブリッド | カーボンニュートラル(脱炭素)～なぜ? どうする?～ | 小川 芳樹 | 6/4 | 1 | 120 | — | 29 | 41 | 70 | 1 | 4 | 5 | 75 | | |
| | | F2 | ハイブリッド | 無意識を鍛えるー変化の時代を生き抜くための円了100の言葉ー | 吉田 善一 | 6/25 | 1 | 90 | | 29 | 63 | 92 | - | 2 | 2 | 94 | | |
| | 赤羽 | OP | ハイブリッド | 希望の建設・地獄の営繕 2022 | 内田 祥士 | 5/14・5/18・5/25・6/1 | 4 | 360 | | 68 | 141 | 209 | 3 | 4 | 7 | 216 | | |
| | 川越 | OP | ハイブリッド | パルスオキシメーターって何?～身近な医療機器を知ろう | 山内 康司 | 6/25 | 1 | 90 | | 10 | 15 | 25 | 4 | - | 4 | 29 | | |
| | 板倉 | OP | ハイブリッド | 共鳴する『枕草子』と『源氏物語』～二人の「女房」は何を書き遺したのか | 河地 修 | 6/11 | 1 | 120 | | 24 | 130 | 154 | - | - | - | 154 | | |
| 小計(春期) | | | | | | | 8 | 780 | — | 160 | 390 | 550 | 8 | 10 | 18 | 568 | | |
| 秋 | 白山 | 特1 | 対面 | 井上円了と東洋大学発祥之地 麟祥院を知る座禅体験 | 竹村 牧男 | 9/16 | 1 | 90 | — | 20 | - | 20 | 13 | - | 13 | 33 | | |
| | | F1 | ハイブリッド | 井上円了の真宗観 | 竹村 牧男 | 10/8・11/19・12/10 | 3 | 270 | | 52 | 51 | 103 | 1 | 2 | 3 | 106 | | |
| | | F2 | ハイブリッド | 災害の心理～避難・パニック・流言について～ | 中村 功 | 10/22 | 2 | 180 | | 34 | 45 | 79 | 1 | 4 | 5 | 84 | | |
| | | R1 | ハイブリッド | 東洋大学の起業家とアントレプレナーシップ | 山本 聡 他 | 11/22 | 1 | 90 | | 12 | 32 | 44 | 26 | 13 | 39 | 83 | | |
| | | - | 対面 | 日本の話芸ー落語ー | 林家 時蔵 他 | 12/3 | 1 | 90 | | 167 | - | 167 | 150 | - | 150 | 317 | | |
| 小計(秋期) | | | | | | | 8 | 720 | — | 285 | 128 | 413 | 191 | 19 | 210 | 623 | | |
| 合計(春期+秋期) | | | | | | | 16 | 1,500 | — | 445 | 518 | 963 | 199 | 29 | 228 | 1,191 | | |

②エクステンション講座(有料) ※中止講座は除く

| 学期 | 場所 | No | 形式 | テーマ | 講師 (代表) | 期間 | 回数 | 総時間数 /分 | 受講料 | | | 受講者数 | | | | | | 合計 | |
|--------|-----|--------------------------------|--------|-----------------------------------|------------|--|-------|------------|--------|-------|------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | | 一般 | | 学生 | 一般 | | | 学生 | | | | |
| | | | | | | | | | 対面 | Web | 対面/ Web | 対面 | Web | 一般計 | 対面 | Web | 学生計 | | |
| 春 | 白山 | A1 | ハイブリッド | 唯識思想入門 | 竹村 牧男 | 5/14・ 6/11・7/9 | 3 | 270 | 4,950 | 3,300 | 1,650 | 27 | 19 | 46 | 1 | - | 1 | 47 | |
| | | A2 | ハイブリッド | 【中止】『三国志演義』と四川盆地 | 白井 順 | 5/20・5/27 | 2 | 180 | 3,300 | 2,200 | 1,100 | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | A3 | ハイブリッド | 戦国の一揆と宗教～一向一揆を中心に～ | 神田 千里 | 6/25・ 7/2・7/16 | 3 | 270 | 4,950 | 3,300 | 1,650 | 9 | 11 | 20 | - | - | - | 20 | |
| | | A4 | Web | 世界遺産を考える | 鈴木 道也 | 7/16・7/23 | 2 | 180 | - | 2,200 | 1,100 | - | 6 | 6 | - | 1 | 1 | 7 | |
| | | A5 | ハイブリッド | 『源氏物語』全巻を読む「浮舟」「蜻蛉」巻～浮舟の失踪～ | 河地 修 | 5/16～ 7/11 | 8 | 960 | 13,200 | 8,800 | 4,400 | 10 | 8 | 18 | 1 | 3 | 4 | 22 | |
| | | A6 | 対面 | 万葉集講座－万葉の歌・生活・文化－ | 菊地 義裕 | 5/17～ 6/21 | 6 | 540 | 9,900 | - | 3,300 | 22 | - | 22 | 1 | - | 1 | 23 | |
| | | A7 | ハイブリッド | 村上春樹入門～短編小説を読む～ | 石田 仁志 | 5/26・ 6/30・7/28 | 3 | 270 | 4,950 | 3,300 | 1,650 | 10 | 4 | 14 | - | - | - | 14 | |
| | | A8 | 対面 | 中国古典詩入門～李白と杜甫～ | 坂井多穂子 | 7/29 | 1 | 90 | 1,650 | - | 550 | 23 | - | 23 | 1 | - | 1 | 24 | |
| | | A9 | ハイブリッド | <続>介護保険制度の賢い使い方 | 須田木綿子 | 6/3 | 1 | 90 | 1,650 | 1,100 | 550 | 11 | 11 | 22 | 1 | - | 1 | 23 | |
| | | A10 | ハイブリッド | 高経年マンションの価値を維持するために～長期修繕計画を再考する～ | 秋山 哲一 | 6/18 | 1 | 120 | 1,650 | 1,100 | 550 | 17 | 5 | 22 | - | 1 | 1 | 23 | |
| | | A11 | ハイブリッド | スグにできる!洋楽を上手に歌うコツ | 湯舟 英一 | 7/2 | 1 | 120 | 1,650 | 1,100 | 550 | 6 | 2 | 8 | - | - | - | 8 | |
| | | A12 | ハイブリッド | ストレスと自律神経－脳神経科学から見た正体と対処法－ | 堀内 城司 | 7/6 | 1 | 90 | 1,650 | 1,100 | 550 | 17 | 9 | 26 | - | 1 | 1 | 27 | |
| | | A13 | 対面 | アニメビジネスの現在・過去・未来 | 安藤 和宏 他 | 7/9 | 4 | 360 | 6,600 | - | 2,200 | 56 | - | 56 | 52 | - | 52 | 108 | |
| | | A14 | ハイブリッド | キリンの身体のふしぎ－人に話したくなるキリンの魅力－ | 郡司 芽久 | 7/23 | 1 | 120 | 1,650 | 1,100 | 550 | 82 | 34 | 116 | 1 | 2 | 3 | 119 | |
| | | C1 | ハイブリッド | 海軍鎮守府開庁120周年事業の展開～赤れんがを活かしたまちづくり～ | 須賀 忠芳 他 | 6/11 | 1 | 90 | 550 | 550 | 550 | 5 | 3 | 8 | - | - | - | 8 | |
| R1 | 対面 | クリエイティブ分野からみたデザイン思考 | 柏樹 良 | 6/18 | 1 | 120 | 1,650 | - | 550 | 13 | - | 13 | 3 | - | 3 | 16 | | | |
| R2 | Web | 複式簿記の世界への誘い～日商簿記初級にチャレンジしてみよう～ | 増子 敦仁 | 7/5～7/28 | 7 | 630 | - | 7,700 | 3,850 | - | 6 | 6 | - | 1 | 1 | 7 | | | |
| 小計(春期) | | | | | | | | 46 | 4,500 | - | - | - | 308 | 118 | 426 | 61 | 9 | 70 | 496 |
| 秋 | 白山 | A1 | 対面 | 死後の魂の民話考－ヨーロッパと日本の霊性を垣間見る－ | 中里 巧 他 | 10/15・ 10/22・ 11/5・ 11/12・ 11/19 | 5 | 600 | 8,250 | - | 2,750 | 7 | - | 7 | - | - | - | 7 | |
| | | A2 | 対面 | 世界の仏典～その成立と翻訳～ | 渡辺 章悟 | 1/7・ 1/21・1/28 | 3 | 270 | 4,950 | - | 1,650 | 16 | - | 16 | 1 | - | 1 | 17 | |
| | | A3 | ハイブリッド | 鎌倉幕府の創成－源頼朝の人脈と守護・地頭問題を中心に－ | 森 公章 | 10/5 | 1 | 90 | 1,650 | 1,100 | 550 | 19 | 11 | 30 | - | - | - | 30 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|-----------|--------|--|----------------|-------------|---|-----|--------|-------|-------|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 秋 | 白山 | A4 | 対面 | 諸葛孔明のトボス | 白井 順 | 12/10・12/17 | 2 | 180 | 3,300 | - | 1,100 | 10 | - | 10 | 2 | - | 2 | 12 | | |
| | | A5 | ハイブリッド | 『源氏物語』全巻を読む 「蜻蛉」巻～行方も知らず消えし蜻蛉 | 河地 修 | 10/17～12/12 | 8 | 960 | 13,200 | 8,800 | 4,400 | 11 | 7 | 18 | 1 | 3 | 4 | 22 | | |
| | | A6 | 対面 | 万葉集講座 一万葉の歌・生活・文化― | 菊地 義裕 | 11/1～12/6 | 6 | 540 | 9,900 | - | 3,300 | 24 | - | 24 | 1 | - | 1 | 25 | | |
| | | A7 | 対面 | 【中止】運動のススメ～運動継続につなげるヒント～ | 高橋 珠実 | 10/13・10/27 | 2 | 180 | - | - | 1,100 | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | A8 | 対面 | 【中止】トクホ、機能性表示と薬のちがい | 加藤 和則 | 10/21 | 1 | 90 | - | - | 550 | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | A9 | 対面 | 楽しい食育のコツ～味わう力を育み、豊かな感性の芽を伸ばす～ | 露久保美夏 | 11/5 | 1 | 90 | 1,650 | - | 550 | 5 | - | 5 | - | - | - | 5 | | |
| | | A10 | ハイブリッド | ペットへの愛着と悲嘆 | 佐藤 亜樹他 | 11/5・11/12 | 2 | 240 | 3,300 | 2,200 | 1,100 | 5 | 8 | 13 | 2 | - | 2 | 15 | | |
| | | A11 | 対面 | 中間選挙後の結果からアメリカの行方を読み解く | 横江 公美 | 11/12 | 1 | 90 | 1,650 | - | 550 | 12 | - | 12 | 1 | - | 1 | 13 | | |
| | | A12 | ハイブリッド | 年金について考える | 川瀬 晃弘 | 11/15 | 1 | 90 | 1,650 | 1,100 | 550 | 9 | 3 | 12 | 2 | - | 2 | 14 | | |
| | | A13 | ハイブリッド | SDGsと環境問題～私たちが貢献するSDGs～ | 後藤 尚弘 平松 あい | 10/1・10/15 | 2 | 180 | 3,300 | 2,200 | 1,100 | 6 | 3 | 9 | - | - | - | 9 | | |
| | | A14 | ハイブリッド | 【中止】地域はあなたの活躍を期待しています-地域活動に参加するための処方箋- | 小瀬 博之 | 12/3 | 1 | 90 | - | 1,100 | 550 | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | A15 | ハイブリッド | 子どもの声を聴く力 | 西野 博之 森田 明美 | 12/15 | 1 | 90 | 1,650 | 1,100 | 550 | 11 | 30 | 41 | 1 | - | 1 | 42 | | |
| | | 小計（秋期） | | | | | | | 37 | 3,780 | - | - | - | 135 | 62 | 197 | 11 | 3 | 14 | 211 |
| | | 合計（春期+秋期） | | | | | | | 83 | 8,280 | - | - | - | 443 | 180 | 623 | 72 | 12 | 84 | 707 |

※ A14 講座…上記参加者に加えて小学生 17 名・幼児 4 名参加

③文京アカデミア講座

| 学期 | 場所 | No | 形式 | テーマ | 講師 | 期間 | 回数 | 総時間数 / 分 | 受講料 | | | 受講者数 | 合計 |
|-----------|---------|----|----|----------------|-------|------------|----|----------|-----|-----|----------|------|----|
| | | | | | | | | | 一般 | | 学生 | 一般 | |
| | | | | | | | | | 対面 | Web | 対面 / Web | 対面 | |
| 春 | 白山 | - | 対面 | 異文化からみた「思いやり」 | 浅間 正道 | 6/13・20・27 | 3 | 270 | | | | 21 | 21 |
| | | - | 対面 | 世界と日本の震災と子どもたち | 小野 道子 | 8/6 | 1 | 90 | | - | | 29 | 29 |
| 秋 | 文京アカデミア | - | 対面 | 夢と睡眠の心理学 基礎編 | 松田 英子 | 11/9・16・30 | 3 | 270 | | | | 30 | 30 |
| 合計（春期+秋期） | | | | | | | | | | | | 80 | 80 |

公開講座アンケート結果

2022年度春期エクステンションA・C講座(有料)集計結果

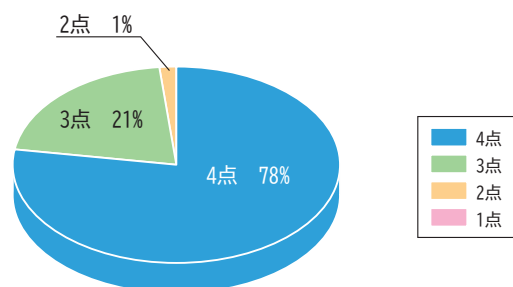
申込者数：463名

回収枚数：188枚

◎受講した講座について(満足度等)

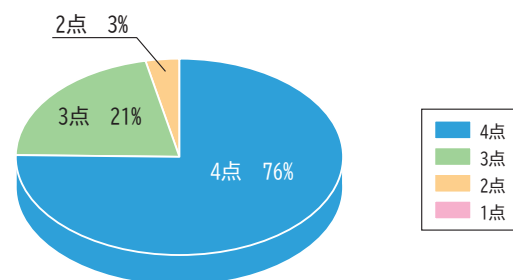
【新たな知見・発見】

| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|-----|----|----|----|
| 146 | 39 | 3 | 3 |



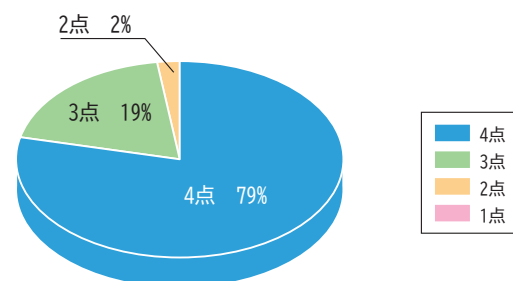
【理解度(分かり易さ)】

| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|-----|----|----|----|
| 142 | 40 | 6 | 0 |



【満足度】

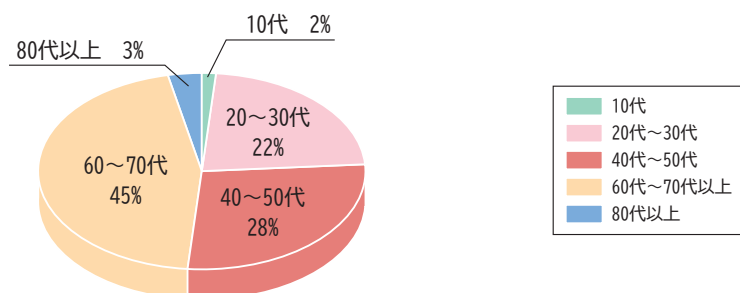
| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|-----|----|----|----|
| 148 | 36 | 4 | 0 |



◎受講者について

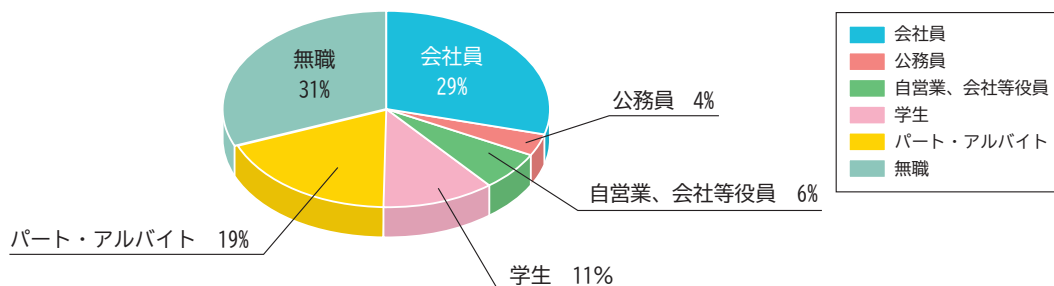
【年齢】

| 10代 | 20～30代 | 40～50代 | 60～70代 | 80代以上 |
|-----|--------|--------|--------|-------|
| 3 | 42 | 52 | 85 | 6 |



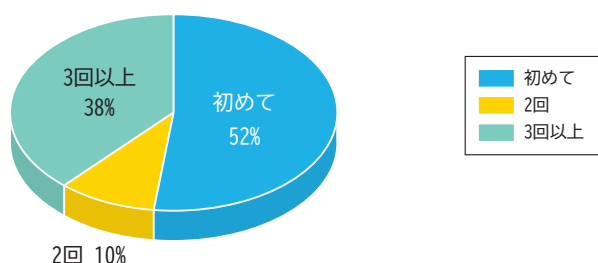
【職業】

| 会社員 | 公務員 | 自営業、会社等役員 | 学生 | パート・アルバイト | 無職 |
|-----|-----|-----------|----|-----------|----|
| 55 | 7 | 12 | 21 | 35 | 58 |



【本学公開講座の受講経験】

| 初めて | 2回 | 3回以上 |
|-----|----|------|
| 98 | 18 | 72 |



【講座の感想等】

[春期：A1 唯識思想入門]

- ・簡単に理解できるものでは無いですが、1000年以上前の時代にじっくりと人の認識について考えをめぐらしていたことに驚きました。
- ・唯識思想を理解するために、最も基本となる考え方を教えて頂きました。資料を手掛かりにこれからも理解を深めたいと思います。
- ・成唯識論中心の講義であり、成唯識論を再確認することが出来ました。入門と銘打っておりますが難しかったです。復習して整理をしています。

[春期：A3 戦国の一揆と宗教]

- ・一向一揆の内容をこれだけ詳しく学んだのは初めてだったので新しい発見があった。
- ・本当の姿は、ドラマで見る信長の本願寺信徒虐殺の印象とは史実は異なるようで、納得いたしました。

[春期：A5 『源氏物語』全巻を読む]

- ・毎回、先生の楽しい話術で、源氏物語の深層に入ることができ、源氏物語の面白さに気付けさせていただいています。ありがとうございます。
- ・自分一人では古典はなかなか読めないのが、大変ありがたかった。しかも単に読むだけではなく源氏物語に関する先生の広い識見に基づいたお話を伺えて楽しかった。
- ・先生の独自の考えを聞くことができ、楽しく講義を受けることができた。

[春期：A6 万葉集講座]

- ・いつ聴いても菊地先生の講義は素晴らしいです。毎回先生の奥深さを感じました。もっと学びたいと思いました。
- ・菊地教授の講座は、毎回あふれ出る知識と資料、よどみのない講義、聞きやすく、わかりやすく、90分があっという間です。東洋大と菊池教授に感謝です。
- ・さまざまな角度から万葉集の世界を教えてくださいました。次回も楽しみにしています。

[春期：A7 村上春樹入門]

- ・資料提示も講義も毎回丁寧で、受講生にも配慮して下さい、ありがたかったです。また受講希望です。
- ・先生のお話も配布していただいた資料も素晴らしかったです。毎回、充実した楽しい時間を過ごさせてくださいました。どうもありがとうございました。
- ・今まで漠然と読んでいたが、ポイントを教えてくださいました理解が深まった。

[春期：A8 中国古典詩入門]

- ・先生の中国語による詩の朗読や、時代背景、人物像を丁寧に説明してくださいのおかげで、詩の奥深さや魅力を発見することができました。ありがとうございました。
- ・漢詩を背景と音で味わうことができ、有意義な体験でした。詩人の人となりを感じることができました。盛唐は書人の顔真卿が好きでしたが、さらに歴史を深めた機会でした。
- ・短時間で要領よくご講義くださり、私にとりましては、知識吸収という意味では大変有意義な講座でした。有難うございました。

[春期：A9 〈続〉介護保険制度の賢い使い方]

- ・とてもわかりやすい説明で、1時間半があっという間でした。私は、介護福祉士であるヘルパーで、保険制度も勉強したはずですが、受験用では、やはり理解できることが少なかったと、改めて思いました。
- ・講義はとてもためになるものでした。介護保険制度の大まかな成り立ちや、現在の利用状況など現実的な話が多くどちらもあまり知らない私には参考になる内容で、受講してよかったです。
- ・身近な事例も含めて、主要な点に的を絞りわかりやすく、良かった。

[春期：A10 高経年マンションの価値を維持するために]

- ・資料も大変充実していました。築40年を超えたマンションですが、少し不安が解消しました。
- ・参考になりました。興味ある学びは本当に楽しい！
- ・お疲れ様でした。内容が濃い講義でした。

[春期：A11 すぐにできる！洋楽を上手に歌うコツ]

- ・英語の歌が上手く歌えず悩んでいたのが、今回の講座を受講したことによって洋楽を上手に歌うコツを教えてくださいました、とても参考になりました。先生から教えていただいた動画を観て、復習したいと思います。
- ・意味から文字に重点を置いていたので歌えないと分かった。耳から聞こえた音を信じてやってみようと思う。
- ・洋楽を歌うときの参考になりました。

[春期：A12 ストレスと自律神経]

- ・わかりやすく楽しく受講できた。
- ・今回この講義を拝聴したことで、ストレスに対し、見方が変わりました。ストレスと上手に付き合っていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ストレスに対する自分の気持ちが楽になる内容でした。

[春期：A13 アニメビジネスの現在・過去・未来]

- ・実務に直結する内容や初めて聞く分野の内容もあり、大変有意義な講義でした。過渡期に差し掛かったアニメ業界について、現役で携わっていらっしゃる方の様々な視点からのご意見が聞けて大変ためになりました。
- ・普段は聞くことができないような業界の裏側のお話まで聞くことができ、非常に満足感があり、有意義な時間を過ごすことができました。本講座を受講することができ、心から良かったと感じています。
- ・制作時だけでなく企画段階でどのような企業がどのような動きをしてアニメが放送されているのか契約やプロデューサーなど複数の立場からのお話を伺うことで理解することが出来てよかったです。

[春期：A14 キリンの身体のふしぎ]

- ・キリンのお話だけでなく、クジラ等の話から入り、キリンはどう「面白く」違っているのか、同じであるのかが、わかりやすく説明され、解剖によって、どんなことが明らかになったのかもわかり、面白かったです。
- ・動物ごとの体の違いを比較することで、人間や他の生き物の特性を知ることができると、体験もふまえてお話して頂き、とても分かりやすく面白かったです。また、キリンが瞬きが少ないなどの知識を家族に話したいです。
- ・郡司先生の、幅広い年代の参加者への配慮のこもったお話し、素晴らしかったです。質問タイムを十分とっていただいたのもありがたかったです。また次回を期待します。

[春期：C1 海軍鎮守府開庁120周年事業の展開]

- ・あらたな発見がありました。日本海の平和を担ってほしいと思います。
- ・ウラジオストクの対面に当たるので、開港されたというのはなるほどと思った。

2022年度春期R（リカレント）講座（有料）集計結果

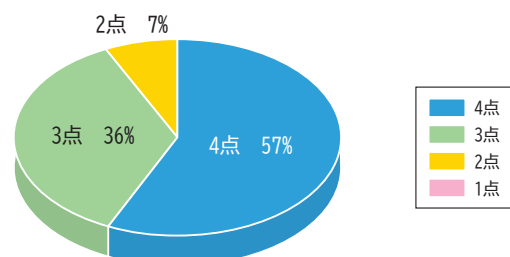
申込者数：23名

回収枚数：14枚

◎受講した講座について（満足度等）

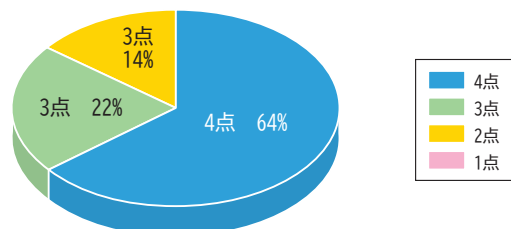
【新たな知見・発見】

| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 8 | 5 | 1 | 0 |



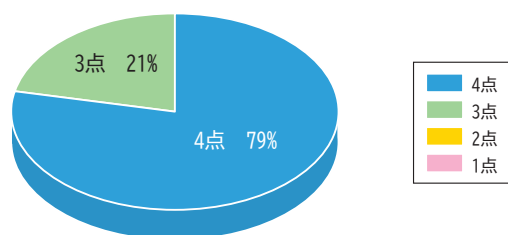
【理解度（分かり易さ）】

| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 9 | 3 | 2 | 0 |



【満足度】

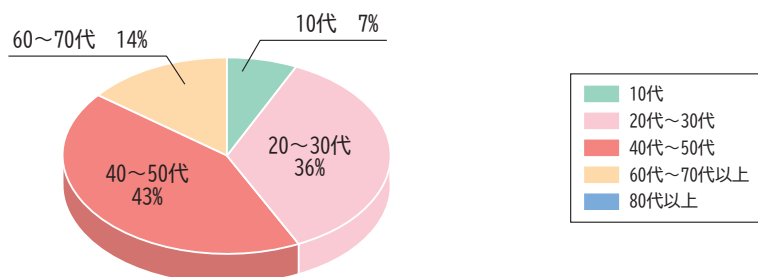
| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 11 | 3 | 0 | 0 |



◎受講者について

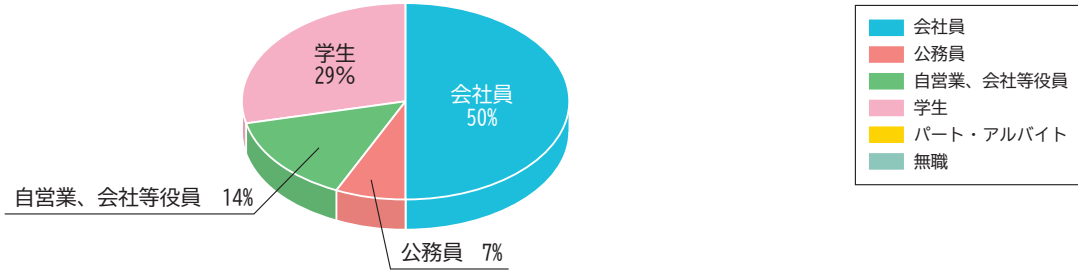
【年齢】

| 10代 | 20～30代 | 40～50代 | 60～70代 | 80代以上 |
|-----|--------|--------|--------|-------|
| 1 | 5 | 6 | 2 | 0 |



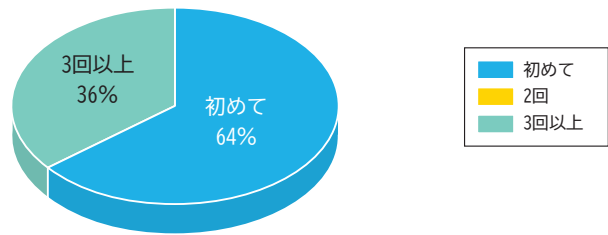
【職業】

| 会社員 | 公務員 | 自営業、会社等役員 | 学生 | パート・アルバイト | 無職 |
|-----|-----|-----------|----|-----------|----|
| 7 | 1 | 2 | 4 | 0 | 0 |



【本学公開講座の受講経験】

| 初めて | 2回 | 3回以上 |
|-----|----|------|
| 9 | 0 | 5 |



【講座の感想等】

[春期：R1 クリエイティブ分野からみたデザイン思考]

- ・ 今回のデザイン思考を早速帰り道から実践しましたが、今まで何の変哲もなかった日常がとても楽しくなりました。
- ・ 社会人になり初めて、大学の授業が実は日常生活、さらには生き方にも影響してくると感じました。
- ・ あっという間の2時間でした。実用的な内容で、仕事への取り組みとして他分野への応用もできそうだと感じています。わかりやすくお話していただいたので、集中して聴いて心に刻むことができました。
- ・ 一般人がアイデアを考えつくには1×1という例えが非常に分かりやすかった。また一般人が良いアイデアを出せるようにするには経験を積むだけでなく自分なりの解釈と、普段から脳を動かす大切さが分かった。

[春期：R2 複式簿記の世界への誘い]

- ・ 初心者にも非常に分かりやすく、授業が毎回楽しみでした。ありがとうございました！
- ・ 人数が少なかったので、双方向型でもよいと思いました。
- ・ 大変わかりやすかったです。

2022年度春期 F 講座(無料) 集計結果

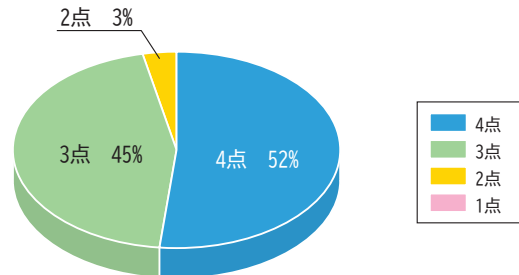
申込者数：169名

回収枚数：60枚

◎受講した講座について(満足度等)

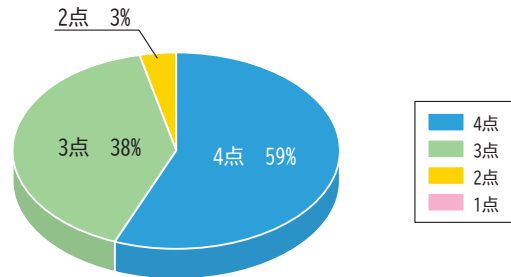
【新たな知見・発見】

| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 31 | 27 | 2 | 0 |



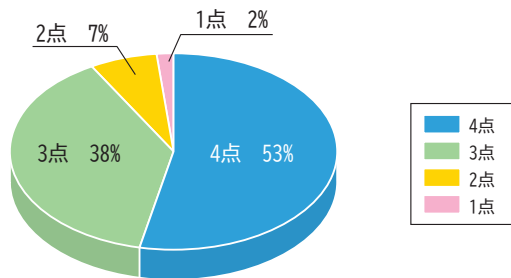
【理解度(分かり易さ)】

| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 35 | 23 | 2 | 0 |



【満足度】

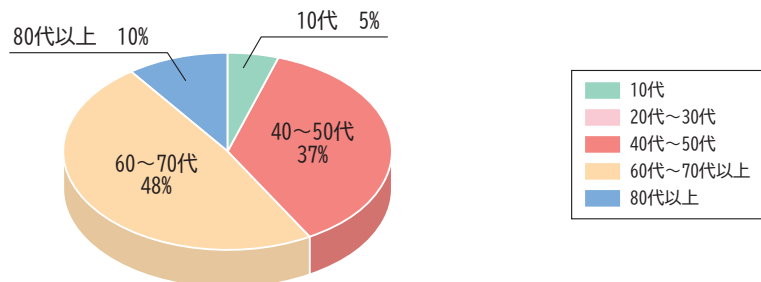
| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 32 | 23 | 4 | 1 |



◎受講者について

【年齢】

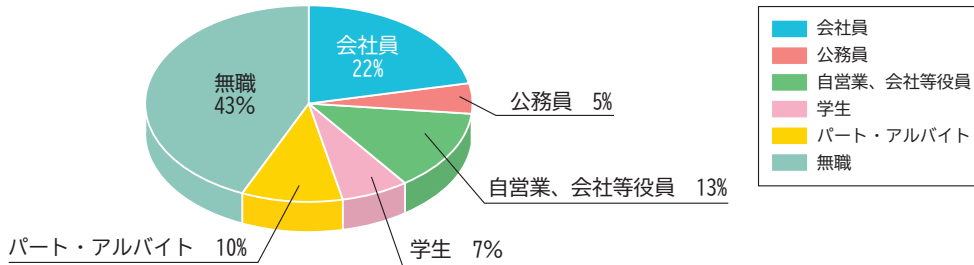
| 10代 | 20～30代 | 40～50代 | 60～70代 | 80代以上 |
|-----|--------|--------|--------|-------|
| 3 | 0 | 22 | 29 | 6 |



【職業】

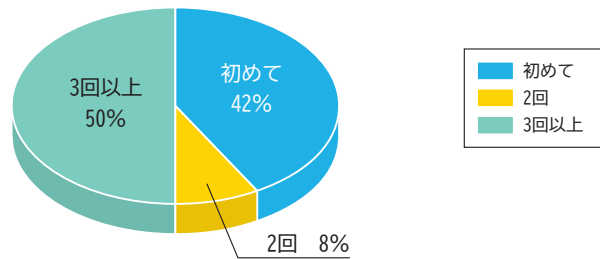
| 会社員 | 公務員 | 自営業、会社等役員 | 学生 | パート・アルバイト | 無職 |
|-----|-----|-----------|----|-----------|----|
| 13 | 3 | 8 | 4 | 6 | 26 |

「その他」内訳…無職：3名、退職：1名



【本学公開講座の受講経験】

| 初めて | 2回 | 3回以上 |
|-----|----|------|
| 25 | 5 | 30 |



【講座の感想】

[春期：F1 カーボンニュートラル(脱炭素)]

- ・ 温室効果ガスの効果と種類に関する基本的なことがわかり今後の私たちの取り組みの基本になる考え方の助けになりました。受講してよかったと思っています。
- ・ 大きなテーマを凝縮して明瞭に講義していただきました。脱炭素は待った無しの取り組み事項と思いました。問題意識も整理され、自身として何をすべきか！まずは日常のなかですべき事に地道に取り組んでまいります。感謝。
- ・ 脱炭素について、ニュース等で大枠は理解していると思っていたが、今回の講義でその原因と対策、そして日本の現状について理解が出来た。

[春期：F2 無意識を鍛える]

- ・ とってもわかりやすい説明で、無意識を鍛える方法は今日からすぐにできることばかりでした。意識してコツコツ続けていきたいです。『井上円了100の金言』を仲間と一緒に読みたいと思いました。
- ・ 意識と無意識の関係と繋がりが、良く整理されていて分かりやすかった。スポーツの練習や仕事の習熟に当てはめると納得できる気がした。無意識で出来たことが出来なくなる年代を迎え、また再意識する重要性も感じた。
- ・ 受講前は難しく考えていましたが、吉田先生のわかりやすい説明で大変有意義な講座でした。いただいた資料、特に「井上円了100の金言」は身近において繰り返し読んでみたいと思っています。

2022年度秋期エクステンションA講座(有料)集計結果

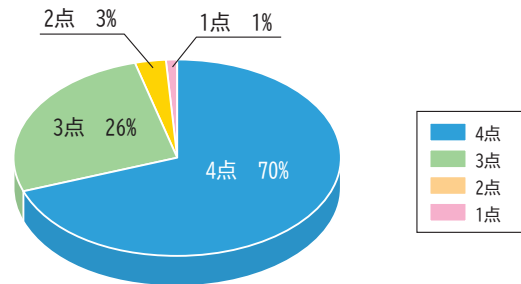
申込者数：211名

回収枚数：99枚

◎受講した講座について(満足度等)

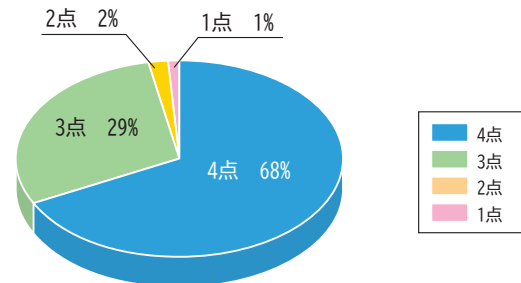
【新たな知見・発見】

| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 69 | 26 | 3 | 1 |



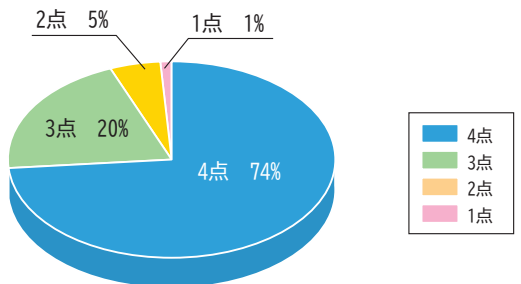
【理解度(分かり易さ)】

| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 67 | 29 | 2 | 1 |



【満足度】

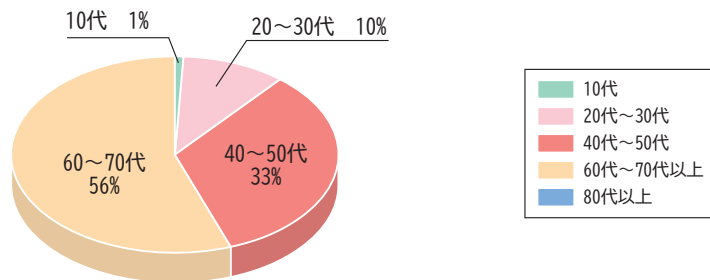
| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 73 | 20 | 5 | 1 |



◎受講者について

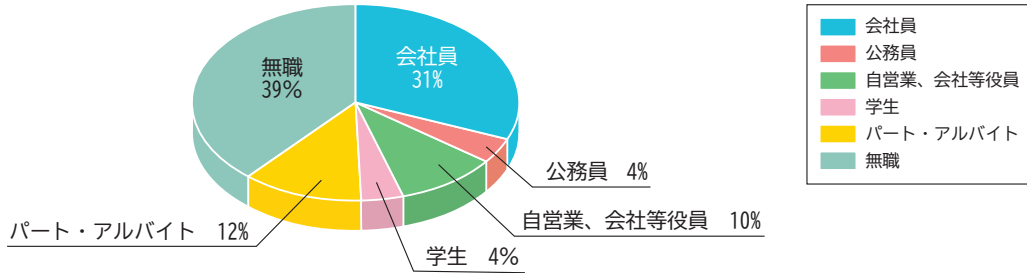
【年齢】

| 10代 | 20～30代 | 40～50代 | 60～70代 | 80代以上 |
|-----|--------|--------|--------|-------|
| 1 | 10 | 33 | 55 | 0 |



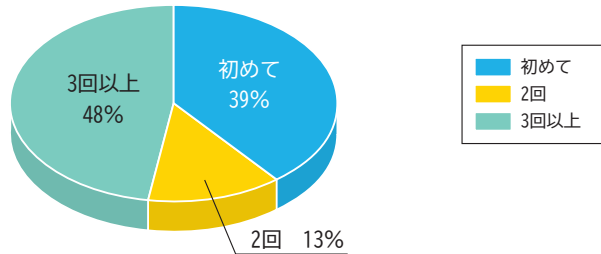
【職業】

| 会社員 | 公務員 | 自営業、会社等役員 | 学生 | パート・アルバイト | 無職 |
|-----|-----|-----------|----|-----------|----|
| 31 | 4 | 10 | 4 | 12 | 38 |



【本学公開講座の受講経験】

| 初めて | 2回 | 3回以上 |
|-----|----|------|
| 39 | 13 | 47 |



【講座の感想等】

[秋期：A1 死後の魂の民話考]

- ・ 東アジアから伝わった死生観（アニミズム）は今、日本にしかないといったお話、ケルトの思想と通ずるところを感じ、興味深かったです。エンデについても個人的にタイムリーな内容で深掘できて嬉しかったです。
- ・ 民話、怪異など一見俗っぽく、学術研究の対象ではないように見えるが、今回の講座を通して心性史としての意義があることを学んだ。
- ・ 毎回二人の先生の講座を楽しく受講させていただいています。

[秋期：A2 世界の仏典]

- ・ 仏典の成立過程とアジアにおける展開がよくわかりました。翻訳の実践についてももう少し具体的に知りたくなりました。
- ・ 経典の歴史や成り立ちを新しく感じられました。又、続きを希望します。
- ・ 内容が豊富で講義回数を増やして欲しかった。

[秋期：A3 鎌倉幕府の創成]

- ・ 人気の高い大河ドラマの鎌倉殿にまつわる歴史的背景を取り上げていただいたので、高い関心がありました。史実の説明を資料をもとに行っていただき、高い知見を得ることができました。関連書物も是非読みます。

- ・血筋の濃淡が権力構造に大きく影響を与えていたことがよく理解できた。
- ・講師の説明が明瞭で聞きやすく解らないことが理解できました。

[秋期：A4 諸葛孔明のトポス]

- ・白井先生の講義がわかりやすく、また受講したい。
- ・興味深い内容でした

[秋期：A5 『源氏物語』全巻を読む]

- ・今回もとても充実した時間を過ごすことが出来ました。今回から昼の講義になったことで、自分自身時間的に余裕が持てました。河地先生、次回も楽しみにしています。ありがとうございました。
- ・本文の解説だけでなく、その背景やほかの巻との関連、紫式部の意図など大変興味深く拝聴しました。また先生の現在の問題意識などもお聞きできて有意義でした。ありがとうございました。
- ・教授の幅広い知識を受けることが出来た。

[秋期：A6 万葉集講座]

- ・当時の時代背景や制度、地図の解説と相まって、歌の中の景色や人物がいきいきと目に浮かび、笑い声、体温、心の動きまで伝わってきました。楽しく、とても知的好奇心が刺激されました。
- ・万葉集については今までは文学的な角度で見えていたが、今回、詞書きの面白さを初めて知り、史料としての価値の大きさを知り、大変興味深く楽しく受講できた。
- ・わかりやすい講座でした。いつも先生の幅広い知識には驚かされます。万葉集だけでなく他の資料もご紹介くださるので、より深く学べました。

[秋期：A9 楽しい食育のコツ]

- ・感じた味を言葉で表現する難しさを知った。他の人が感じた事を評価とかで決めつけてしまうなど普段してしまっている事に気付かされた。大変参考になった。
- ・「おいしいね」に同調しなければならない空気に、息苦しさを覚えていました。感想の「共感」ではなく「共有」をとという先生のお話で心が軽くなりました。

[秋期：A10 ペットへの愛着と悲嘆]

- ・ペットの存在が心の拠りどころにもつながることが新たな発見でした。参加者の方々との話し合いにおいても、ペットは家族という認識を確認できました。
- ・自分のペッロス状態を俯瞰で見る経験ができました。寂しい悲しいは当たり前で、乗り越えたり克服することではないというのが目から鱗でした。
- ・何かを「言う」のではなく「聴く」ということが、いろいろな場面に通じるな、と思いました。

[秋期：A11 中間選挙後の結果からアメリカの行方を読み解く]

- ・常に米国の記事ばかりを追いかけている訳ではないので知識は断片的だが、先生の話で思い出したことや、そこに繋がるのかと新たな気付きがあったり、トランプが生まれた背景なども知ることが出来て大変有意義でした。
- ・アメリカの選挙について今までと違った見方で、とても楽しく興味を持って最後まで聞くことができました。ありがとうございました。本選挙の時も講座があったら参加したいです。
- ・とても分かりやすくアメリカ大統領選挙と中間選挙について解説して頂いた。

[秋期：A12 年金について考える]

- ・年金について知っているつもりでしたが、意外とあやふやだったと気付きました。基本的なことから教えていただき、とても勉強になりました。最終的に政治の話になり、もっと関心を持たなくてはと改めて思いました。
- ・わかりづらい年金制度を、とてもわかりやすく説明いただいた。声のトーンも非常に、聴きやすかった。
- ・自身の年金に対する意識が今まで非常に他力的であった。

[秋期：A13 SDGs と環境問題]

- ・気候災害は頻発し、2019年、日本学術会議は「地球温暖化」への緊急メッセージを発出しています。カーボンオフセットの取り組みこそ最重要課題と考えます。学術分野での危機感の欠如が懸念されてなりません。

[秋期：A15 子どもの声を聴く力]

- ・大人が幸せにならなければいけない。とても強く心に残りました。日頃より、子どもが楽しむには職員が楽しくなければいけないと声を掛け合っています。少しでも子どもに寄り添えるようにしていきたいです。
- ・西野先生の志の高さ、子どもに対する全幅の信頼と献身の活動に感服しました。一言一言が実践に基づいたお話で、本当に考えさせられました。ありがとうございました。
- ・たくさんの子どもの育つためには勉学だけでなく心身の成長や発達が必要なはずだが、現代は子ども自身を大切にする“To be”がとても軽んじられていると感じた。

2022年度秋期特別企画・リカレント・オープン講座(無料) 集計結果

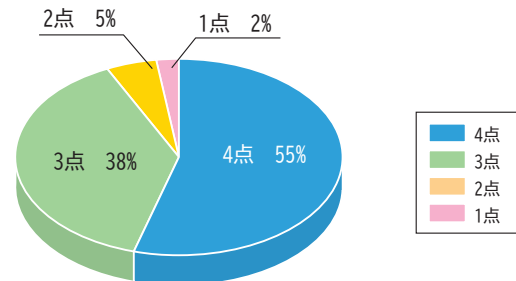
申込者数：282名

回収枚数：99枚

◎受講した講座について(満足度等)

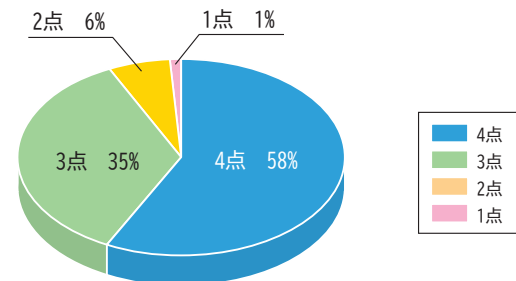
【新たな知見・発見】

| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 54 | 38 | 5 | 2 |



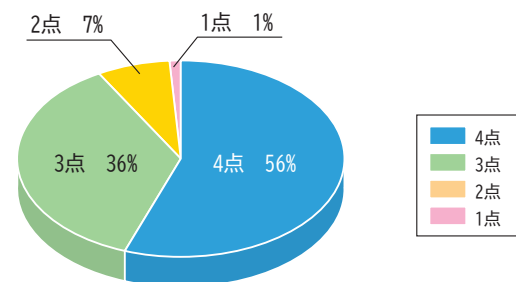
【理解度(分かり易さ)】

| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 57 | 35 | 6 | 1 |



【満足度】

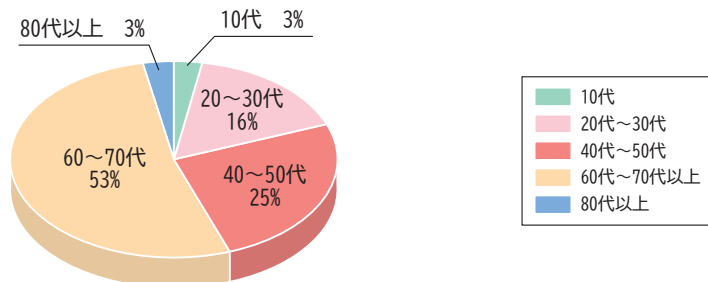
| 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |
|----|----|----|----|
| 55 | 36 | 7 | 1 |



◎受講者について

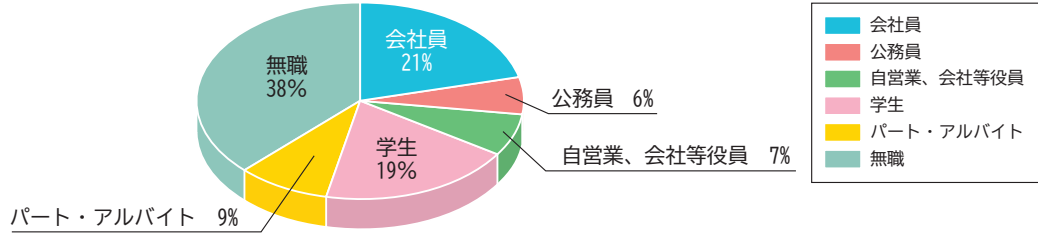
【年齢】

| 10代 | 20～30代 | 40～50代 | 60～70代 | 80代以上 |
|-----|--------|--------|--------|-------|
| 3 | 16 | 25 | 52 | 3 |



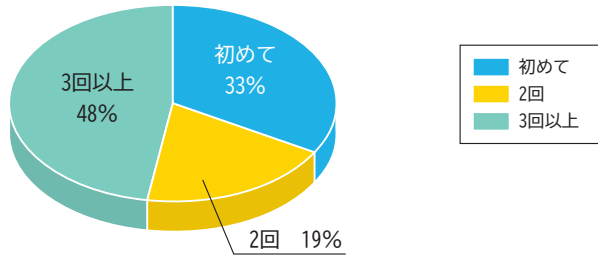
【職業】

| 会社員 | 公務員 | 自営業、会社等役員 | 学生 | パート・アルバイト | 無職 |
|-----|-----|-----------|----|-----------|----|
| 21 | 8 | 7 | 19 | 9 | 38 |



【本学公開講座の受講経験】

| 初めて | 2回 | 3回以上 |
|-----|----|------|
| 33 | 19 | 47 |



【講座の感想等】

[秋期：特1 井上円了と東洋大学発祥之地麟祥院を知る座禅体験]

- ・ 今回も竹村先生のお話を拝聴させていただき、東洋大学関係者として身の引き締まる思いをいたしました。今後も円了哲学の伝道者の一員として精進をしたいと思います。
- ・ 前学長の先生の講義を受けることができ、自分自身が通っている大学のことをより一層知ることができました。ありがとうございました。
- ・ 創立記念日に麟祥院でお話を聞いたのは感慨深いものがあった。

[秋期：R1 東洋大学の起業家とアントレプレナーシップ]

- ・ 同世代のアントレプレナーの方に当時を思い出しながら刺激をいただきました。
- ・ 起業することはとてもハードルの高いことだと思っていたが、小さなことから始めることが大切であるなど、多くのことを学べた。
- ・ 本学を卒業した起業家の生の声を聴くチャンスはないので、今後、在学生の起業支援に向けたヒントが得られた。

[秋期：F1 井上円了の真宗観]

- ・ 真宗も宗派が違うとなかなか話しを聞くことができないが、大学講座としてオープンに聴講できて非常によかった。

- ・話がとても分かりやすく、資料を読んだだけではスッと入っていかなかったところもよく理解できました。
- ・円了の宗派を比較した記述に興味を持ちました。

[秋期：F2 災害の心理]

- ・パニックの定義などあいまいにしか知らなかったことが整理されて解説され、自分もいろいろ誤解していたことが分かった。防災の講演は自治体などで行われるが、視点が違い参考になった。
- ・難しいお話かとも思っていたのですが、専門知識が無くてもわかりやすく理解できました。意識が変わりました。
- ・避難しない理由について学術的な説明があり、知識をアップデートすることができた。

2022年度秋期文化公演

【講座の感想等】

[秋期：日本の話芸—落語]

- ・コロナ禍でも開催していただきありがとうございます。在学していた頃は毎年楽しみにしていた講座でしたし、東洋にちなんだお話もあり、懐かしい気持ちになりました。
- ・初めての生落語でした。4人も観せていただきありがとうございます。笑ったり、時に考えたり、楽しくて2時間あっという間に過ぎてました。また寄席に出掛けたくまりました。
- ・卒業生です。このような一般向け公演を開催しているのを初めて知りました！落語もたまに聞く程度ですが、学習の視点が入っていたのは初めてで面白かったです。また機会があれば参加させていただきたいと。立派になった校舎も見学でき、また、在学中にお世話になった先生ともお話ができてとても良い時間でした。有難うございました。
- ・落語を直接聞いたのは、初めての経験でした。話の世界が、実際に目前に見えるような世界観の広がりを感じました。さすが鍛えられた話芸であると感じました。このような機会が今後もあれば、参加したいと思います。ありがとうございます。

過去3年間の受講者数

エクステンション講座／2020年～2022年

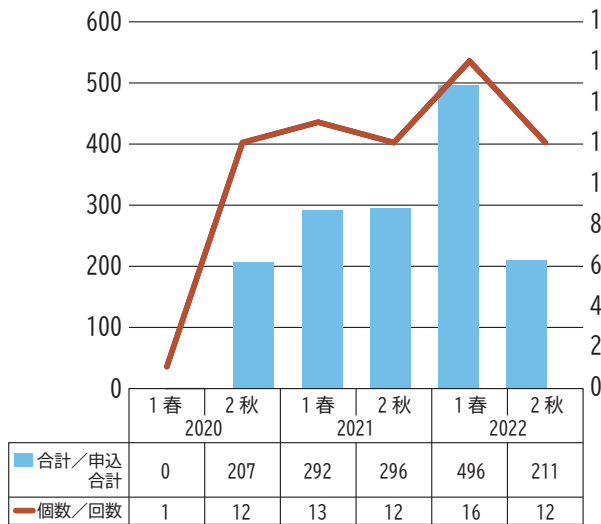
※中止講座は未掲載

| 年度 | 期 | 形式 | テーマ（一部省略有） | 主な講師 | 講師人数 | 回数 | 総時間 (分) | 申込者数 | | | | | | |
|---|---------------------------|------------|--|------------|------|----|------------|------|-----|----|----|-----|----|----------|
| | | | | | | | | 一般 | | | 学生 | | | 申込 合計 |
| | | | | | | | | 対面 | Web | 計 | 対面 | Web | 計 | |
| 2020 | 春 | 中止 | 新型コロナウイルスの影響により中止 | | | - | | | | | | | 0名 | |
| | | 対面 | 『源氏物語』全巻を読むー「宿木」ー浮舟の登場～ | 河地 修 | 1 | 8 | 960分 | 13 | - | 13 | 3 | - | 3 | 16名 |
| | 秋 | Web | 明日からできる健康意識改革ー健康寿命を延伸しようー | 大瀬良知子 | 1 | 1 | 90分 | - | 5 | 5 | - | 3 | 3 | 8名 |
| | | 対面 | これならわかる！最新・介護保険制度～「人生100年時代」を生きるために～ | 高野 龍昭 | 1 | 1 | 90分 | 8 | - | 8 | 2 | - | 2 | 10名 |
| | | | 睡眠中の夢と心の健康 | 松田 英子 | 1 | 2 | 180分 | 15 | - | 15 | 2 | - | 2 | 17名 |
| | | Web | 「幕末維新の古文書」を読む日米和親条約～日米修好通商条約 | 岩下 哲典 | 1 | 3 | 270分 | - | 8 | 8 | - | 1 | 1 | 9名 |
| | | | 大乘仏教はどのように起こったのかーその成立と展開ー | 渡辺 章悟 | 1 | 3 | 270分 | - | 19 | 19 | - | - | - | 19名 |
| | | 対面 | おひとりさまの「終活」 | 井上 治代 | 1 | 1 | 120分 | 22 | - | 22 | - | - | - | 22名 |
| | | | 仏教思想を考えるーその哲学・宗教・倫理 | 竹村 牧男 | 1 | 3 | 270分 | 20 | - | 20 | - | - | - | 20名 |
| | | | アイドル・ビジネスの現状と将来像 | 安藤 和宏 他 | 4 | 3 | 270分 | 24 | - | 24 | 34 | - | 34 | 58名 |
| 福祉社会システム専攻シリーズ／大人のひきこもりと老親（8050）問題を考える | 綿貫 公平 | | 1 | 1 | 90分 | 2 | - | 2 | 9 | - | 9 | 11名 | | |
| | ドイツ語圏の日常 | 田中 雅敏 他 | 3 | 3 | 270分 | 7 | - | 7 | - | - | - | 7名 | | |
| | キリスト教芸術の醍醐味ー儀礼・聖画・イコン・聖歌ー | 中里 巧 他 | 3 | 3 | 360分 | 10 | - | 10 | - | - | - | 10名 | | |
| 2021 | 春 | ハイブリッド | 江戸幕府の将軍たち | 白川部達夫 | 1 | 4 | 360分 | 13 | 10 | 23 | - | - | - | 23名 |
| | | | 幕末維新の古文書を読み解く | 岩下 哲典 | 1 | 3 | 270分 | 11 | 13 | 24 | - | 2 | 2 | 26名 |
| | | | 巴蜀からみる『三国志』 | 白井 順 | 1 | 2 | 180分 | 10 | 8 | 18 | 1 | - | 1 | 19名 |
| | | Web | 『源氏物語』全巻を読む「東屋」巻ー「浮舟物語」の始発～破談、匂宮との出会い、そして、浮舟は薫と結ばれた～ | 河地 修 | 1 | 8 | 960分 | 17 | 8 | 25 | 2 | 2 | 4 | 29名 |
| | | | 村上春樹の小説を味わうー初期3部作の世界ー | 石田 仁志 | 1 | 3 | 270分 | - | 8 | 8 | - | 1 | 1 | 9名 |
| | | ハイブリッド | 心とは何かー井上円了『仏教心理学』に学ぶ | 竹村 牧男 | 1 | 3 | 270分 | 29 | 24 | 53 | - | 1 | 1 | 54名 |
| | | | ポストコロナ時代の死生観のために | 朝倉 輝一 | 1 | 3 | 270分 | 5 | 6 | 11 | - | 2 | 2 | 13名 |
| | | 対面 | 化石レプリカで学ぶ 地球生命史 | 寺木 秀一 | 1 | 1 | 90分 | 20 | - | 20 | - | - | - | 20名 |
| | | | アートと社会ー教養が身につく美術鑑賞入門 | 増子 美穂 | 1 | 3 | 270分 | - | 14 | 14 | - | - | - | 14名 |
| | | ハイブリッド | 運動習慣が身体に及ぼす効果について考える | 小河 繁彦 | 1 | 2 | 180分 | 9 | 7 | 16 | 1 | - | 1 | 17名 |
| 英語演説を読み解くーステイブ・ジョブズから受け取る想いー | 竹野谷みゆき | | 1 | 1 | 90分 | 7 | 7 | 14 | 1 | - | 1 | 15名 | | |
| 介護する覚悟、介護される覚悟 | 八木 裕子 | | 1 | 2 | 180分 | 14 | 9 | 23 | - | 1 | 1 | 24名 | | |
| 引き揚げから東京2020へ～京都府舞鶴市とウズベキスタンの「希望」のかけはし～ | 須賀 忠芳 | | 2 | 1 | 90分 | 19 | 10 | 29 | - | - | - | 29名 | | |

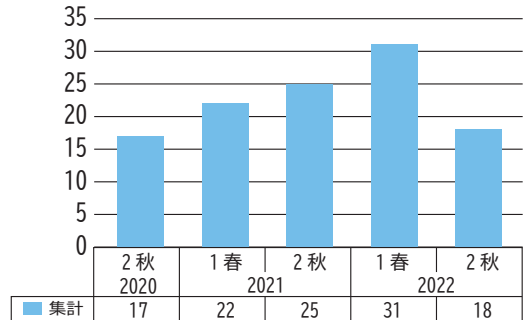
| 年度 | 期 | 形式 | テーマ(一部省略有) | 主な講師 | 講師人数 | 回数 | 総時間(分) | 申込者数 | | | | | | 申込合計 |
|--------|------------------------------------|--------|--|------------|-------|----|--------|------|-----|-----|----|-----|----|------|
| | | | | | | | | 一般 | | | 学生 | | | |
| | | | | | | | | 対面 | Web | 計 | 対面 | Web | 計 | |
| 2021 | 秋 | ハイブリッド | 空海の思想に学ぶ | 竹村 牧男 | 1 | 3 | 270分 | 27 | 18 | 45 | 1 | 1 | 2 | 47名 |
| | | | 葬制儀礼と死者祈祷 ー日本の諸宗教とキリスト教ー | 中里 巧 | 2 | 3 | 360分 | 8 | 7 | 15 | - | - | - | 15名 |
| | | | 初期仏教入門 ～ブッダのさとりとその教え～ | 渡辺 章悟 | 1 | 3 | 270分 | 17 | 9 | 26 | - | 2 | 2 | 28名 |
| | | | 江戸幕府の将軍たち | 白川部達夫 | 1 | 3 | 270分 | 6 | 4 | 10 | - | 2 | 2 | 12名 |
| | | | 幕末維新の古文書を読み解く | 岩下 哲典 | 1 | 3 | 270分 | 19 | 15 | 34 | - | 1 | 1 | 35名 |
| | | | 『源氏物語』全巻を読む 「浮舟」巻 ～運命に翻弄される浮舟～ | 河地 修 | 1 | 8 | 960分 | 9 | 10 | 19 | 1 | 4 | 5 | 24名 |
| | | 対面 | ミャンマーのクーデター:社会・経済の現状と展望 | 岡本 郁子 | 1 | 1 | 90分 | 13 | - | 13 | - | - | - | 13名 |
| | | ハイブリッド | 思いやりを科学する III ～「思いやり」と「思いあやまり」～ | 浅間 正通 | 1 | 1 | 90分 | 8 | 8 | 16 | 1 | 1 | 2 | 18名 |
| | | Web | がんになっても働くことをあきらめない～就労継続のために知っておきたいこと～ | 榊原 圭子 | 1 | 5 | 90分 | - | 17 | 17 | - | - | - | 17名 |
| | | ハイブリッド | 映像と音楽の融合2 ～CM音楽、映画音楽、ゲーム音楽の制作現場～ | 安藤 和宏 | 4 | 5 | 450分 | 22 | 20 | 42 | 19 | 4 | 23 | 65名 |
| 対面 | ゼロからのドイツ語 | 田中 雅敏 | 1 | 3 | 270分 | 5 | - | 5 | 2 | - | 2 | 7名 | | |
| ハイブリッド | 企業を診る眼を養う～決算書分析事始め～ | 増子 敦仁 | 1 | 4 | 360分 | 4 | 11 | 15 | - | - | - | 15名 | | |
| 2022 | 春 | ハイブリッド | 唯識思想入門 | 竹村 牧男 | 1 | 3 | 270分 | 27 | 19 | 46 | 1 | - | 1 | 47名 |
| | | | 戦国の一揆と宗教 - 一向一揆を中心に～ | 神田 千里 | 1 | 3 | 270分 | 9 | 11 | 20 | - | - | - | 20名 |
| | | | Web | 世界遺産を考える | 鈴木 道也 | 1 | 2 | 180分 | - | 6 | 6 | - | 1 | 1 |
| | | ハイブリッド | 『源氏物語』全巻を読む 「浮舟」「蜻蛉」巻 ～浮舟の失踪～ | 河地 修 | 1 | 8 | 960分 | 10 | 8 | 18 | 1 | 3 | 4 | 22名 |
| | | 対面 | 万葉集講座 ー万葉の歌・生活・文化ー | 菊地 義裕 | 1 | 6 | 540分 | 22 | - | 22 | 1 | - | 1 | 23名 |
| | | ハイブリッド | 村上春樹入門 ～短編小説を読む～ | 石田 仁志 | 1 | 3 | 270分 | 10 | 4 | 14 | - | - | - | 14名 |
| | | 対面 | 中国古典詩入門～李白と杜甫～ | 坂井多穂子 | 1 | 1 | 90分 | 23 | - | 23 | 1 | - | 1 | 24名 |
| | | ハイブリッド | <続>介護保険制度の賢い使い方 | 須田木綿子 | 1 | 1 | 90分 | 11 | 11 | 22 | 1 | - | 1 | 23名 |
| | | | 高経年マンションの価値を維持するためにー長期修繕計画を再考するー | 秋山 哲一 | 1 | 1 | 120分 | 17 | 5 | 22 | - | 1 | 1 | 23名 |
| | | | スグにできる! 洋楽を上手に歌うコツ | 湯舟 英一 | 1 | 1 | 120分 | 6 | 2 | 8 | - | - | - | 8名 |
| | | | ストレスと自律神経 ー脳神経科学から見えた正体と対処法ー | 堀内 城司 | 1 | 1 | 90分 | 17 | 9 | 26 | - | 1 | 1 | 27名 |
| | | 対面 | アニメビジネスの現在・過去・未来 | 安藤 和宏 他 | 4 | 4 | 360分 | 56 | - | 56 | 52 | - | 52 | 108名 |
| | | ハイブリッド | キリンの身体のふしぎー人に話したくなるキリンの魅力ー | 郡司 芽久 | 1 | 1 | 120分 | 82 | 34 | 116 | 1 | 2 | 3 | 119名 |
| | | ハイブリッド | 海軍鎮守府開庁 120 年周年事業の展開 ～赤れんがを活かしたまちづくり～ | 須賀 忠芳 他 | 2 | 1 | 90分 | 5 | 3 | 8 | - | - | - | 8名 |
| 対面 | クリエイティブ分野からみたデザイン思考 | 柏樹 良 | 1 | 1 | 120分 | 13 | - | 13 | 3 | - | 3 | 16名 | | |
| Web | 複式簿記の世界への誘い ～日商簿記初級にチャレンジしてみよう～ | 増子 敦仁 | 1 | 7 | 630分 | - | 6 | 6 | - | 1 | 1 | 7名 | | |

| 年度 | 期 | 形式 | テーマ(一部省略有) | 主な講師 | 講師人数 | 回数 | 総時間(分) | 申込者数 | | | | | | |
|------|--------|-----------------------------|----------------------------------|-----------|-------------------------------|------------|--------|------|------|----|----|-----|---|------|
| | | | | | | | | 一般 | | | 学生 | | | 申込合計 |
| | | | | | | | | 対面 | Web | 計 | 対面 | Web | 計 | |
| 2022 | 秋 | 対面 | 死後の魂の民話考 ーヨーロッパと日本の霊性を垣間見るー | 中里 巧 他 | 2 | 5 | 600分 | 7 | - | 7 | - | - | - | 7名 |
| | | | 世界の伝典 ～その成立と翻訳～ | 渡辺 章悟 | 1 | 3 | 270分 | 16 | - | 16 | 1 | - | 1 | 17名 |
| | 秋 | ハイブリッド | 鎌倉幕府の創成ー源頼朝の人脈と守護・地頭問題を中心にー | 森 公章 | 1 | 1 | 90分 | 19 | 11 | 30 | - | - | - | 30名 |
| | | | 対面 | 諸葛孔明のトボス | 白井 順 | 1 | 2 | 180分 | 10 | - | 10 | 2 | - | 2 |
| | 秋 | ハイブリッド | 『源氏物語』全巻を読む 「蜻蛉」巻～行方も知らず消えし蜻蛉 | 河地 修 | 1 | 8 | 960分 | 11 | 7 | 18 | 1 | 3 | 4 | 22名 |
| | | | 秋 | 対面 | 万葉集講座 ー万葉の歌・生活・文化ー | 菊地 義裕 | 1 | 6 | 540分 | 24 | - | 24 | 1 | - |
| | 秋 | ハイブリッド | | | 楽しい食育のコツ～味わう力を育み、豊かな感性の芽を伸ばす～ | 露久保美夏 | 1 | 1 | 90分 | 5 | - | 5 | - | - |
| | | | 秋 | ハイブリッド | ペットへの愛着と悲嘆 | 佐藤 亜樹 他 | 2 | 2 | 240分 | 5 | 8 | 13 | 2 | - |
| | 秋 | 対面 | | | 中間選挙後の結果からアメリカの行方を読み解く | 横江 公美 | 1 | 1 | 90分 | 12 | - | 12 | 1 | - |
| | | | 秋 | ハイブリッド | 年金について考える | 川瀬 晃弘 | 1 | 1 | 90分 | 9 | 3 | 12 | 2 | - |
| 秋 | ハイブリッド | SDGsと環境問題 ～私たちが貢献するSDGs～ | | | 後藤 尚弘 平松 あい | 1 | 2 | 180分 | 6 | 3 | 9 | - | - | - |
| | | 秋 | ハイブリッド | 子どもの声を聴く力 | 西野 博之 森田 明美 | 2 | 1 | 180分 | 11 | 30 | 41 | 1 | - | 1 |

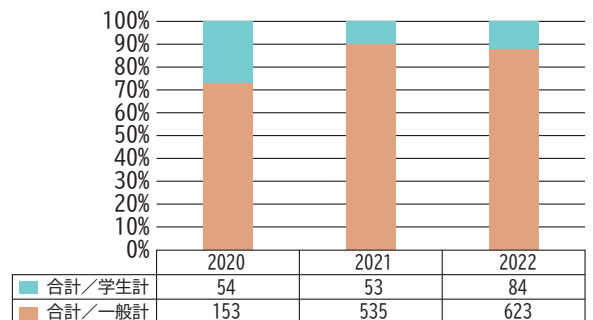
申込者数/開講数
(エクステンション講座)



平均申込者数
(各期申込者数/各期講座数)



申込者内訳 (有料講座)



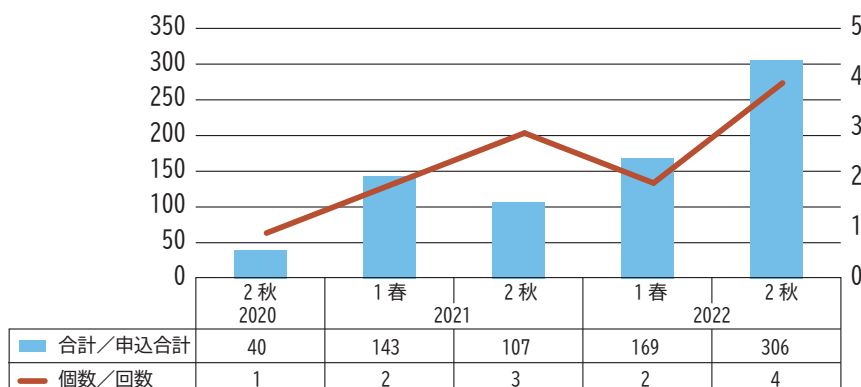
オープン講座（無料リカレント講座含む）／2020年～2022年

※白山は、学生に教員等関係者を含む。学生は授業振替も含む。

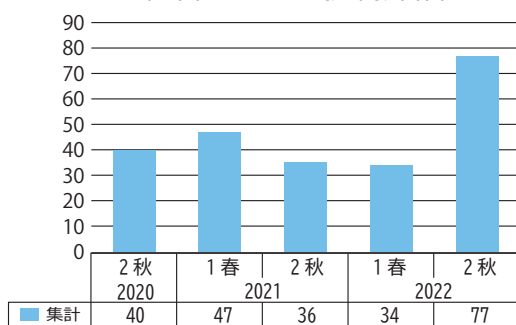
※白山以外は、一般に学生を含める。

| 年度 | 期 | 形式 | 会場 | テーマ（一部省略有） | 主な講師 公演者等 | 講師等 人数 (団体数) | 回数 | 総時間 (分) | 申込者数 | | | | | | |
|------|--------|--------|--------------------------------|--|----------------|--------------------|--------|-------------|----------|-----|----------|----|-----|------|----------|
| | | | | | | | | | 一般 | | | 学生 | | | 申込 合計 |
| | | | | | | | | | 対面 | Web | 計 | 対面 | Web | 計 | |
| 2020 | 春 | 中止 | 全 | 新型コロナウイルスの影響により中止 | | | | | | | | | | | |
| | 秋 | 対面 | 白山 | ウイルス排除に必要な免疫力とは | 加藤 和則 | 1 | 1 | 90分 | 28 | - | 28 | 12 | - | 12 | 40名 |
| 2021 | 春 | ハイブリッド | 白山 | SDGs と子どもの人権（対面） ー平和・開発・人権と子どもの参加ー | 大谷美紀子 森田 明美 | 2 | 1 | 90分 | 32 | 29 | 61 | 34 | 29 | 63 | 124名 |
| | | 対面 | 板倉 | 日本人なら知っておきたい、 『古今和歌集』の真実ー「天皇の歌集」の謎に迫るー | 河地 修 | 1 | 1 | 120分 | 40 | - | 40 | - | - | - | 40名 |
| | | Web | 白山 | 防災の思想～避難情報廃止論と 防災プラグマティズム～ | 及川 康 | 1 | 2 | 180分 | - | 17 | 17 | - | 2 | 2 | 19名 |
| | | 対面 | 赤羽台 | 映画で「防災」を考えてみよう 共生のための住まい ～スウェーデンのコレクティブハウス～ | 及川 康 | 1 | 1 | 90分 | 18 | - | 18 | - | - | - | 18名 |
| | 秋 | ハイブリッド | 白山 | 井上円了 ー哲学の展開・妖怪文化の変遷ー | 竹村 牧男 湯本 豪一 | 2 | 2 | 120分 | 47 | - | 47 | 3 | - | 3 | 50名 |
| | | 対面 | 白山 | 井上円了と哲学堂公園をめぐる スタディ・ツアー 災害時の子どもの居場所 意義と作り方 | 三浦 節夫 森田 明美 | 1 3 | 1 2 | 90分 180分 | 29 20 | - | 29 20 | - | - | - | 8 8 |
| 2022 | 春 | ハイブリッド | 白山 | カーボンニュートラル（脱炭素）～なぜ？ どうする？～ | 小川 芳樹 | 1 | 1 | 120分 | 29 | 41 | 70 | 1 | 4 | 5 | 75名 |
| | | | 赤羽 | 無意識を鍛える ー変化の時代を生き抜くための円了 100の言葉ー | 吉田 善一 | 1 | 1 | 90分 | 29 | 63 | 92 | - | 2 | 2 | 94名 |
| | | 川越 | 希望の建設・地獄の営繕 2022 | 内田 祥士 | 1 | 4 | 360分 | 68 | 141 | 209 | 3 | 4 | 7 | 216名 | |
| | | 板倉 | パルスオキシメーターって何？ ～身近な医療機器を知ろう | 山内 康司 | 1 | 1 | 90分 | 10 | 15 | 25 | 4 | - | 4 | 29名 | |
| | 秋 | 対面 | 白山 | 共鳴する『枕草子』と『源氏物語』～二人の「女房」は何を書き遺したのか | 河地 修 | 1 | 1 | 120 | 24 | 130 | 154 | - | - | - | 154名 |
| | | ハイブリッド | 白山 | 井上円了と東洋大学発祥之地 麟祥院を知る座禅体験 | 竹村 牧男 | 1 | 1 | 90 | 20 | - | 20 | 13 | - | 13 | 33名 |
| 秋 | ハイブリッド | 白山 | 井上円了の真宗観 | 竹村 牧男 | 1 | 3 | 270 | 52 | 51 | 103 | 1 | 2 | 3 | 106名 | |
| | | | 災害の心理 ～避難・パニック・流言について～ | 中村 功 | 1 | 2 | 180 | 34 | 45 | 79 | 1 | 4 | 5 | 84名 | |
| | | | <リカレント>東洋大学の起業家とアントレプレナーシップ | 山本 聡 他 | 3 | 1 | 90 | 12 | 32 | 44 | 26 | 13 | 39 | 83名 | |

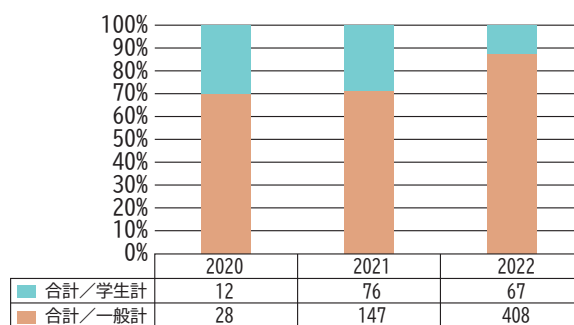
申込者数／開講数（白山オープン講座）



平均申込者数
(白山オープン/授業振替含む)



申込者内訳 (白山オープン講座)



文化講演 / 2020年～2022年

| 年度 | 期 | 形式 | 会場 | テーマ | 主な講師 出演者等 | 講師人数 | 回数 | 総時間 (分) | 申込者数 | | | | | | |
|------|---|----|----|-----------------------|--------------|------|----|------------|------|---|-----|-----|---|-----|----------|
| | | | | | | | | | 一般 | | | 学生 | | | 申込 合計 |
| | | | | | | | | 対面 | Web | 計 | 対面 | Web | 計 | | |
| 2020 | 秋 | 対面 | 白山 | 落語 - 日本の話芸 | 林家時蔵 他 | 5 | 1 | 120分 | 68 | | 68 | 12 | | 12 | 80名 |
| 2021 | - | | | 新型コロナウイルスの影響 により中止 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 2022 | 秋 | | | 日本の話芸 - 落語 - | 林家時蔵 他 | 3 | 1 | 90分 | 167 | | 167 | 150 | | 150 | 317名 |

文京アカデミア講座 / 2020年～2022年

| 年度 | 期 | 形式 | 会場 | テーマ | 講師 | 回数 | 総時間(分) | 申込者数 |
|------|---|-------------|--------------|-------------------|-------|------|--------|------|
| 2020 | - | - | - | 新型コロナウイルスの影響により中止 | - | - | - | - |
| 2021 | 前 | 対面 | アカデミー 文京 | 江戸庶民の文化 | 中山 尚夫 | 3 | 270分 | 20名 |
| | 後 | | | 江戸の旅と歩行 | 谷釜 尋徳 | 3 | 270分 | 20名 |
| 2022 | 前 | 対面 | 白山 | 異文化からみた「思いやり」 | 浅間 正通 | 3 | 270分 | 21名 |
| | 後 | | | 世界と日本の震災と子どもたち | 小野 道子 | 1 | 90分 | 29名 |
| | 後 | アカデミー 文京 | 夢と睡眠の心理学 基礎編 | 松田 英子 | 3 | 270分 | 30名 | |



エクステンション講座 A

キリンの身体のふしぎ—一人に話したくなるキリンの魅力—

日 時：2022年7月23日(土) 13:00～15:00 (120分)

講 師：郡司 芽久(東洋大学生命科学部助教)

受講者数：119名

【講座の目標】

キリンの身体の特徴を知り、「生物の進化」について理解を深めます。また、キリンの身体と自分の身体を比較することで、「ヒト」という生き物の特徴や進化についても理解することを目指しています。



エクステンション講座 C

海軍鎮守府開庁 120 年事業の展開

～赤れんがを活かしたまちづくり～

日 時：2022年6月11日(土) 15:00～16:30 (90分)

講 師：神村 和輝(舞鶴市観光振興課学芸員)

須賀 忠芳(東洋大学国際観光学部教授)

受講者数：8名

【講座の目標】

京都府舞鶴市について、海軍鎮守府が設置された歴史をふまえて、その歴史を活かしたまちづくりから、地方都市の観光交流による地域活性化の取り組みについて理解していただきたい。





リカレント講座

クリエイティブ分野からみたデザイン思考

日 時：2022年6月18日(土) 13:30～15:30(120分)

講 師：柏樹 良(東洋大学ライフデザイン学部准教授)

受講者数：16名

【講座の目標】

デザイン思考とは、どのようなメソッドなのかを俯瞰的に理解し、自分の携わっている事業に照らして創造活動する際の要点や、有益なアイデアを創出するための関連性などが把握できるようになることを目指します。



白山オープン講座

無意識を鍛える

—変化の時代を生き抜くための円了 100 の言葉—

日 時：2022年6月25日(土) 13:00～14:30(90分)

講 師：吉田 善一(東洋大学理工学部教授)

受講者数：94名

【講座の目標】

井上円了の名言から、心を浄化する意味と手法を学び、その延長上にある生き抜く力、すなわち、道徳性、自立性、理解力、適応力や行動力が無意識に発揮できる土壌を作ります。





エクステンション講座 A 子どもの声を聴く力

日時：2022年12月15日(木) 18:15～19:45(90分)
講師：西野 博之(認定NPO 法人フリースペースたまりば)
コーディネーター：森田 明美(東洋大学名誉教授)
受講者数：42名

【講座の目標】

こども基本法は、子どもを真ん中に、様々な状態にある子どもの意見を聴き、年齢や発達段階に応じて政策に反映することを定めています。講座では、子どもに向き合うこと、話を聴くこと、子どもの語りを学びます。



リカレント講座 東洋大学の起業家とアントレプレナーシップ

日時：2022年11月22日(火) 16:30～18:00(90分)
講師：小林 泰士(株式会社マーケットエンタープライズ 代表取締役社長)
及川 厚博(株式会社 M&A クラウド 代表取締役 CEO)
コーディネーター：山本 聡(東洋大学経営学部教授)
受講者数：42名

【講座の目標】

東洋大学の卒業生である起業家の「生の声」から、起業、企業経営、事業成長の経験を学び、自分の中にあるアントレプレナーシップを見出すことが目的です。Be entrepreneurs!



資格講座

2022年度 資格講座

※開講講座のみ記載。

| 期 | 講座名 | 開講地 | 委託会社 | 期間 | | 回数 | 延べ 時間数 | 受講料@ | | 申込者数 | | | |
|---|------------------------|---------------------|------------------------|----------------|----------------------|----|-----------|------------|--------|------|-----|----|-----|
| | | | | | | | | 学生/ 卒業生 | 一般 | 学生 | 卒業生 | 一般 | 計 |
| 春 | 1 MOS Excel 2019 講座 | Web (ライブ) | ヒューマン アカデミー | 2022年 5月17日 | ~ 2022年 7月19日 | 10 | 25H | 18,340 | 22,010 | 10 | 1 | - | 11名 |
| | 2 FP 技能検定 3 級対策講座 | 対面 | TAC | 2022年 5月24日 | ~ 2022年 7月19日 | 9 | 22.5H | 13,770 | 16,530 | 22 | 2 | - | 24名 |
| | 3 宅地建物取引 士講座 | 対面 | TAC | 2022年 5月14日 | ~ 2022年 10月8日 | 38 | 114H | 18,340 | 22,010 | 22 | 2 | 1 | 25名 |
| | 4 社会福祉士 試験対策講座 | Web (オンデ マンド) | 海老沢社労 士・社会福 祉事務所 | 2022年 6月9日 | ~ 2023年 1月19日 | 32 | - | 13,310 | - | - | 1 | - | 1名 |
| 秋 | 5 MOS Excel 2019 講座 | Web (ライブ) | ヒューマン アカデミー | 2022年 10月4日 | ~ 2022年 12月06日 | 10 | 25H | 18,340 | 22,010 | 10 | 1 | - | 11名 |
| | 6 FP 技能検定 2 級対策講座 | 対面 | TAC | 2022年 11月8日 | ~ 2023年 1月17日 | 16 | 40H | 28,790 | 34,550 | 8 | 2 | - | 10名 |
| | | | | | | | | 合計 | | 72 | 9 | 1 | 82名 |

講師派遣

2022年度 「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」実施報告

1. 講師派遣要項

- (1) 名称「東洋大学の講義を全国各地にお届けします—講師派遣」とし、本年度は3つのプログラムを提供した。

| |
|--|
| ①生涯学習支援プログラム(以下『生涯』) |
| ・教育委員会、生涯学習・社会教育等の各種団体が開催する講演会および学校のPTA等で企画する講演会等へ本学の講師を派遣 |
| ②研修支援プログラム(以下『研修』) |
| ・企業、各種団体等で実施する研修会等へ本学の講師を派遣 |
| ③SDGs(持続可能な開発目標)達成学習支援プログラム(以下『SDGs』) |
| ・全国の小・中・高等学校、特別支援学校におけるSDGs目標達成のための教育を推進するため、本学教員を派遣 |

【派遣期間等】

| | |
|--------|--|
| 派遣期間 | 2022年6月1日(水)～12月16日(金) |
| 申込期間 | 2022年4月1日(金)～10月17日(月) |
| 申込締切 | 開催希望日の2ヶ月前迄とし、原則として、①③は年間1団体につき1回派遣。但し、9月および10月開催分は、7月8日(金)締切。 |
| 派遣実施件数 | 84件 |
| 派遣上限 | 本学専任教員並びに本学名誉教授で、1教員の派遣数は原則3回まで |

2. 実施経過(概略)

- (1) 2021年11月5日：専任教員全員と元教員に対して、当事業への協力要請
- (2) 2022年1月4日：テーマ募集提出締切
- (3) 2022年4月～3月：テーマ集約・分類・HPアップ準備(事務局作業)
- (4) 2022年4月1日：ホームページ等にて受付開始
- (5) 2022年4月6日：パンフレット送付

| 送付先 | 件数 |
|--------------|------|
| 教育委員会 | 1812 |
| 大学施設関連 | 3 |
| 過去派遣実施(自治体他) | 444 |
| 過去派遣実施(企業) | 19 |
| 維持会 | 95 |
| 就職懇親会 | 270 |
| 文京区中・高等学校 | 47 |
| 高校教員入試説明会 | 304 |

3. テーマ数、実施件数

テーマ提出教員数：専任教員 160名(全専任教員の約22%) 元教員 35名

| プログラム | 生涯 | 研修 | SDGs | 合計 |
|-------------|-------------|----|------|-----|
| 募集時 テーマ数 | 207 | 25 | 79 | 575 |
| | 264 (共通テーマ) | | | |
| 実施件数 | 63 | 3 | 18 | 84 |

(1) 地域別派遣実施件数

| 地域 | 生涯学習 | | | 研修 | | | SDGs | | | 合計 | | |
|--------|------|------|------|------|------|-------|------|------|-----|------|------|------|
| | 2021 | 2022 | 増減 | 2021 | 2022 | 増減 | 2021 | 2022 | 増減 | 2021 | 2022 | 増減 |
| 北海道 | 2 | 3 | ↑ 1 | 0 | 0 | — | 0 | 0 | — | 2 | 3 | ↑ 1 |
| 東北 | 3 | 6 | ↑ 3 | 0 | 0 | — | 0 | 1 | ↑ 1 | 3 | 7 | ↑ 4 |
| 関東 | 25 | 34 | ↑ 9 | 1 | 3 | ↑ 2 | 9 | 16 | ↑ 7 | 35 | 53 | ↑ 18 |
| 中部/甲信越 | 3 | 5 | ↑ 2 | 1 | 0 | ↓ (1) | 0 | 0 | — | 4 | 5 | ↑ 1 |
| 北陸 | 2 | 4 | ↑ 2 | 0 | 0 | — | 0 | 1 | ↑ 1 | 2 | 5 | ↑ 3 |
| 近畿 | 1 | 4 | ↑ 3 | 0 | 0 | — | 0 | 0 | — | 1 | 4 | ↑ 3 |
| 中国 | 0 | 2 | ↑ 2 | 0 | 0 | — | 0 | 0 | — | 0 | 2 | ↑ 2 |
| 四国 | 1 | 1 | → 0 | 0 | 0 | — | 0 | 0 | — | 1 | 1 | → 0 |
| 九州 | 1 | 4 | ↑ 3 | 0 | 0 | — | 0 | 0 | — | 1 | 4 | ↑ 3 |
| 合計 | 38 | 63 | ↑ 25 | 2 | 3 | ↑ 1 | 9 | 18 | ↑ 9 | 49 | 84 | ↑ 35 |

(2) 実施一覧 別紙参照

(3) 講師の内訳

実施件数と講師の内訳は次のとおり。()内は派遣実人数。

| 年度 | 2021 | 2022 |
|------|-----------|-----------|
| 専任教員 | 20件 (16名) | 59件 (42名) |
| 名誉教授 | 8件 (6名) | 19件 (11名) |
| 客員教授 | 0件 (0名) | 3件 (2名) |
| 元教授 | 3件 (2名) | 3件 (1名) |
| 計 | 31件 (24名) | 84件 (56名) |

(4) 申込者(団体)のリピーターの割合

昨年度も実施した団体は15団体で、全体の18%に当たる。

4. 受講者アンケート結果

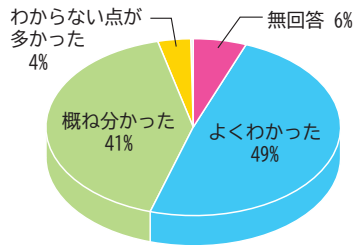
生涯学習支援プログラムを受講した参加者を対象にアンケート調査を実施したところ、75%の団体から有効な回答を得られた(n=1442)。結果は以下の通り。

講義に対する評価は総じて高く、多くの受講者に満足いただけたようである。また、本学への関心も高く、「また講義を受けたい」「大学にはこんな先生がいるんだな」などの感想も寄せられた。

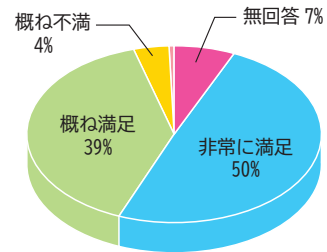
アンケートに協力した受講者のうち、15%が以前にも講師派遣の講座を受講したことがある

と回答した。図-1・2の結果より、受講歴のある回答者には井上円了・本事業(無料)について周知がされていることがわかる。

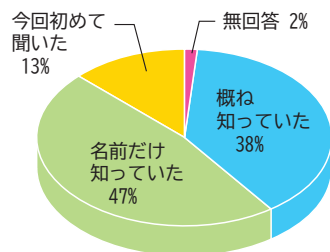
①内容のわかりやすさ



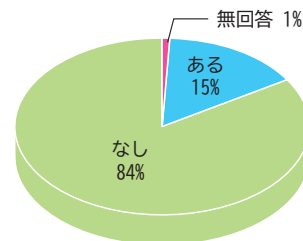
②講義の満足度



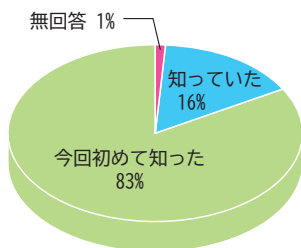
③「東洋大学」に関して (知名度)



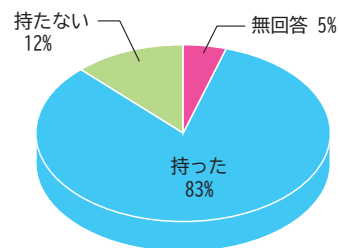
④「東洋大学講師派遣の講座を受講したことがありますか？」



⑤本学の「講師派遣事業(無料派遣)」の社会貢献事業について



⑥講義に参加して本学への関心は持ちましたか？



⑦井上円了を知っていましたか？

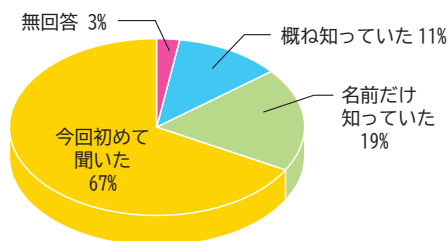


図-1 ⑤本学の「講師派遣事業（無料）」の社会貢献事業について

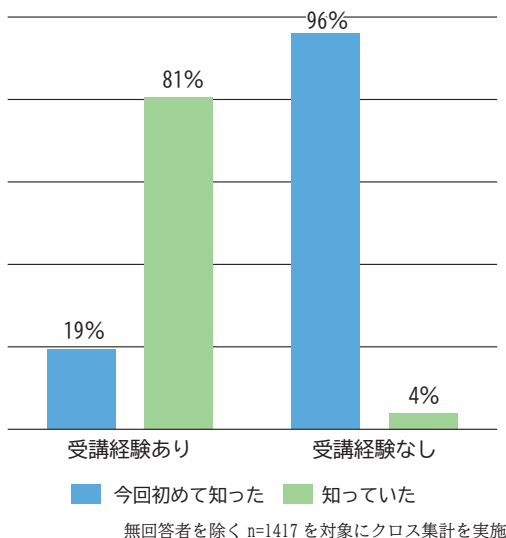
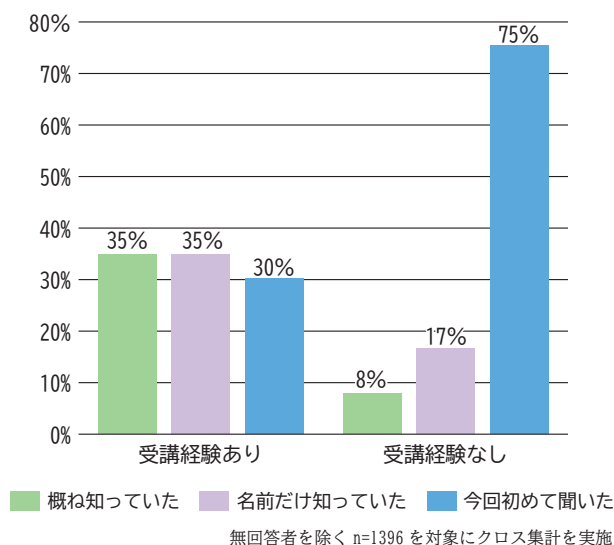


図-2 ⑦井上円了を知っていましたか？



5. 次年度に向けて

2022年度の申し込み件数は99件であったが、15件がキャンセル(うち3件が感染症を理由に中止)となり、実施は84件となった。

昨年度に引き続き、対面による講座実施に限定せず、オンラインによる実施やハイブリッド型による実施の選択肢も用意したところ、オンライン実施は7件、ハイブリッド型での実施は5件となった。講師派遣の調整の際に、日程的に講師の派遣が難しく、断念する場面もみられたが、オンライン開催に切り替えることで実施にいたった講演も1件みられた。感染症流行下で派遣条件の選択肢が増えたことで、遠方への派遣のハードルが下がり、より柔軟に調整することが可能になったともいえるが、依然として対面による講座実施に重きを置く団体がほとんどであった。そのため日を跨ぐような遠方への派遣においては調整が難航する場面がみられたが、教員および元教員の協力により、片道100kmを超える遠距離出張は34件で、実施件数のうち約4割を占めた。

SDGs 達成学習支援プログラムは開始してから3年経つが、7件(2020年)、9件(2021年)、18件(2022年)と徐々に増加している。昨年度までは感染症の影響からか関東圏のみの実施であったが、今年度は関東圏外から2件の対面講座の申し込みがあり、実施に至った。SDGs に対する理解を深める動きが高まる昨今、次年度はより多くの受講者に本事業が届くよう周知徹底に努めたい。

また、受講者アンケートの結果より、8割を超える回答者が「本学への関心は持ちましたか」という問いに対し「持った」と回答している。公開講座もハイブリッド化が進み、大学近隣に住まいを構える方のみならず、全国に学びを提供できるようになった。「地方においては、現在においても学びの機会が平等とは思えない」という申し込み団体からの声もあるなか、こうした学びを提供する場があることを、受講者へ伝えていくことが急務である。次年度は派遣回数160件(生涯・SDGs130、研修30)を目標とし、地方を切り離さず、質の高い学びを提供できるよう講座提供をすすめていく。

2022年度 講師派遣事業 派遣先実績一覧

生涯学習支援プログラム

| No | 開催日時 | 開催県 | 団体名 | 開催する会 | 講演テーマ | 派遣教員 | 所属学部 | 受講者数 |
|----|------------|------|--------------------|--------------------------|--|-------|-----------|------|
| 1 | 2022年6月10日 | 千葉県 | 千葉縣市原市立五井公民館 | 五井楽学塾・春 | 暑さに負けない身体と生活環境 | 加藤 和則 | 理工学部 | 47 |
| 2 | 2022年6月16日 | 京都府 | 宮津市教育委員会 | 宮津市人権問題研修会 | 偏見、あるいはアンコンシャスバイアス、女性活躍を考える | 北村 英哉 | 社会学部 | 61 |
| 3 | 2022年6月24日 | 埼玉県 | 春日部市庄和地区市民大学 | 庄和地区市民大学講座 | 百姓一揆の実像 | 白川部達夫 | 名誉教授 | 75 |
| 4 | 2022年7月5日 | 岩手県 | 公益社団法人岩手県青少年育成県民会議 | 青少年育成セミナー | フローな人生を送るためにー「with コロナ」の生き方 | 八巻 節夫 | 名誉教授 | 92 |
| 5 | 2022年7月8日 | 秋田県 | 鹿角市教育委員会生涯学習課 | 家庭教育講座 | インターネットで変容するコミュニケーションとコミュニティ | 戸田 慎一 | 社会学部 | 55 |
| 6 | 2022年7月21日 | 千葉県 | 旭市教育委員会 | 旭市民会館「みんなの雑学講座」 | 大人の理科教室ーカタクチイワシの解剖教室ー | 寺木 秀一 | 元教授 | 51 |
| 7 | 2022年7月21日 | 宮崎県 | 都城市教育委員会生涯学習課 | 令和4年度都城市人権啓発推進協議会全体会・講演会 | 人の多様性の理解と共生にむけて | 南野奈津子 | ライフデザイン学部 | 40 |
| 8 | 2022年7月27日 | 東京都 | かぶこう会 | 介護保険制度の活用について | 介護保険制度の賢い使い方 | 須田木綿子 | 社会学部 | 108 |
| 9 | 2022年8月10日 | 宮城県 | 柴田町教育委員会生涯学習課 | しばたっ子応援団(学校支援ボランティア)研修会 | 分かっていますか?「怒る」と「叱る」の違い | 鈴木 崇之 | ライフデザイン学部 | 23 |
| 10 | 2022年8月1日 | 石川県 | 金沢大学附属特別支援学校 | 金沢大学附属特別支援学校 教育講演会 | 発達障がいのある子どもの理解と支援 | 是枝喜代治 | ライフデザイン学部 | 50 |
| 11 | 2022年8月11日 | 東京都 | 杉並区立下井草図書館 | 文学講演会 | シェイクスピアの世界 | 五十嵐博久 | 食環境科学部 | 35 |
| 12 | 2022年8月18日 | 栃木県 | 宇中教研 理科部会 | 宇中教研理科部会後期研修会 | これから求められる資質・能力と学習活動とはー新学習指導要領とこれからの学びー | 後藤 顕一 | 食環境科学部 | 28 |
| 13 | 2022年8月20日 | 兵庫県 | 加古川市教育委員会社会教育課 | かこてらす市民公開講座 | 分かっていますか?「怒る」と「叱る」の違い | 鈴木 崇之 | ライフデザイン学部 | 37 |
| 14 | 2022年8月23日 | 埼玉県 | 高麗公民館 | 働く人のためのリフレッシュ講座 | 睡眠中の夢と心の健康 | 松田 英子 | 社会学部 | 49 |
| 15 | 2022年8月23日 | 宮城県 | 白石市教育委員会生涯学習課 | 白石市民大学 | なぜ今、プラスチックごみ対策? | 鈴木 孝弘 | 客員教授 | 20 |
| 16 | 2022年8月24日 | 神奈川県 | 茅ヶ崎市 | 東洋大学生涯学習支援プログラム | 芸術都市ロンドンでの過ごし方ー教養としてのアートー | 海野 敏 | 社会学部 | 17 |
| 17 | 2022年8月24日 | 埼玉県 | 埼玉県鶴ヶ島市立新町小学校 | 学校保健委員会 | 暑さに負けない身体と生活環境 | 加藤 和則 | 理工学部 | 30 |

| No | 開催日時 | 開催県 | 団体名 | 開催する会 | 講演テーマ | 派遣教員 | 所属学部 | 受講者数 |
|----|-------------|-----|---------------------------|-------------------------------|---|-------|------------|------|
| 18 | 2022年8月26日 | 熊本県 | 氷川町教育委員会 | 氷川町ふれあい大学 | これならわかる！最新・介護保険制度！ | 高野 龍昭 | ライフデザイン学部 | 23 |
| 19 | 2022年9月3日 | 山口県 | 美祢市教育委員会生涯学習スポーツ推進課 大嶺公民館 | 大嶺町民講座 | 日本の古典を楽しむ－『源氏物語』はおもしろい！ | 河地 修 | 名誉教授 | 33 |
| 20 | 2022年9月4日 | 埼玉県 | 北本市教育委員会生涯学習課 | スキルアップ研修会－講演会 | 日本語を日本語で外国の人に教える方法 | 平畑 奈美 | 文学部 | 28 |
| 21 | 2022年9月6日 | 北海道 | 帯広市教育委員会生涯学習文化課 | 帯広市民大学講座 | 100年人生時代のキャリアの創り方 | 小島 貴子 | 理工学部 | 23 |
| 22 | 2022年9月15日 | 千葉県 | 鎌ヶ谷市東部学習センター | 東部市民セミナー | ウイルス排除に大切な免疫力とは | 加藤 和則 | 理工学部 | 29 |
| 23 | 2022年9月18日 | 埼玉県 | 鶴ヶ島市立図書館 | 文学講座「日本の古典を楽しむ－『源氏物語』はおもしろい！」 | 日本近代文学に見られる妖怪－宮沢賢治作品や『遠野物語』から読み解く－ | 高橋 直美 | ライフデザイン学部 | 20 |
| 24 | 2022年9月20日 | 北海道 | 上川町 | 「これからのAI時代に必要な読解力とは」 | 子どもと読書 | 竹内 美紀 | 文学部 | 24 |
| 25 | 2022年9月22日 | 埼玉県 | 春日部市教育委員会 | 遊学スキルアップ講座 | 地域はあなたの活躍を期待しています。地域活動に参加するための処方箋 | 小瀬 博之 | 総合情報学部 | 52 |
| 26 | 2022年9月30日 | 新潟県 | 新潟市生涯学習センター | 生涯学習相談窓口「ひだまり」主催講演会 | 学習と学問－なぜ我々は学ぶのか－ | 吉田 公平 | 名誉教授 | 110 |
| 27 | 2022年10月2日 | 愛知県 | 西尾市 生涯学習課 | 西尾市オープンカレッジ | 大人の理科教室－化石のレプリカづくりを通して地球の歴史を探ろう－ | 寺木 秀一 | 元教授 | 24 |
| 28 | 2022年10月6日 | 東京都 | NPO 法人リンク東山 | 東山文化講座 | 地球温暖化対策と市民の役割 | 小川 芳樹 | 名誉教授 | 34 |
| 29 | 2022年10月9日 | 北海道 | 厚沢部町教育委員会 | 「厚沢部町文化講演会」同時開催「幸齢者学級」 | たかがアニメの教育学－サザエさん、ちびまるこちゃん、クレヨンしんちゃん－ | 藤本 典裕 | 文学部 | 28 |
| 30 | 2022年10月10日 | 愛知県 | 江南市民文化会館 | 自主文化事業 みんなの理科教室 | 大人の理科教室－ファラデーの「ロウソクの科学」を小学校理科で擦ぞり再演する（なぞりサイエンス） | 寺木 秀一 | 元教授 | 52 |
| 31 | 2022年10月12日 | 群馬県 | 館林市教育委員会 | 青少年カウンセリング講座 | 分かっていますか？「怒る」と「叱る」の違い | 鈴木 崇之 | ライフデザイン学部 | 29 |
| 32 | 2022年10月23日 | 岐阜県 | 各務原国際協会 | 国際理解講座 | 欧州連合（EU）統合の現在 | 多田 英明 | 法学部 | 37 |
| 33 | 2022年10月24日 | 埼玉県 | こしがや市民活動連合会 | 協働のまちづくり研修会（勉強会） | 「思いやり」を科学する | 浅間 正通 | 元ライフデザイン学部 | 46 |
| 34 | 2022年10月25日 | 埼玉県 | 鴻巣市 | 鴻巣市民大学講座「こうのとりのアカデミー」 | 日本の古典を楽しむ－『伊勢物語』はおもしろい！ | 河地 修 | 名誉教授 | 47 |
| 35 | 2022年10月26日 | 埼玉県 | 行田市 PTA 連合会 | 北埼玉地区 PTA 連絡協議会役員等研修会 | PTA・部活動指導員等、地域教育の担い手向け「教育学ことはじめ」 | 須田 将司 | 文学部 | 32 |

| No | 開催日時 | 開催県 | 団体名 | 開催する会 | 講演テーマ | 派遣教員 | 所属学部 | 受講者数 |
|----|-------------|------|-----------------------|----------------------|---|-------|-----------|------|
| 36 | 2022年10月27日 | 新潟県 | 佐渡市教育委員会 | 令和4年度市民大学講座 | 学習と専門—なぜ我々は学ぶのか— | 吉田 公平 | 名誉教授 | 37 |
| 37 | 2022年10月30日 | 埼玉県 | さいたま市立中央図書館 | 文字・活字文化の日記念講演会 | 日本の昔話考 | 高橋 直美 | ライフデザイン学部 | 27 |
| 38 | 2022年11月5日 | 東京都 | 練馬区立男女共同参画センターえーる | 住みよい地域づくり講座 | コミュニティの活用—一人のつながりを重視して— | 大坪 宏至 | 経営学部 | 16 |
| 39 | 2022年11月6日 | 東京都 | 特定非営利活動法人 東京都子ども会連合会 | 東京都子ども会育成研究協議会 | 地域はあなたの活躍を期待しています。地域活動に参加するための処方箋 | 小瀬 博之 | 総合情報学部 | 37 |
| 40 | 2022年11月11日 | 神奈川県 | 鎌倉市生涯学習委員会 | 生涯学習センター講座 | 狂言の笑いと禅 | 原田 香織 | 文学部 | 38 |
| 41 | 2022年11月12日 | 埼玉県 | 桶川市 | 桶川東公民館講座 | ヨガで学ぶメンタルヘルス | 加藤千恵子 | 総合情報学部 | 33 |
| 42 | 2022年11月16日 | 大阪府 | 泉南市ABC委員会 | 市民協働啓発講座 ~今日 Do! 講座~ | SDGs と新たな日本型ものづくりの創成 | 神田 雄一 | 名誉教授 | 30 |
| 43 | 2022年11月16日 | 茨城県 | 古河市生涯学習課 | 令和4年度 人権について考える会 | アンコンシャスバイアスの外し方（無意識の偏見と決めつけ）から解き放される | 小島 貴子 | 理工学部 | 33 |
| 44 | 2022年11月21日 | 徳島県 | 藍住町教育委員会 | 藍住町人権講座 | いま平和を考える—語り継ぐ戦争体験と平和、そして将来— | 西川 吉光 | 名誉教授 | 34 |
| 45 | 2022年11月21日 | 千葉県 | NPO 法人ふれあい塾あびこ | ふれあい塾あびこ公開講座 | <恋・愛>の日本文学—現代への架橋— | 竹内 清己 | 名誉教授 | 23 |
| 46 | 2022年11月22日 | 埼玉県 | 狭山市立 水野公民館 | 水野実年大学（高齢者向け学習事業） | ものさしとコンパスで繰り返し模様を描こう | 吉野 隆 | 理工学部 | 170 |
| 47 | 2022年11月23日 | 東京都 | 西荻地域区民センター協議会 | 学級講座 | 日本の古典を楽しむ —『源氏物語』はおもしろい！ | 河地 修 | 名誉教授 | 29 |
| 48 | 2022年11月24日 | 富山県 | 滑川市中央公民館 | 福寿大学学習会 | 毎日の健康と長寿の決定要因は？ | 鈴木 孝弘 | 客員教授 | 20 |
| 49 | 2022年11月27日 | 大阪府 | 熊取町教育委員会事務局生涯学習推進課 | 親学習講演会 | 子どもの権利の視点はなぜ必要か | 森田 明美 | 名誉教授 | 90 |
| 50 | 2022年11月27日 | 茨城県 | 筑西市子ども会育成連合会 | 筑西市子ども会育成連合会 指導者研修会 | 子育て世代の親が知っておきたい食の安全について考える | 大熊 廣一 | 名誉教授 | 43 |
| 51 | 2022年12月1日 | 東京都 | 町田市教育委員会生涯学習部生涯学習センター | まちだことぶき大学まちだ探・探ゼミナール | 脳科学のストレスマネジメント —ストレスを知ってうまく付き合う— | 堀内 城司 | 理工学部 | 23 |
| 52 | 2022年12月1日 | 宮崎県 | 延岡市教育委員会社会教育課 | 延岡市民大学 | 激動の世界と日本を取り巻く国際情勢を読み解く | 西川 吉光 | 名誉教授 | 36 |
| 53 | 2022年12月3日 | 埼玉県 | 埼玉県立飯能高等学校 PTA | 保護者向け進路講演会 | これから求められる資質・能力と学習活動とは —新学習指導要領とこれからの学び— | 後藤 頭一 | 食環境科学部 | 28 |
| 54 | 2022年12月4日 | 鹿児島県 | 和泊町役場 町民支援課 | 人権啓発フェスティバル | 現代社会における親と子—親にとって子どもとは何か— | 西野 理子 | 社会学部 | 51 |
| 55 | 2022年12月4日 | 千葉県 | 鴨川市教育委員会 | 鴨川市東洋大学交流事業 | 記憶と忘却のメカニズム | 児島 伸彦 | 生命科学部 | 32 |

| No | 開催日時 | 開催県 | 団体名 | 開催する会 | 講演テーマ | 派遣教員 | 所属学部 | 受講者数 |
|------|-------------|------|----------------------------|----------------------------|---|-------|---------------|------|
| 56 | 2022年12月4日 | 岡山県 | 津山市役所総務部 人権啓発課 | 男女共同参画講 座 | 運動のススメ | 高橋 珠実 | 食環境科 学部 | 29 |
| 57 | 2022年12月7日 | 愛知県 | 愛知県立名古屋聾 学校 | 全校研修会 | 子どもの権利の視点はなぜ 必要か | 森田 明美 | 名誉教授 | 12 |
| 58 | 2022年12月8日 | 神奈川県 | 横須賀市教育委員 会 | 横須賀市人権啓 発講座「人権セ ミナー」 | 偏見、あるいはアンコンシ ャスバイアス、女性活躍を 考える | 北村 英哉 | 社会学部 | 15 |
| 59 | 2022年12月10日 | 東京都 | 杉並区永福和泉地 域区民センター協 議会 | 永福和泉地域区 民センター協議 会講座 | 日本列島一文学文化風土の 旅一 | 竹内 清己 | 名誉教授 | 62 |
| 60 | 2022年12月11日 | 東京都 | 文京区立千石図書 館 | 千石図書館文化 講座 | 詩を楽しむ | 近藤 裕子 | 経済学部 | 29 |
| 61 | 2022年12月12日 | 岩手県 | 洋野町職員組合 保育部会 | 洋野町職員組合 保育部会学習会 | 「遊び」の中で育つ学びに 向かう力 | 内田 千春 | ライフデザ イン学部 | 32 |
| 62 | 2022年12月14日 | 山形県 | 山形県 小国町 | 小国町 SDGs 推 進事業 | 地域を開く未来世代へのメ ッセージー30年後の世界を 展望しよう!!ー | 青木 辰司 | 名誉教授 | 65 |
| 63 | 2022年12月15日 | 山梨県 | 富士吉田市教育委 員会 | 富士の里市民大 学必修講座 | 睡眠中の夢と心の健康 | 松田 英子 | 社会学部 | 40 |
| 受講者計 | | | | | | | | 2613 |

研修支援プログラム

| No | 開催日時 | 開催県 | 団体名 | 開催する会 | 講演テーマ | 派遣教員 | 所属学部 | 受講者数 |
|------|------------|-----|-----------------------------------|---|--|-------|------------|------|
| 1 | 2022年6月22日 | 埼玉県 | 比企郡 PTA 連合会 / 東松山市 PTA 連 合会 | 家庭教育委員研 修会 | たかがアニメの教育学ーサ ザエさん、ちびまる子ちゃ ん、クレヨンしんちゃんー | 藤本 典裕 | 文学部 | 90 |
| 2 | 2022年8月3日 | 千葉県 | 一般社団法人 千 葉県経済協議会 | 令和4年度講演 会 | 激動の世界と日本を取り巻 く国際情勢を読み解く | 西川 吉光 | 名誉教授 | 67 |
| 3 | 2022年11月9日 | 東京都 | ソルベイジャパン 株式会社 | CITIZEN DAY (Diversity, Equity, Inclusion) | ダイバーシティとは | 加藤千恵子 | 総合情報 学部 | 106 |
| 受講者計 | | | | | | | | 263 |

SDGs 達成学習支援プログラム

| No | 開催日時 | 開催県 | 団体名 | 開催する会 | 講演テーマ | 派遣教員 | 所属学部 | 受講者数 |
|----|------------|-----|------------------|-----------------------------|--|-------|------------|------|
| 1 | 2022年6月11日 | 東京都 | 文教大学付属中学 高等学校 | 大学体験授業 | 数値の正しい理解とコロナ 対策 | 小山 信也 | 理工学部 | 20 |
| 2 | 2022年6月21日 | 東京都 | 足立区立古千谷小 学校 | 総合的な学習の 時間 | ブラジルのこどもはみんな サッカーが上手なんて、嘘 だから | 紀 葉子 | 社会学部 | 92 |
| 3 | 2022年6月22日 | 岩手県 | 盛岡市立松園中学 校 | 総合的な学習の 時間ハチドリプ ロジェクト | 共に生きる社会について考 える | 中挾知延子 | 国際観光 学部 | 100 |
| 4 | 2022年6月23日 | 栃木県 | 栃木県立足利高等 学校 | 総合的な探究の 時間 | 偏見、あるいはアンコンシ ャスバイアス、男女平等に ついて考える | 北村 英哉 | 社会学部 | 336 |

| No | 開催日時 | 開催県 | 団体名 | 開催する会 | 講演テーマ | 派遣教員 | 所属学部 | 受講者数 |
|-------|-------------|------|---------------|----------------|--|-------|-----------|------|
| 5 | 2022年6月25日 | 東京都 | 帝京高等学校 | 探究学習 | EUの気候変動・エネルギー政策 | 市川 颯 | 国際学部 | 56 |
| 6 | 2022年7月11日 | 東京都 | 成城中学校・成城高等学校 | 中1対象 補習兼 発展講習 | 身近な環境問題「光害」を考えよう | 越智 信彰 | 経営学部 | 130 |
| 7 | 2022年7月15日 | 茨城県 | つくば秀英高等学校 | キャリア探究講座 | 高校卒業後に待っている成年者としての世界 | 根岸 謙 | 法学部 | 66 |
| 8 | 2022年9月14日 | 神奈川県 | 神奈川県立川崎高等学校 | SDGs 講演会 | 人工知能と人間社会 | 佐野 崇 | 情報連携学部 | 617 |
| 9 | 2022年9月15日 | 神奈川県 | 横浜市立あかね台中学校 | SDGs 1 学年学習会 | ダイバーシティとは：皆が楽しく過ごせる社会を作りましょう | 加藤千恵子 | 総合情報学部 | 155 |
| 10 | 2022年9月28日 | 東京都 | 都立足立高等学校 定時制 | 1 学年 ロングホームルーム | この地球にさまざまな生きものがいること | 金子 有子 | 文学部 | 22 |
| 11 | 2022年10月4日 | 神奈川県 | 神奈川県立厚木商業高校 | 生物研究 | 極限環境微生物の先端科学を SDGs 達成のために活かす | 伊藤 政博 | 生命科学部 | 30 |
| 12 | 2022年10月6日 | 埼玉県 | 埼玉県立入間向陽高等学校 | 教員向け人権教育研修会 | 子どもの権利の視点はなぜ必要か | 森田 明美 | 名誉教授 | 40 |
| 13 | 2022年10月19日 | 東京都 | 田園調布学園中等部・高等部 | 田園調布学園特別講義 | 数値の正しい理解とコロナ対策 | 小山 信也 | 理工学部 | 6 |
| 14 | 2022年10月25日 | 栃木県 | 栃木県立小山西高等学校 | 総合的な探究の時間 | 高校卒業後に待っている成年者としての世界 | 根岸 謙 | 法学部 | 190 |
| 15 | 2022年10月26日 | 埼玉県 | 埼玉県立川口青陵高等学校 | 総合的な探究の時間 | 食べ物の好き嫌いはなぜ生じるのか？ | 大瀬良知子 | 食環境科学部 | 261 |
| 16 | 2022年11月30日 | 新潟県 | 新潟県立新潟高等学校 | 総合学習 | 中高生からの数学研究法 | 小山 信也 | 理工学部 | 370 |
| 17 | 2022年11月30日 | 東京都 | 文化学園大学杉並中学校 | 中学1年総合的な学習 | 世界のまちのバリアフリー | 菅原麻衣子 | ライフデザイン学部 | 140 |
| 18 | 2022年12月8日 | 東京都 | 八王子市立別所中学校 | 総合的な学習の時間 SDGs | どうしてもやってしまう、どうしてもやめられないー非合理的な行動について考えようー | 久米 功一 | 経済学部 | 130 |
| 受講者計 | | | | | | | | 2761 |
| 受講者合計 | | | | | | | | 5637 |



2022年度利用者の方から寄せられた声①

生涯学習支援プログラム

利用団体：岐阜県 各務原国際協会

開催日時：2022年10月23日(日) 14:00～15:30(90分)

講師：多田 英明(法学部教授)

テーマ：欧州連合(EU)統合の現在

聴講者数：37名

◆利用した感想

複数の受講者の方から、また、今回のような国際情勢に関する生涯学習を開いてほしいというリクエストがあり、とても好評をいただきました。地方で、東京の大学の講義を直接受講できるというのは、とてもありがたい機会だと思いました。

多田教授が一般市民向けにわかりやすく解説してくださり、また、受講者からの質問にも丁寧に答えて下さり感謝しております。アンケートにもありましたが、学びの機会を逃してしまった方が、この講座を受講して、また学びたいと思うきっかけになったと言ってくくださったのが、とても印象的でした。

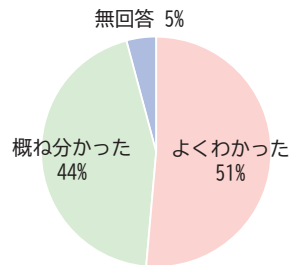
◆受講者の声

- ・これまで受講した講座の中でも、資料が良くできていて抜群に解りやすかった。
- ・学びたいと思っていたがその機会がなく、困っていた。今回思い切って参加して良かった。講義は大変わかりやすく、EUについてもっと学びたい、知りたいと思った。
- ・私は高校卒で、地理や歴史を深く勉強することもなく年を重ねてきてしまいました。この年になって、学びたいと思っていましたが、機会もなく、基礎知識もないので、なかなか勉強をする気にもなれず、困っていました。本日、思い切って参加して良かったです。大変分かりやすく、EUについて、もっと学びたい知りたいと思いました。本当にありがとうございました。

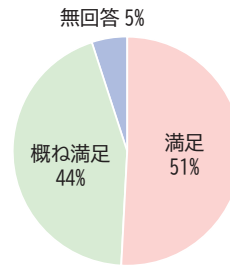


◆受講者アンケート結果（生涯学習プログラムのみアンケート収集）

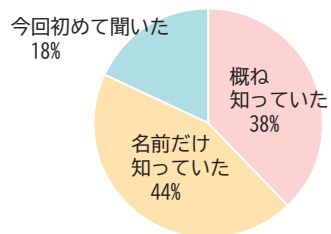
①内容のわかりやすさ



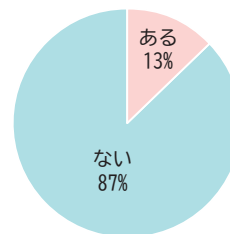
②講義の満足度



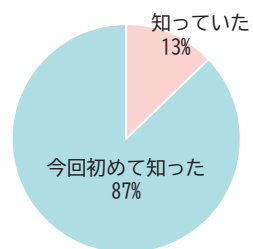
③「東洋大学」に関して（知名度）



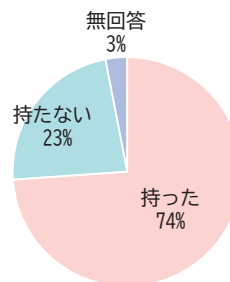
④「東洋大学講師派遣の講座を受講したことがありますか？」



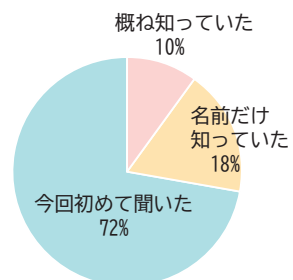
⑤本学の「講師派遣（無料派遣）」の社会貢献事業について



⑥講義に参加して本学への関心は持ちましたか？



⑦井上円了を知っていましたか？





2022年度利用者の方から寄せられた声②

研修支援プログラム

利用団体：埼玉県 比企郡 PTA 連合会／東松山市 PTA 連合会

開催日時：2022年6月22日(水) 13:30～15:00(90分)

講師：藤本 典裕(文学部教授)

テーマ：たかがアニメの教育学

－サザエさん、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃん－

聴講者数：90名

◆利用した感想

敷居が高いイメージのある大学の先生の講演が聴けるプログラムを準備してくださっていることにまず、感謝申し上げます。しかも、生涯学習支援プログラム、SDGs 達成学習支援プログラムにおいては、諸経費が掛からないということも大きな魅力です。市内の大学でも開かれた講座はありますが、内容を見ると専門的過ぎて選択肢から外れてしまいます。今後以降も利用させていただくのと同時に市 P 連事務局として単位 PTA にも広く広報をしていきたいと思えます。

◆受講者の声

- ・ダブルスタンダードや子供を急かしてないかなど自分自身反省すべき点や改善点もあり、勉強になりました。夫にも話したいです。自分の子供だけでなく近所の子供たちも育てる気持ちを持ちたいです。
- ・アニメのことに交えて、藤本先生のご自身の子育て経験をお話ししてくださり、大変共感いたしました。とても為になる講演でした。アニメの見方も変わり子どもと楽しんで今後も見たいと思います。
- ・家族の形態の過去からの変化と現代の違い、今の問題点を詳細に理解できました。時代の流れから今の状態になっているが、核家族化、地域の方々との関係の希薄化、それを緊密な関係に戻すのは時間がかかるものかと思えます。





2022年度利用者の方から寄せられた声③

SDGs 達成学習支援プログラム

利用団体：岩手県 盛岡市立松園中学校
開催日時：2022年6月22日(水) 14:30～15:30(60分)
講師：中挾 知延子(国際観光学部教授)
テーマ：共に生きる社会について考える
聴講者数：100名

◆利用した感想

地方においては、現在においても学びの機会が平等とは思えないことがございます。そのような中、この事業によって生徒に質の高い学びの場をいただけたことに感謝いたします。今回は世界に視野が広がるようなお話で、生徒たちはこれから先の自身の生き方についても希望をもてたようでした。

◆受講者の声

- ・東京の大学の先生が自分たちのために来てお話ししてくださるなんて凄いことだと思う。
- ・講師の先生がとても明るく、聞いているだけで自分たちの気持ちも明るくなった。
- ・先生の外国での生活の様子から、自分も関心が高まった。
- ・明るく急に歌いだすようなハッピーな村があると知ってとてもワクワクしました。ボランティアに行っている人が世界にたくさんいることも分かったし、そのためにもいろんな文化の人と関わりあうことは必要なんだなと思いました。
- ・私は今日の話聞いて、『みんなで』『陽気』『ポジティブ』などすごく良い言葉が何回も出てきて、自分たちもそういう雰囲気を作れたらなと思いました。



社会貢献部門

- 社会貢献情報収集
- 地域活性化活動支援事業
- 社会貢献活動助成・表彰制度
- SDGs 実践講座

社会貢献部門

社会貢献情報収集の概要

2013(平成25)年4月1日、生涯学習センターに代わって、生涯学習部門と社会貢献部門の2つの部門から構成される「社会貢献センター」が設置された。社会貢献部門では、本センターの目的である「生涯学習に対する社会的要請に基づき、生涯教育に関する諸事業を積極的に推進すること並びに本学で実施する社会貢献活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献活動の発展に寄与するとともに、社会に開かれた大学としての本学の発展に資すること」を達成するために、学内で実施されている社会貢献事業に関する情報収集活動を行った。本活動は、2013年度から10年目の活動となる。

1. 社会貢献情報収集

(1) 経緯

- 12月中旬～ 調査開始(学部長会議及び事務局部長会を經由して個別に依頼)
1月中旬～3月上旬 Googleフォーム・Googleスプレッドシート・Excelフォームにて情報を回収・集約

(2) 情報の収集

2022年度の調査では、新規分を含め全学への協力依頼と併せて、前年度調査に回答のあった事業に対しては、引き続き、前年度の内容に加筆・修正を加えるよう依頼した。

なお、調査結果は、本センターのホームページに掲載しているが、ホームページの充実強化を図るため、①「社会貢献事業実施状況調査」結果一覧で特色あるもの、②学内のホームページに掲載されていた社会貢献に関する活動についても併せて掲載している。

(3) 「社会貢献」の定義

大学の役割としては、第1に高度な専門性に根差した学生の教育があり、第2に教員の研究成果の公表による技術開発や社会的課題解決への寄与がある。また、これらを基盤として、第3に地域社会や国際社会等、より広い意味での社会発展への貢献がある。本センターでは、調査にあたって「社会貢献」の定義を明確にする必要があったことから、例年と同様に『教職員等の持つ専門的な知識や技術を、広く社会の人々に提供する講座・講師派遣等の活動、特定の地域(国内外)や団体・機関と連携した地域づくりや地域課題解決への貢献』を調査対象とした。

なお、多様な水準での政策策定への貢献となる各種審議会や委員会への参加等も社会貢献活動に含まれるが、人事課及び各学部教務課をはじめ研究推進課等の教務関係所管部署がその実態を把握していることと、「東洋大学研究者データベース」の掲載にて一般公開している(もしくは公開可能)と考えられたことから、2022年度調査においても調査対象とはしないこととした。

参考：大学の「社会貢献」についての文部科学省の見解

大学は教育と研究を本来的な使命としているが、同時に、大学に期待される役割も変化しつつあり、現在においては、大学の社会貢献(地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体の発展への寄与)の重要性が強調されるようになってきている。当然のことながら、教育や研究それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、近年では、国際協力、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献も求められるようになっており、こうした社会貢献の役割を、言わば大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代となっているものと考えられる。

(出典：平成17年中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」)

(4) 調査結果及び公表(参照：2022年度データ)

教員が実施している社会貢献活動が73事業(従来の地域貢献・振興、社会福祉、環境共生、産官学民連携、高大連携、生涯学習、キャリア教育、哲学教育、国際協力等の区分から代表的なSDGs 17目標の区分へ変更する)、事務局や研究所・センターが中心になって実施している社会貢献活動が50事業、合計123事業であった。いずれも、調査回答提出者・調査対象該当者からの延べ件数で、さらにコロナ禍等による計画中止等のものは含まれていない。

なお、結果は、本学の社会貢献活動のより一層の推進に資するため、「社会貢献活動一覧」とともに、各分野の典型的な事例をピックアップし、本センターのホームページにて紹介している。

【学部】

| 文 | 経済 | 経営 | 法 | 社会 | 国際 | 国際観光 | 理工 | 総合情報 | 生命科 | 食環境科 | ライフデザイン | 情報連携 |
|---|----|----|---|----|----|------|----|------|-----|------|---------|------|
| 7 | 0 | 8 | 7 | 5 | 1 | 18 | 5 | 4 | 4 | 2 | 12 | 0 |

【その他】

| 大学院 | 研究所・センター | 事務局(※) | 合計 |
|-----|----------|--------|-----|
| 0 | 27 | 23 | 123 |

※事務局には学科単位の件数を含む。

注：提出者・調査該当のみ

2022年度調査 社会貢献活動一覧

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 教員氏名 | 所属学科等 |
|-----|---|-------------------|--------------|------------------------------|---|-------|----------|
| 1 | 記念館アカデミー | 賀茂真淵記念館 | ④質の高い教育をみんなに | 一般市民 | 静岡県浜松市の賀茂真淵記念館が行っている市民講座「記念館アカデミー」で、「賀茂真淵の手紙を読む」と題して全3回の講座を行った。 | 高松 亮太 | |
| 2 | 文京区秋の文化祭書道展 | 文京区 アカデミー推進課 | 該当無し | 一般市民 | 文京区書道展に出品される作品のうち、漢字作品約140点の審査を行い、受賞作品の選出を行った。約2時間審査を行い、審査員計6名で協議のうえ、区长賞2点、書道連盟賞2点、佳作14点、奨励賞16点の選出を行った。 実施日：10月5日 13:00～15:00 場所：文京シビック ギャラリー | 川内 佑毅 | 日本文学文化学科 |
| 3 | 「わくわくワークショップ」 | 社団法人 日展 | ④質の高い教育をみんなに | 小中学生、一般市民 | 親子参加の体験型ワークショップのアシスタントを担当。書道作品制作のワークショップのうち、篆刻の作成の指導補助を担った。計4組8名の篆刻ワークショップを担当した。 実施日：11月13日 場所：国立新美術館 講堂 | | |
| 4 | Sherpa (Senior High English Reform Project ALC) | 株式会社アルク | ④質の高い教育をみんなに | 高校または中高一貫校の英語教員、英語教員志望者 | 2010年(H22)3月に、立ち上げたプロジェクトで、高校英語授業改善に貢献することを目的とした活動。授業モデルや方法を、セミナー・書籍・教材を通じて提案。そこでの経験や現職教員とのネットワークを、本学で担当する教職科目を通して履修学生に還元。 ①週1ミーティング(オンライン)で、書籍・教材・セミナーの企画や調査で得たデータの分析。 ②Sherpa Channel:メンバー(3名)による英語教育の諸問題についてのディスカッション(→YouTubeに動画をアップロード)月3回程度。 ③Sherpaセミナー(オンライン):英語教育セミナー(回によって講師またはコメンテーター担当)月1開催。 5/29, 6/26, 7/31, 8/21, 9/25, 10/30, 11/27, 1/29, 2/26, 3/26(1~3月は予定日)。 活動報告・案内URL https://alc-nds.com/ltaf/2021/09/20/sherpa/ | 大田 悦子 | 英米文学科 |
| 5 | (青森県)進学力を高める高校支援事業 | 青森県立三本木高等学校 | ④質の高い教育をみんなに | 三本木高校・附属中学校英語科教員、周辺地区の中高英語教員 | 生徒の発信力強化のための英語指導力向上を目的に当該校で取り組んでいる英語授業指導改善研究会(年3回)に助言者として参加。 「進学力を高める高校支援事業 研究会」助言者。 7/7(オンライン), 9/5-6(三本木高校), 2/16(オンライン)計3回実施。 | | |
| 6 | 病弱教育部門授業研究会 | 東京都立北特別支援学校 | ④質の高い教育をみんなに | 特別支援学校教員 | 特別支援学校教員(病弱教育担当)の授業力向上をめざした校内研修。 | 谷口 明子 | |
| 7 | 学校研究 | 埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校 | ④質の高い教育をみんなに | 特別支援学校教員 | 実施主体が学校研究として行う研究授業について「授業の指導助言」および各教育課程のテーマに沿った「指導講評」を年間(年度内)5回実施した。 | 大江 啓賢 | 教育学科 |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 教員氏名 | 所属学科等 |
|-----|---|----------------------|------------------|----------------------|---|-------|------------|
| 8 | 基調講演「中小企業振興基本条例制定に向けて：労働団体が取り組む意義」およびパネルディスカッション・連合中小企業振興基本条例制定に向けたシンポジウム | 日本労働組合総連合会 | ⑧働きがいも経済成長も | 中小企業経営者・社員 | 日本労働組合総連合会の中小企業振興基本条例の制定・普及に向けたシンポジウムで、基調講演とパネルディスカッション・パネリストを務めた。2022年10月3日。 活動報告URL https://www.jtuc-rengo.or.jp/news/news_detail.php?id=1885 | | |
| 9 | 日本金型工業会中部支部 第40回金型関連技術発表・特別講演会・基調講演「中小企業経営者・従業員のアントレプレナーシップと高付加価値経営」 | 日本金型工業会中部支部 | ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう | 金型企業の経営者 | 日本金型工業会中部支部 第40回金型関連技術発表・特別講演会で、基調講演を務めた。 | 山本 聡 | 経営学科 |
| 10 | 大同生命保険株式会社 創業120周年記念「中小企業の経営変革に向けたシンポジウム」基調講演「ドイツ中小企業経営からの示唆」とパネルディスカッション参加 | 大同生命保険株式会社 | ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう | 中小企業経営者、政府・行政、公的機関など | 大同生命 創業120周年記念シンポジウムで、基調講演とパネルディスカッション・パネリストを務めた。 活動報告URL https://www.daido-symposium.jp/ | | |
| 11 | 日本鑄造工学会創立90周年記念式典特別講演「中小企業の現状と方向性～外部環境の変化に対峙する経営者の姿～」 | 日本鑄造工学会 | ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう | 中小企業経営者、政府・行政、公的機関など | 日本鑄造工学会 創立90周年記念式典で、基調講演を務めた。なお、山本は日本鑄造工学会会員ではないため、社会貢献の一環である。 活動報告URL https://jfs.or.jp/90ceremony/ | | |
| 12 | アストロツーリズム推進に向けての講演会での講演「美しい星空と自然環境を守るための光害対策」 | 沖縄県環境部 | ⑪住み続けられるまちづくりを | 一般市民 | 沖縄県環境部による令和4年度世界自然遺産ブランディング事業の一環として行われた講演会にて、一般向けの講演を実施。 | | |
| 13 | 小学校出前授業「神津島の星空を守ろう、誇ろう！～光害のはなし～」 | 神津島村 | ⑪住み続けられるまちづくりを | 小学生 | 神津島村立神津小学校5・6年生を対象とした授業を実施。 | 越智 信彰 | 会計ファイナンス学科 |
| 14 | 出前講座「光のワークショップ」 | 照明学会東京支部 | ⑪住み続けられるまちづくりを | 小学生 | 神田児童館にて小学生を対象とした出前講座(実験教室)を実施。 | | |
| 15 | 星空保護区シンポジウムの主催、講演 | 国際ダークスカイ協会東京支部 | ⑪住み続けられるまちづくりを | 一般市民 | 福井県大野市にて一般市民向けシンポジウムを主催(協力：大野市)。「光害について」の講演も実施。大野市長、地元天文クラブなども登壇。 | | |
| 16 | 情報公開と個人情報保護 | 市町村職員中央研修所(市町村アカデミー) | ⑩平和と公正をすべての人に | 全国の市町村職員 | 「公文書管理のあり方」と題する講義を行った。 | | |
| 17 | 令和4年度板橋グリーンカレッジ専門課程(後期)【社会生活コース】 | 板橋区 | ⑩平和と公正をすべての人に | 板橋区民 | 「法を知って自分を守ろう！」と題し、以下の日程・テーマで3回にわたり講義を行った。 ・10月31日：法的思考の基礎知識 ・11月7日：私法で自分を守ろう！ ・11月14日：公法で自分を守ろう！ | 早川 和宏 | 法律学科 |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 教員氏名 | 所属学科等 |
|-----|--------------------|---|----------------|------------------------|---|------------------------|---------------|
| 18 | 和光市公文書管理セミナー | 和光市 | ⑩平和と公正をすべての人に | 和光市職員 | 「法を知って自分を守ろう！～公法で自分を守ろう！～」と題する講義を行った。 | 早川 和宏 | 法律学科 |
| 19 | 川口市情報公開・個人情報保護研修会 | 川口市 | ⑩平和と公正をすべての人に | 川口市職員 | 「情報公開制度をめぐる最近の動向」と題する講義を行った。 | | |
| 20 | 模擬裁判 | 模擬裁判実行委員会 | 該当無し | 学生および一般市民 | 学園祭(白山祭)の実施期間において、学生による模擬裁判(法廷劇)を実施している。本模擬裁判では法学部の現役の学生が主体となり実際にあった事件をベースに法廷劇のシナリオなどを作成し、劇当日に来場者に対し披露している。本模擬裁判は裁判員裁判の形式を取り、法学部の刑事法教員がシナリオ作成などにおいて適宜指導している。 | 武藤 眞朗 松田 正照 小坂 亮 | 法律学科 企業法学科 |
| 21 | 認定看護管理者教育課程セカンドレベル | (公)愛知県看護協会 | ⑧働きがいも経済成長も | 愛知県看護協会所属看護師(看護部長相当対象) | 認定看護管理者研修(セカンドレベル)において、看護部長等の管理者を対象に、労働安全衛生法の概要と労災防止対策を講義した(人材管理Ⅱ人事・労務管理として11月11日午後3時間実施)。 | 北岡 大介 | 企業法学科 |
| 22 | 令和4年度神奈川労働大学講座 | (公)神奈川県労働福祉協会 | ⑧働きがいも経済成長も | 一般市民 | 勤労者・企業担当者等の一般市民を対象に、労働法等の体系的講義を行う事業であり、そのうち「労働安全衛生をめぐる諸問題と対応策」を講義した。 | | |
| 23 | 孤独・孤立に関する中間支援組織調査 | 孤独・孤立官民連携PF(内閣府・日本NPOセンター・一般社団法人RCF孤独孤立対策支援室) | ③すべての人に健康と福祉を | 孤独・孤立に関する行政組織および民間組織 | 全国1223件のボランティア支援センター・市民活動支援組織を対象とするアンケート調査の調査票作成および結果の分析。 | 須田木綿子 | |
| 24 | NPO支援調査 | 日本NPOセンター | ⑪住み続けられるまちづくりを | 市民活動支援組織、ボランティア・NPO団体 | 全国約500件のボランティア支援センターおよび市民活動支援組織を対象とするアンケート調査の調査票作成および結果の分析。 | | |
| 25 | 民間助成活動 | トヨタ財団 | ⑪住み続けられるまちづくりを | まちづくりに関わる民間組織 | コロナ後の「新常态における新たな着想に基づく自治型社会の推進」をテーマに申請を募り、審査を経て、優れた申請案件に助成を行う。 | | |
| 26 | 文京あじさい祭りでのボランティア活動 | 社会学科「社会調査および実習」西野淑美クラスと川副クラス(イベントの実施主体は「文京あじさい祭り実行委員会」) | ⑪住み続けられるまちづくりを | 地域住民・一般市民 | 「文京あじさい祭り」は白山神社境内で毎年6月(2020・2021年は中止)に行われている、地域の交流や活性化をねらった地域行事で、白山地域の住民等有志によって実施・運営されている。2015年より毎年、社会学科の「社会調査および実習」や「社会学演習Ⅰ」の受講学生等が当日の設営・ブース運営・会場管理・外国人向け通訳等を手伝っており、継続的な地域支援の活動となっている。 | 西野 淑美 川副早央里 | 社会学科 |
| 27 | 「白山下Magazine」の制作 | 社会学科「社会調査および実習」川副クラス | ⑪住み続けられるまちづくりを | 地域住民・一般住民 | 「社会調査および実習」の受講生の一部が、白山下商店会の店舗へのインタビュー調査を行い、同商店会が主催する商店街マップづくりプロジェクトに参加した。その調査結果に基づいて、商店会を紹介する冊子「白山下Magazine」を作成し、店舗や商店会の魅力を発信し、地域住民や大学生の商店街利用を促す活動を行った。 | 川副早央里 | |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 教員氏名 | 所属学科等 |
|-----|---------------------|---------------------|----------------|-----------------------|---|-------|--------|
| 28 | 荒川知水資料館を利用した広報展開の提案 | 国際地域学科荒巻ゼミナール | ①住み続けられるまちづくりを | 流域の一般市民や関係者 | 国土交通省荒川下流河川事務所および日本生態系協会との連携のもと、流域市民や関係者に荒川の防災や環境についてより意識をしていただくためのプログラムを検討し、上記事務所に提案した。さらに、提案内容を北区観光協会にて採用いただき、観光協会のイベントとして実施する際の協力を行った。 | 荒巻 俊也 | 国際地域学科 |
| 29 | 豊の国商人塾 | 大分県商店街振興組合連合会 | ⑧働きがいも経済成長も | 企業経営者、事業承継者、会社員、団体職員等 | 大分県内の商工事業者並びに会社員や団体職員等に対して、最先端の取り組みに従事する人材を登用した研修をオーガナイズすることで、人材育成を図る取り組みで、現在までに36年にわたる歴史がある。こちらの塾頭を務めている。 | 佐々木 茂 | |
| 30 | 新型コロナウイルス感染症対策部会 | (一社) 日本旅行業協会 | ⑧働きがいも経済成長も | 旅行業界 | 2021年3月から毎月定例会議を行い感染対策ガイドライン、ワクチン・検査パッケージ等の策定と実施を行う。アドバイザーを務め、成果を論文として発表。 | | |
| 31 | 日本渡航医学会海外旅行委員会委員 | 日本渡航医学会 | ③すべての人に健康と福祉を | 日本渡航医学会会員(医師、看護師、役人) | コロナの教訓を基に、感染症対策と国際交流の医療率を研究し、提言する。大越委員長のもとにコロナの現場での教訓を集約中。 | | |
| 32 | 日本旅行業協会旅行未来塾 | (一社) 日本旅行業協会 | ④質の高い教育をみんなに | 日本旅行業協会会員 | ポストコロナの旅行業の未来を担う次世代リーダーの育成を行う。9月29日、30日に講演(オンラインで1000名)と講座(対面で50名)。 | | |
| 33 | CMO JAPAN SUMMIT | マーカスエバンス | ⑧働きがいも経済成長も | 産業界・行政 | 営業戦略を司る経営幹部を対象に、未来戦略を学ぶ2日間のサミット。ポストコロナの観光産業について10月18日の講演と19日のパネルディスカッションのモデレータを行う。100名視聴。 | | 国際観光学科 |
| 34 | 第39回全国修学旅行研究大会 | (公益社団法人) 全国修学旅行研究協会 | ④質の高い教育をみんなに | 教育関係者・企業 | 修学旅行の課題と展望を研究発表する大会。テーマは「学びの集大成を図る修学旅行～コロナ禍。そしてもう一つの修学旅行」。7月22日基調講演「これからの修学旅行を考える」を行う。対面70名、オンラインで200名視聴。 | 越智 良典 | |
| 35 | 全社会議 | KNT-CTホールディングス株式会社 | ⑧働きがいも経済成長も | 幹部社員 | グループ会社経営幹部を対象とする年に1度の会議で、SDGsを全車にどう浸透させるかがテーマ。4月28日パネリストとして、過去のKNT-CTの取り組み、国際観光での取り組みの現状を説明し、これからの取り組み方を提案。 | | |
| 36 | JATA経営フォーラム | (一社) 日本旅行業協会 | ⑧働きがいも経済成長も | 日本旅行業協会会員 | 分科会G「大学生から見た旅行業～JATAインターンシップを通して」の企画運営、ファシリテーションを行う。2月1日に東洋大学を含む4大学学生4名と就活を通じて旅行業を通じてどう社会に貢献するかを語り合う。オンライン250名視聴。 | | |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 教員氏名 | 所属学科等 |
|-----|---|----------------------------------|------------------|---------------------------|--|-------|--------|
| 37 | 多々良沼の観光振興プロジェクト | 多々良沼・城沼自然再生協議会、群馬県、館林市など | ⑩住み続けられるまちづくりを | 一般市民、観光客 | 自然再生推進法に基づき、群馬県庁や館林市などが、多々良沼・城沼の自然再生事業を実施している。水質改善や外来種対策などの他にも、観光利用の推進が主要課題となっているが、東洋大学国際観光学部の東海林ゼミのゼミ活動の一環として、学生ならではの視点での観光振興プロジェクトとして、観光リーフレット、ストリートビューやプロモーションビデオの企画・実施をしている。 | 東海林克彦 | 国際観光学科 |
| 38 | 大阪万博2025 | 国・大阪府・大阪市・公益社団法人2025年日本国際博覧会協会など | ⑩住み続けられるまちづくりを | 一般市民、日本人&外国人観光客 | 「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで開催されるものであるが、人と動物との共生をアピールできる万博にするため、ペット同伴を可とすることによる誘客、日本人の動物に対する細やかな感性や文化・日本のペット産業や技術の海外への情報発信などが検討されている。これらの試みを企画・実行に移すための総括アドバイザーとして知見の提供などを行っている。 | | |
| 39 | バーチャル白山キャンパス・プロジェクト | 東海林ゼミ | ⑩住み続けられるまちづくりを | 一般市民、東洋大学卒業生、東洋大学受験生 | 一般市民、東洋大学卒業生、東洋大学受験生などに、白山キャンパスの魅力を知ってもらうために、360度全地球写真、ドローンによる空撮動画、タイムラプス映像などを駆使したストリートビューを作成している。なお、この活動は、景観資源の保全活用に関する研究と国際観光学部東海林ゼミのゼミ演習の一環として行っている。 | | |
| 40 | 第31回 海事・観光立国フォーラム in 沖縄2023 「沖縄・美ら海の歴史と無限の可能性～海事・観光の未来に向けて～」 | 公益財団法人日本海事センター | ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう | 海事・観光関係者、公共交通・金融等の一般企業、個人 | フォーラムのプログラムである「沖縄観光における女性活躍とニューノーマル時代における沖縄観光について語り合うシンポジウム」において、モデレーターを務めた。 | 森下 晶美 | |
| 41 | 「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」専門家(アドバイザー) | 観光庁 | ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう | 観光庁事業に採択された観光事業者 | 観光庁事業に採択された事業者への観光資源の磨き上げや販路開拓に関する研修で「マーケティングによるターゲット設定」の講義と助言。 | | |
| 42 | 東洋大学観光短編映画祭 | 大学院国際観光学専攻科 | ⑫つくる責任つかう責任 | 学生、国内外一般市民 | 「持続可能な観光」をテーマに映像作品を国内外から公募し、新しい持続可能な観光を提案する映画、新しい映像スタイルによって観光の新規開拓を実現しうる映画に賞を与え、これらを含む入選作品を上映。映画祭の運営は院生スタッフ中心に行った。 | 増子 美穂 | |
| 43 | 講義セミナー | 京都大学経営大学院 | ⑩住み続けられるまちづくりを | 京都大学経営大学院学生 | 90年代後半から各国政府観光局(DMO)においてデスティネーションをブランド化する動きが高まっている。英米DMOの実務経験者として講義を行った。 | 宮崎 裕二 | |
| 44 | 京都大学・DMO推進機構共済のデスティネーションエッセンスセミナー | 京都大学経営大学院 | ⑩住み続けられるまちづくりを | 京都大学経営大学院学生および日本全国DMOの社員 | 90年代後半から海外の政府観光局(DMO)においてデスティネーションをブランド化する動きが高まっている。英米DMOの実務経験者として講義を行った。 | | |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 教員氏名 | 所属学科等 |
|-----|---|----------------------------|--------------|--|--|---|-----------|
| 45 | 海外広報力向上のための講習会 海外の成功事例から広報戦略を学ぶ | 東京都 | ④質の高い教育をみんなに | 東京都庁職員 | 訪日外国人観光客の受け入れが再開し、観光立国としての日本に期待が高まっている。 本講習会では、東京都庁職員が東京都の魅力を発信する際に役立てていただくため、アメリカやイギリスなど海外の成功事例から、国・地域・自治体のブランド戦略を学ぶための講義を行った。 | | |
| 46 | 履修証明プログラム北陸観光コア人材育成スクール「DMO・マネジメントⅡ(ケースメソッドⅡ)」の講義活動並びに講義に係るシラバス、課題とそのルーブリックの作成及び課題の添削 | 北陸先端科学技術大学院大学 | ④質の高い教育をみんなに | 石川県を中心とする観光関連従事者(県庁・自治体・宿泊施設・観光施設・観光地づくり・旅行業等)および北陸先端科学技術大学院大学教員 | 本講義の目的は、受講生が国・地域ブランディングを、日本独特の視点ではなく、グローバルな視点から理解し、実務で実践することをめざすことである。観光客をめぐる各国の競争競争が激化する中、選ばれるための北陸地方となるブランド戦略を構築する。 | 宮崎 裕二 | 国際観光学科 |
| 47 | 山車ロボットコンテスト | 機械工学科(共催：日本機械学会関東支部埼玉ブロック) | ④質の高い教育をみんなに | 高校生 | 2022年11月27日に第17回めとなる「山車ロボットコンテスト」を開催。企画運営は学科内の有志教員であり、高校生向けに技術開発と成果発表の機会を提供するもの。今回は3年ぶりにウェスタ川越を会場とするリアル開催。埼玉県内の5つの高校から35名が参加し、高校生たちが作った合計11台のロボットが競技に挑み、技術性と芸術性を競った。 | 松元 明弘 (代表) 山川 聡子 山田 和明 横田 祥 | |
| 48 | 令和4年度川越市小・中・大学連携理科ふれあい事業 | 川越市立教育センター | ④質の高い教育をみんなに | 小学生 | 理科ふれあい事業には2012年より協力。新型コロナウイルスの影響により3年ぶりの開催となった。 講座「ロケットを飛ばそう」は小学校2校で実施しており、高階北小学校(2022年7月19日)は6年生95名、川越西小学校(2022年9月16日)は4～6年生32名が参加。 ロケットの飛行原理を学習した後、ロケットのミニチュア模型を製作して校庭で飛行試験を行った。 | 藤松 信義 | 機械工学科 |
| 49 | 総合テレビ「笑わない数学」の監修 | 日本放送協会(NHK) | ④質の高い教育をみんなに | 一般視聴者 | NHK総合テレビで放送された「笑わない数学」の監修を行った。最先端の数学を一般視聴者にわかりやすく紹介する知的エンターテインメント番組で、2022年9月度のギャラクシー賞、ならびに2022年度上半期ギャラクシー賞奨励賞を受賞した。放送日：2022年7月～9月の毎週水曜23時～23時30分。 | 小山 信也 | 生体医工学科 |
| 50 | 小学生向け授業の企画運営 | NPO「子ども大学かわごえ」 | ④質の高い教育をみんなに | 川越市・鶴ヶ島市・坂戸市の小学生高学年 | 大学の教授や研究者、専門家を講師として、子ども達のなぜと言う疑問に答えて大きな知的刺激を与え知的成長を促す。2022年度は9月と11月にそれぞれ2テーマのオンライン授業を計画。 | 佐野 勇司 | 電気電子情報工学科 |
| 51 | 県立高等技術専門学校訓練生への講義 | 埼玉県 | ④質の高い教育をみんなに | 中央高等技術専門学校と川口高等技術専門学校の生徒 | 2つの県立高等技術専門学校の生徒を対象に、室内環境の快適生の予測・評価手法をテーマとした環境実習授業を行った。本事業は2016年度から毎年実施している。2022年度は8月24日に行った。 | イム ウンス | 建築学科 |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 教員氏名 | 所属学科等 |
|-----|---|-------------------------------|----------------|-------------|---|-------|--------|
| 52 | 生きものを育む田んぼプロジェクト | NPO法人かわごえ里山イニシアチブ、高梨農園 | ⑮陸の豊かさも守ろう | 市民、地元農家 | 2014年度から任意団体、2017年度からNPO法人として活動しているかわごえ里山イニシアチブの運営に協力している。2022年度は継続して現場での調査・農作業への協力、オンラインでの会議や懇談会などの協力などを行うとともに、これまで共同研究で構築してきた「田んぼカメラ」を活用した農事アドバイスシステムのプロトタイプを制作した。 | | |
| 53 | 川越キャンパス「こもればの森」における里山林保全活動 | 川越キャンパスこもればの森・里山支援隊 | ⑮陸の豊かさも守ろう | 市民、大学教職員、学生 | 2022年度は学内外の構成員及び本学学生を対象とした活動を再開して、年間7回の里山林保全活動を実施した。また、外部コミュニケーションの一環として「第13回こもれば祭」において「里山体験と木工教室」を出展した。 | | |
| 54 | 「アースデイ川越 in 昭和の街2022」の会場とオンラインによるハイブリッド開催とワークショップ出展 | かわごえ環境ネットワーク、アースデイ・イン・川越実行委員会 | ⑪住み続けられるまちづくりを | 市民 | SDGsの周知啓発を目的とした、24回目の「アースデイ川越」の実行委員長を前回の2021年に引き続いて務め、2019年以来3年ぶりに川越中心市街地にある蓮馨寺を会場として実施することができた。また、地域活性化研究所の研究計画として、コロナ禍の状況に対応してステージにおけるプレゼンテーションとイベントをオンライン同時配信した。また、各出展者をつなげるスタンプラリーとアンケートを企画して来場者に多くの体験をしてもらうとともに、意見聴取して今後の活動に資する基礎資料を収集することができた。さらに研究所として、『川越の建物 近代建築編』『川越の建物 蔵造り編』を出版した仙波書房と共同で『親子で学ぶ「川越の近代建築と蔵造りめぐり」』を出展した。 | 小瀬 博之 | 総合情報学科 |
| 55 | 『留学のためのチカラ』を伸ばすセミナー | 徳島県教育委員会 | ④質の高い教育をみんなに | 徳島県内の高校生 | 『留学のためのチカラ』を伸ばすことを主目的として、留学を希望している高校生を対象に2日間のセミナーを行った。1日目は、留学の種類とメリット・デメリットを説明し、そしてリスニング・スピーキングの理論や学習方法を取り上げた。2日目は講義形式のリスニングが一般的なリスニングとどのように異なるかを紹介しながらメカニズムを説明し、ノートテイキングを含むアカデミックリスニングを実践した。対面・オンラインといずれの形の留学においても話し言葉における理解・発信力を向上させることは重要であり、この分野における近年の応用言語学研究結果を知ることは留学を希望する高校生にとって有益になると考えられる。 | 金子 雅也 | |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 教員氏名 | 所属学科等 |
|-----|-------------------------------------|----------------------|---------------|-------------------------|--|---------------|---------|
| 56 | つきみ野ビオトーププロジェクト | 任意団体 つきみ野ビオトーププロジェクト | ④質の高い教育をみんなに | プロジェクトメンバー | 活動歴17年目のプロジェクト。地域市民が主催し、「命」をテーマに子と親が共に学び育つ先駆的な体験的環境学習プロジェクト。すでに総参加者総数は、約1.5万人。延開催回数は250回以上。HP／ブログは、プロジェクト代表の小池と顧問で運営されている(https://biotop-project.blogspot.com/?zx=7fd1edcba151cc9e)。ブログでは活動案内・報告の他、身近な環境・生き物の話題を年間210回(延約1450回)ほど更新しているプロジェクト。こちらで1月22日(日曜日)に「ホルモンって知ってる?」と題して講演を行った。 | 金子 律子 | 生命科学科 |
| 57 | ルイス・キャロルの小説「不思議の国のアリス」の一部をナレーションで紹介 | NHK 出版 | ④質の高い教育をみんなに | 読者 | 下記書籍に付属する英語音声の声優を担当した。 『「不思議の国のアリス」で深める英文解釈12講：「ナンセンスの王国」に英文法で迫る』 著者：勝田悠紀、イラスト：はしや | Ashton Steven | |
| 58 | 日本技術士会の若手会員を対象とした英語ワークショップ | 公益社団法人日本技術士会 | ④質の高い教育をみんなに | 若手技術者 | 若手技術者委員会(日本技術士会の一部)の要請で、若手技術者向けの英語コミュニケーションワークショップをオンラインで開催した。 | | |
| 59 | サイエンスカフェみたか | 三鷹ネットワーク大学推進機構 | ④質の高い教育をみんなに | 一般市民 | 主にサイエンスに興味のある大人向けに、サイエンスカフェ形式により開催する、入門～初級程度の難易度の講座。2022年5月26日に「植物はすごい!—過酷な環境でも生き残るしくみ」というタイトルでオンラインによる実施。 | 梅原三貴久 | 応用生物科学科 |
| 60 | 認知症介護実践リーダー研修 | 社会福祉法人群馬県社会福祉事業団 | ③すべての人に健康と福祉を | 介護福祉士ほか | 主に老人保健施設ではたらく介護福祉士を対象に、認知症の病態の講義及び、それに基づく適切なケアの方法について指導した。 | | |
| 61 | 認知症対応型サービス事業開設者研修 | 社会福祉法人群馬県社会福祉事業団 | ③すべての人に健康と福祉を | 介護福祉施設管理者ほか | 介護福祉施設を運営するスタッフに対し、認知症の病態を講義し、それに基づく適切なケアを提供するための施設としてのあり方について指導した。 | 高鶴 裕介 | 健康栄養学科 |
| 62 | 日韓学生交流プログラム | 古川和稔ゼミ | ③すべての人に健康と福祉を | カトリックサンジ大学の学生および東洋大学の学生 | カトリックサンジ大学の学生と、東洋大学の古川ゼミの学生とで、定期的リモート交流を行っている。 | | |
| 63 | 東洋スマホ教室 | 古川和稔ゼミと赤羽八幡自治会 | ③すべての人に健康と福祉を | 一般市民 | 毎月第二水曜日に、赤羽八幡自治会館にて、古川和稔ゼミの学生数名が出張する形で、スマホ教室を実施している。スマホの操作方法の説明に留まらず、介護予防体操なども行っており、世代間交流の場となっている。 | 古川 和稔 | 生活支援学科 |
| 64 | 留学生との交流会 | 古川和稔ゼミ | ③すべての人に健康と福祉を | 所沢日本語学校の留学生 | 技能実習生として来日している所沢日本語学校の留学生と、古川和稔ゼミとで、定期的に交流会を実施した。昨年度はリモートでの交流会だったが、本年度は赤羽台キャンパスで、対面での交流会を実施した。 | | |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 教員氏名 | 所属学科等 |
|-----|---|------------------------|----------------|-----------------------|--|-------|--------|
| 65 | 東京都北区UR豊島5丁目団地における住民の交流促進に関するフィールドワーク | 山本美香ゼミ | ①住み続けられるまちづくりを | 一般市民 | 高齢化・孤立化の進む団地において、住民同士が交流できる場や機会として提供されている、コミュニティカフェ「フラット5」や、「団地文化祭」などを自治会や商店会などと共に行っている。 | 山本 美香 | |
| 66 | 児童福祉司任用前講習会・指定講習会 | 特別区職員研修所 | ③すべての人に健康と福祉を | 特別区児童相談所児童福祉司他 | 東京都特別区職員研修所が主催する「児童福祉司任用前講習会・指定講習会」において「ソーシャルワークの基本」「子ども虐待対応の基本～事例検討II」の講義を担当した。 | | |
| 67 | 児童相談所児童福祉司任用後研修 | 埼玉県福祉部子ども安全課 | ③すべての人に健康と福祉を | 埼玉県児童相談所児童福祉司他 | 埼玉県福祉部子ども安全課が主催する「児童相談所児童福祉司任用後研修」において「社会的養護における自立支援」の講義を担当した。 | | |
| 68 | 埼玉県保育士等資質向上研修 | 埼玉県福祉部少子政策課施設運営・人材確保担当 | ③すべての人に健康と福祉を | 埼玉県下の保育所保育士他 | 埼玉県福祉部少子政策課施設運営・人材確保担当が主催する「埼玉県保育士等資質向上研修」において、「保育所での児童虐待の防止について」という演題の講演を行った。 | | |
| 69 | 所沢市要保護児童対策地域協議会事例検討会 | 所沢市役所子ども支援課 | ③すべての人に健康と福祉を | 所沢市要保護児童対策地域協議会構成メンバー | 所沢市役所子ども支援課が主催する「所沢市要保護児童対策地域協議会事例検討会」において、事例検討会のコーディネート、司会進行、助言者を担当した。 | 鈴木 崇之 | 生活支援学科 |
| 70 | 児童虐待防止研修講演「一時保護所の意義とその課題」 | 東京都北区職員課・児童相談所 | ③すべての人に健康と福祉を | 東京都北区職員課・児童相談所職員他 | 東京都北区職員課・児童相談所開設準備担当が主催する「児童虐待防止研修講演」において、「一時保護所の意義とその課題」と題して研修の講演を担当した。 | | |
| 71 | 令和4年度第2回援助会員フォローアップ講習会研修講演「怒ると叱るの違いを知っていますか？」 | 所沢市ファミリーサポートセンター | ③すべての人に健康と福祉を | 所沢市ファミリーサポートセンター 援助会員 | 所沢市ファミリーサポートセンターが主催する「令和4年度第2回援助会員フォローアップ講習会」において、「怒ると叱るの違いを知っていますか？」と題して研修の講演を担当した。 | | |
| 72 | 読書会 | 朝霞市立第二中学校 | ④質の高い教育をみんなに | 朝霞市立第二中学校図書委員および関係教職員 | 読書の楽しみを知り、大学での学びに興味を持たせるための中学生向け読書会。 | 高橋 直美 | |
| 73 | 東洋大学キャンパス（地域子ども支援実践力向上プログラム） | 子ども支援学専攻 | ④質の高い教育をみんなに | 不登校の子どもとその保護者 | 大学の教室を使用して、月1回、不登校の子どもが大学生と自由に遊べる場、また保護者同士が話せる場づくりを行う。 | 内田 塔子 | |

〈事務局等〉

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 事務局名 |
|-----|---------------------------------------|--|--------------|------------------------|---|------|
| 1 | 東洋大学白山地域振興懇話会「白山哲学塾」の事務 | 白山地域振興懇話会(本学および地域団体等との協働) | ④質の高い教育をみんなに | 社会人、経営者、商店主、学生、児童等 | 総務課は、東洋大学白山地域振興懇話会事務局となっており、白山地域振興懇話会と協働し、大学と地域社会との連携及び地域社会への貢献の一環として実施。企画立案者(近隣住民等)は、事務局に企画書の提出を行い、学内外で活動を実施。実施場所が本学「地域交流サロン」であれば、無料。 | 総務課 |
| 2 | 東洋大学現代学生百人一首 | 広報課 | 該当無し | 国内外の小中高生、大学生、大学院生など | 短歌文学の教育研究活動を通じて日本の教育・文化の発展に寄与することを目的に、毎年国内外の学生から「現代学生のもの見方・生活感覚」を詠んだ短歌を募集。応募作品から100首、小学生の部10首を審査・発表。 | 広報課 |
| 3 | Toyo Achieve English (出張英会話講師派遣文京区施設) | 東洋大学グローバルサービス株式会社TUGS / (1) 文京区福祉施設 (2) 生涯学習センター (3) リアン文京障がい者支援施設 | ④質の高い教育をみんなに | 文京区民 | (1) 文京福祉センター江戸川橋 初級、中級の2レベルにて60歳以上の文京区民を対象に4ヶ月ごとに全14回の英会話講座を年3回を提供。全日程対面で開講。 (2) 文京アカデミア講座 社会人を主な対象とした中級者向けの英会話。毎週1つのトピックスに関する語彙やフレーズを英語で学び、表現の幅を広げる。前期(2022年5月~7月)はオンラインにて開講、後期Ⅱ(2023年1~3月)は約3年ぶりに対面で開講。 (3) リアン文京障がい者支援施設 障がい者を対象に初級英会話を提供。1回90分の1回完結型講座。9月と10月の2回対面で開講。 | |
| 4 | Toyo Achieve English 各種英会話講座 | TUGS | ④質の高い教育をみんなに | 近隣住民を中心に一般の方 | ※ SGUで掲げる「全世代グローバル教育」の一環として実施。 (1) 大人向け英会話講座 海外の生きた英語を学ぶ全10回の英会話講座。春、夏、秋、冬の4期開講。 (2) ジュニア向け英会話講座 主に近隣の小・中・高校生向けに開講する、海外の生きた英語を学ぶ全10回の英会話講座。春、夏、秋、冬の4期開講。 (3) 夏休み英会話講座 全世代向けに夏休みに開講する英会話講座。 (4) 春休み英会話講座 全世代向けに春休みに開講する英会話講座。 (5) 季節に関連した子供向け英語イベント ハロウィンやクリスマスの時期に近隣の子供向けの英語イベントを実施。 | 国際課 |
| 5 | Toyo Achieve English (出張英会話講師派遣文京区施設) | TUGS / GLOBALVIEWPOINT 講座 | ④質の高い教育をみんなに | 文京区民 | GLOBALVIEWPOINT 講座 社会人を主な対象とした上級者向けの英会話講座。受講生が選択したトピックを基に、それに関連する語彙やフレーズを学び、表現の幅を広げる。全てオンラインにて開講。 | |
| 6 | Toyo Achieve English 多文化共生理解促進事業 | TUG / 北区赤羽台桐ヶ丘団地 | ④質の高い教育をみんなに | 赤羽台桐ヶ丘団地住民(幼稚園児~シニア世代) | 東京都多文化共生理解促進事業の一環として、北区赤羽台桐ヶ丘団地の住民に対し、外国人を受入、地域社会で共生していくための理解促進交流会を実施。 初歩的な英会話(自己紹介)の他、異文化理解や英語が話せなくても身振りや日本語を交えてコミュニケーションを取る体験を通し、外国人との交流を深めた。 | |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 事務局名 |
|-----|------------------------------|-----------|----------------|--|--|------------------|
| 7 | 文学部伝統文化講座 (TBO) プロジェクト | 文学部 | 該当無し | 本学学生を対象としたものだが一部一般市民にも開放 | 文学部では、10/8に「能楽」11/26に「聲明」・12/3に「落語」の3公演を実施した。国際化の時代において、日本の伝統芸能に直接触れる機会を持つことは、学生にとって極めて大事なことであり、文学部では授業の一環として、解説とともに実演を行っている。うち「落語」のみ公開講座と共催とし、一般の希望者にも開放した。落語では学生約250名、一般約200名の来場があった。 | 文学部教務課 |
| 8 | 東洋大学無料法律相談会 | 無料法律相談部 | ⑩平和と公正をすべての人に | (埼玉県朝霞市) 市内在住、市内に事業所がある方、(茨城県常総市) 一般市民 | 埼玉県朝霞市において2022年9月15日(木)に、茨城県常総市において2023年2月23日(木・祝)に実施した。法学部の専任教員および無料法律相談部の学生が、賃貸トラブル・お金の貸し借り・交通事故・ご近所トラブル・借金・相続・離婚・後見・土地境界問題等、民法分野の一般的な問題について、一般市民からの相談に応じた。朝霞市では7名、常総市では2名からの相談に対応。 | 法学部教務課 (無料法律相談部) |
| 9 | SDGs と人文学 公開セミナー「女院の権力とその淵源」 | 人間科学総合研究所 | ⑤ジェンダー平等を実現しよう | 一般市民、高校生、大学生、大学院生 | SDGsの達成に人間科学総合研究所として貢献することをめざし、若手研究者たちがSDGsの問題群を考察する公開セミナーを開催した。特にSDGsがかかげる諸テーマの意義や重要性をいわゆる「人文学」と総称され非実学として等閑視される傾向のある諸学問からむしろ積極的に検討し「誰一人取り残されない」未来にむけて理解を促進することを目的とした。今年度は4回開催し、開催後は講演録をpdfで発行、一般公開している。 | 研究推進課 |
| 10 | 発達臨床相談室 | | ③すべての人に健康と福祉を | 近隣住民、一般相談者 | 「人間の生涯発達に関する諸問題(カウンセリングを含む)について総合的な研究を行う」ことを目的としている。 | |
| 11 | 地域での支援力を生かす子ども相談支援の開発支援 | | ③すべての人に健康と福祉を | 国内外の発達相談を担う相談員 | 心身の障害や疾病をもつ子どもや成人、被災地の子どもなど、相談機関に出向くことが難しい地域での相談支援、また発達相談に携わる教育・福祉施設職員に対する研修を実施。 | |
| 12 | 若手研究チーム「子どもの権利条約の具体化に関する研究」 | | ③すべての人に健康と福祉を | 本学教員、院生、一般参加者 | 子どもの権利条約の具体化とその課題を検討する公開研究会を実施し、社会啓発につとめます。子ども虐待対応における保護者との協働関係の構築現場の関心を研究につなげていく。 | |
| 13 | SDGs プロジェクト | 現代社会総合研究所 | ⑧働きがいも経済成長も | 本学の教職員、所員、学生、外部の有識者、関係する行政 | SDGsプロジェクト代表：齋藤洋教授(法学部)、メンバー本学教員3名、客員研究員6名、本研究では経営学、社会学、法学、経済学、観光学、国際学などを包含する本研究所が「環境」概念で各分野の連結を図りながらSDGsのテーマを複合的・総合的に研究し、「人々を幸せにする社会づくり」=「総合社会科学に基づく社会環境(人間の生活環境)の持続的構築」に向けて、実現可能な解決案の提示を試みる。今年度は日本のインバウンドをテーマに学生参加型のコンテスト、報告会、「安全保障研究会」シンポジウム、調査を行いました。研究成果は研究所HPにて報告している。 | 研究推進課 |
| 14 | SDGs プロジェクト「安全保障研究会」 | | ⑩平和と公正をすべての人に | 本学教職員・学外有識者、団体 | 国内外でインド太平洋地域におけるグローバルな講義の安全保障問題が重要視されてきている中で、当該地域の安定と持続的発展のための分析枠組みが必要であるという認識の下、当該「分析枠組みの構築」を目指す事を目的としている。 | |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 事務局名 |
|-----|--|-----------|---------------|--------------------------------------|---|-------|
| 15 | IRチーム・濹澤健太郎教授(経済学部) | 現代社会総合研究所 | ⑧働きがいも経済成長も | 本学教職員、学生、大阪府庁 | 近年、日本では特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律(IR 推進法)が国会を通過し、複数の地方自治体で、カジノ運営などについて手をあげている。過疎化や高齢化、財政的に厳しい多くの地方自治体は、IR推進による経済効果や地域創生の役割を期待している。本研究は立候補している自治体を訪問し、意見交換や現地視察を実施。 | 研究推進課 |
| 16 | ICT教育研究プロジェクト | | ④質の高い教育をみんなに | 本学教職員、学外有識者、本学の学生、富山県魚津市 | 代表：濹澤健太郎(経済学部)、メンバー：研究員4名、客員研究員3名、研究協力者1名。本研究ではICT教育推進の必要性とその効果を検証する研究を進めた。ICT/AIの活用について総合的に明らかにした。今年度は富山県魚津市の特産物である桃を使用したアイデアコンテストを開催。また、ICT教育をテーマにし意見交換会を数回行い、イタリアのカ・フォスカリ大学から講師を招き、オンラインシンポジウムを開催した。この内容は2023年3月末に刊行として発行予定。 | |
| 17 | 公開の研究発表会、公開講演会、シンポジウム | 東洋学研究所 | ④質の高い教育をみんなに | 研究所所属の研究者、学生、教員、学外一般の方々 | 広く内外の研究者の意見を仰ぎ研究を深化させると同時に、研究成果の公開と社会への還元のため、研究所の研究報告会、講演会、シンポジウム等を公開。また、学外の起業家や研究者を講演者に招いて、研究所の目的にふさわしいテーマで公開講演会を開催。また、これらの成果はHPにおけるワーキングペーパーショートエッセイなどでも公開。 | |
| 18 | 公開の研究発表会、公開講演会、シンポジウム | | ④質の高い教育をみんなに | 研究所所属の研究者、学生、教員、学外一般の方々、研究機関の所属は問わない | 広く内外の研究者の意見を仰ぎ研究を深化させると同時に、研究成果の公開と社会への還元のため、研究所定例の研究発表例会、共同研究のプロジェクトにおける研究発表会やパネルディスカッション、講演会、シンポジウム等を公開。また、学外の研究者を講演者に招いて、研究所の目的にふさわしいテーマで公開講演会を開催し、東洋学の研究の公開に努める。 | |
| 19 | 「ACRI For SDGs」東洋大学アジア文化研究所 Vol. 1(7月)・Vol. 2(11月)動画配信 | アジア文化研究所 | ⑩平和と公正をすべての人に | 一般市民、研究者、学生 | 本研究が専門としているアジア地域を中心として、国際社会におけるSDGsの現状を研究し、その成果を広く内外に発信すべく、本学の動画発信拠点の一つであるToyo YouTubeと連携して研究所のホームページ上に「ACRI for SDGs」の題目で連続セミナーを実施した。今後年2～3回程度を目標に配信を予定している。 | |
| 20 | 鉄道開業150周年記念シンポジウム「アジアの鉄道路線整備と社会教育の拡充―井上円了の日本・アジアにおける遊説再考―」 | | ④質の高い教育をみんなに | 一般市民、研究者、学生 | 鉄道開業150周年記念として、明治期における日本の鉄道網の整備過程と、アジア諸国における鉄道敷設との連携過程を明らかにしつつ、井上円了の国内外の講演(巡講)を可能にしたのが、鉄道網の整備であった事を検討に加え、鉄道網の整備と井上円了の社会教育展開の意義について8名の先生方による、様々な角度からの発表報告を対面、オンラインのハイブリットにて開催した。 | |
| 21 | 鉄道開業150周年記念特別展「鉄道は哲学者を乗せてゆく―東洋大学創立者・井上円了の講演旅行―」 | | ④質の高い教育をみんなに | 一般市民、研究者、学生 | 鉄道開業150周年記念として、シンポジウムに合わせて特別展を開催した。特別展では特に円了の講演旅行について、東洋大学井上円了記念博物館とアジア文化研究所が所蔵する資料をもとに、近代日本と東アジアの鉄道交通とのかかわりから捉え直して展示を行った。 | |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 事務局名 |
|-----|---|--|------------------|---|--|-------|
| 22 | lecture & Concert Rebetiko—Between the West and the East レベティコ—東と西のはざままで | アジア文化研究所 拠点(人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業・グローバル地中海地域研究プロジェクト) | ⑩人や国の不平等をなくそう | 一般市民、研究者、学生 | ギリシアは1821年、オスマン帝国からの独立を宣言。独立戦争から、20世紀初めの希土戦争、住民交換、第二次大戦、内戦までを経てきた音楽が、レベティコである。オーストラリアとギリシアを拠点に活動するバンドが来校し、レベティコを井上円了ホールにて、演奏を行うとともに、この音楽に関わる歴史と文化について3名の専門の先生方より説明発表が行われた。 | 研究推進課 |
| 23 | 技術相談 | 工業技術研究所 | ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう | 企業、自治体、関係団体 | 企業からの技術相談に対して、研究所として対応可能な研究者の選定と日程調整を行い、相談に応じている(無料、今年度は主にWeb会議ツールを利用しWeb技術相談として実施)。 | |
| 24 | 工業技術研究所 シンポジウム(講演会) | | ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう | 企業、自治体、関係団体 一般市民 | 『カーボンニュートラル社会実現に向けた最新技術動向と展望』をテーマとした講演会をWeb上でのオンデマンド型オンライン方式にて実施。 | |
| 25 | 工業技術研究所 研究発表会・特別講演 | | ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう | 企業、自治体、関係団体、一般市民 | 企業等との産学連携活動の推進を目的とする研究発表会と、研究所発足60周年記念講演会をWeb上でのオンデマンド型オンライン方式で実施(第1部:記念講演、第2部:『CPSの基盤を支える機械工学』の2部構成)。 | |
| 26 | デジタルエンジニアリングアカデミー | 工業技術研究所、武蔵野銀行 | ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう | 企業 | 工業技術研究所と武蔵野銀行の共催による、新技術の自社導入を目指す企業を対象とした連続講座。 2021年度から2022年度にかけて「現場データの可視化・定量化」のテーマで、企業を対象とする講演や実習を実施。 | |
| 27 | 省インフラ研究会 | PPP 研究センター | ⑩住み続けられるまちづくりを | 民間企業 | 迫り来るインフラの老朽化、高齢化・少子化社会、国・地方の財政難の問題に正面から取り組み、持続可能なインフラ、公共サービスのあり方を追求するために、2013年9月に「省インフラ研究会」を立ち上げた。本研究会では、長期的な日本の都市構造、財政、人々の住まい方を見直し、「物理的なインフラに頼らず、質の高い生活を維持」できる新しい社会のあり方を検討。 | |
| 28 | 東洋大学重点研究推進プログラム「開発途上国における生活環境改善による人間の安全保障の実現に関する研究」 | 国際共生社会研究センター | ①貧困をなくそう | ベトナム中部 Thanh Hoa省、北部 Ha Giang省の無電化地域の学校(7学校)生徒76名 | 柏崎梢・助教(国際学部)。ランドポート株式会社との共同研究。無電化地域へのソーラールンタン支援事業がもたらす住環境改善の実態と、受益者と支援者における循環型インパクトを分析する実践的研究。 | |
| 29 | オンラインボッチャ協会との協働研究 | 福祉社会開発研究センター | ③すべての人に健康と福祉を | オンラインボッチャ協会に参加している障がい当事者および関係職員、大学生等の一般市民 | オンラインボッチャ協会では、「ボッチャをオンラインで楽しむことにより、年齢・能力・国籍・場所によらず、すべての人が共に楽しむ手段・情報・機会を提供」することを目標に活動を行っている。今年度から、本センターの客員研究員にオンラインボッチャ協会代表の大川氏を迎え、協働研究を実施している。今年度は機器開発への協力等を行った。加えて、オンラインボッチャを通じた、大学生と障がいのある人の交流といったイベントも実施した。 | |
| 30 | 世田谷区との協働研究 | | ③すべての人に健康と福祉を | 世田谷区住民 および関係職員 | 森田明美:福祉社会開発研究センター客員研究員。地域で孤立しがちな子どもや家庭支援を社会福祉などの制度を使って支援するため、システムやプログラムの開発を行う共同研究を実施。母子生活支援施設、生活保護受給家庭、保育所利用家庭の親と子の困り感を理解するためのツールの開発、その活用を広げ、実践を積み重ねて当事者主体の実践を進める。当事者が課題解決に向けて意欲をもって暮らしを進める支援を展開し、自分らしい人生を送ることができる親子支援を実現。 | |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 事務局名 |
|-----|--------------------------------------|------------------|------------------|------------------------------------|--|-------------------------|
| 31 | スペシャルオリンピックス日本との協働研究 | 福祉社会開発研究センター | ③すべての人に健康と福祉を | スペシャルオリンピックス日本に参加している障がい当事者および関係職員 | スペシャルオリンピックス日本では、知的障害のある人たちの成長にスポーツが大きなプラスになり、またスポーツを通じて知的障害のある人たちと共に活動することが地域社会にとっても大きなプラスになると考え、性別、年齢、スポーツのレベルを問わず、様々なスポーツの機会をつくりだしている。本センターでは、スペシャルオリンピックス日本のアンバサダー活動にiPadを貸出す等の協力を行っている。アンバサダー活動は、知的障がいのある方の意思表示の機会、また知的障がいのある方々のスポーツを通じたソーシャルインクルージョンを促進するための取り組みとなっており、そうした活動をICTが支えている。 | 研究推進課 |
| 32 | 世田谷区との分身ロボットOriHimeを介した学校教育支援 | | ③すべての人に健康と福祉を | 世田谷区の住民および関係職員 | 2020年には新型コロナウイルスの感染拡大によって、重症化リスクの高い医療的ケア児が登校できない状況が発生し、遠隔授業の実施という新たな課題と直面することになった。そこで、この度本センターとの共同研究が開始された。医療的ケアが必要な児童に対する分身ロボットOriHimeを用いた授業への参加支援を世田谷区と実施。 | |
| 33 | 中核人材育成WEBセミナー | 産学協同教育センター | ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう | 企業、自治体、関係団体 | 自治体や企業の人材の将来を担う若手人材の教育・技術向上を目指した、最新の学問・技術の講義をWEB上で実施。 | 産学協同教育センター |
| 34 | 若手産業人材の育成に係る活動 | | ④質の高い教育をみんなに | 県庁、関係団体 | 埼玉県との連携により、県内企業が必要とする産業人材を育成するため、高等技術専門校の訓練生に対して高度な知識の獲得と技能を習得を目的とした対面講義ならびに施設(設備)見学を実施。 | |
| 35 | 大学等と連携した観光経営人材育成事業 | 東京都・国際観光学部 | 該当無し | 東京都在住・在勤で観光事業に従事している社会人 | 古屋秀樹・教授(国際観光学部 国際観光学科) 2021年度より3年間、東京都と連携して事業を行う。持続可能な観光のための指標をはじめとして、観光地計画・ウィズコロナの観光街づくり、DMOにおけるプライス・ブランディング、温泉による地域活性化、歴史文化資源の活用、経済・観光消費分析、データ活用による観光動態の解析などを考察。 | 産学協同推進課 |
| 36 | 海外から日本に移住してきた子供たちへの日本語コミュニケーションのサポート | ボランティアサークルSPIRIT | ④質の高い教育をみんなに | 外国をルーツに持つ子供 | 定期的に文京シビックセンター等で海外から日本に移住してきた子供たちへの日本語コミュニケーションのサポートを行った。 | 学生支援課(ボランティアサークルSPIRIT) |
| 37 | 東京都障害者スポーツ大会ボランティア | バリアフリーサークル「歩み」 | ③すべての人に健康と福祉を | 障害者スポーツ大会の参加者 | 東京都障害者スポーツ大会におけるボランティア活動。主に会場の受付や誘導などを行った。 | 学生支援課(バリアフリーサークル「歩み」) |
| 38 | 第28回ファミリーコンサート | 管弦楽団 | ⑪住み続けられるまちづくりを | 朝霞市および周辺地域の方々 | 朝霞市および周辺地域の方々とのふれあいを目的とした演奏会。 | 学生支援課(管弦楽団) |
| 39 | 朝霞市成人式 | | ⑪住み続けられるまちづくりを | 朝霞市民 | 朝霞市役所が運営する朝霞市成人式での演奏。 | |
| 40 | 第17回公演オペラ「愛の妙薬」 | 東洋大学混声合唱団 | ⑪住み続けられるまちづくりを | 杉並区民 | 区民オペラの手伝い。 | 学生支援課(東洋大学混声合唱団) |
| 41 | 福祉施設依頼演奏 | 吹奏楽研究部 | ③すべての人に健康と福祉を | 北区立王子福祉作業所 | 福祉施設で開催されるクリスマス会において楽器別のアンサンブルや合奏を行った。クリスマス会の後は施設の加入者との交流を行った。 | 学生支援課(吹奏楽研究部) |
| 42 | 朝霞市消防出初式 | | ⑪住み続けられるまちづくりを | 朝霞市民 | 朝霞市役所主催の朝霞市消防出初式において、朝霞市の依頼を受け、音楽隊として式典の演奏に参加した。演者の入退場時の行進曲のほか、国歌やファンファーレ、演者の準備時間におけるBGMを演奏した。 | |

| No. | 事業名称 | 事業実施主体 | 代表的 SDGs | 主な対象者 | 事業概略 | 事務局名 |
|-----|------------------------------|---|----------------|-------------------|---|------------------|
| 43 | あじさい祭り | 箏曲研究会 | ①住み続けられるまちづくりを | 文京区民 | あじさい祭り内で開催されるあじさいコンサートでの演奏。 | 学生支援課 (箏曲研究会) |
| 44 | 駒本小学校での音楽指導・演奏会 | | ④質の高い教育をみんなに | 小学生 | 駒本小学校の4年生を対象に、音楽の授業の一環として、箏の演奏方法の指導と演奏会を行った。 | |
| 45 | 川越市ラグビークリニック | 川越市・ワイルドナイツ・東洋大学三者間 | 該当なし | 川越市民 | 川越市とワイルドナイツと東洋大学三者間協定に基づき、川越市の子供たちに向けたラグビークリニックを実施。東洋大学ラグビー場にて実施し、本学学生が子供たちへラグビー指導を実施した。 | 学生支援課 (ラグビー部) |
| 46 | 東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊 | 川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊(総合情報学科小瀬教授、川越事務部総務課職員が主体) | ⑤陸の豊かさを、守ろう | 一般市民、本学学生・教職員 | 一般市民、本学学生・教職員が協働で川越キャンパス内の森林保全活動を実施。また、学外者を対象とした木工教室、学外での環境イベント出展等の活動を実施。 | 川越事務部 総務課 |
| 47 | 第30回 鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会 | 鶴ヶ島市 | ③すべての人に健康と福祉を | 鶴ヶ島市および近隣の市民 | 小河教授(理工学部)のコーディネートのもと、『小学生から高校生までのスポーツへの取り組みを考える』をテーマに、第30回鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会を開催。 | 川越事務部 教学課 |
| 48 | 川越大学間連携講座 | 川越市 | ③すべての人に健康と福祉を | 一般市民 | 加藤千恵子教授(総合情報学部)を中心とした本学関係教員5名が講師となり、「心と身体のセラピー講座～誰もが健康な社会を目指して」と題した全5回の講演で、心身の健康を高める方法として、心理学などの分野で研究・実践されているさまざまなセラピー(ダンス、ヨガ、アート等)を紹介した。 | |
| 49 | 群馬県若い世代食育推進協議会実践活動 | 食環境科学部健康栄養学科 | 該当無し | 地域住民、群馬県太田市内小学校児童 | 群馬県若い世代食育推進協議会の活動の一環として、食環境科学部健康栄養学科井上広子教授・古河美咲助手・深澤美優助手を中心に、群馬県の食文化や食育について若い世代(学童期～青年期)へ普及する活動に協力。2022年度は、2021年度に引き続き、本協議会メンバーである栄養教諭を履修する健康栄養学科の3年生の学生7名が児童の郷土料理への興味・関心を持たせるために、群馬の郷土料理や自身の出身地の郷土料理について児童向けの冊子を作成し、群馬県太田市内の小学校に配布。また、昨年の本協議会メンバーである栄養教諭履修の健康栄養学科4年生と現協議会メンバーである3年生(計13名)で板倉キャンパス大学園祭「雷祭」において、フードモデルを用いた模擬食事指導や食文化に関する資料展示を開催した。 | 板倉事務課 |
| 50 | 中野区・東洋大学連携事業 哲学堂講座「一から学ぶ哲学堂」 | 中野区立歴史民俗資料館 | ④質の高い教育をみんなに | 一般市民(区民優先) | 中野区立歴史民俗資料館における講座の講師派遣。講座内容：井上円了が創始した哲学堂公園と円了の思想世界を講義で学び、その思想が具現化された園内の建物・庭園をめぐる。 | 井上円了哲学センター |



社会貢献活動Pick up-①

第1回～第9回 東洋スマホ教室を実施しました

ライフデザイン学部生活支援学科※ 古川和稔ゼミと赤羽八幡自治会

※2023年度より福祉社会デザイン学部社会福祉学科

◆ライフデザイン学部特色あるプログラム

「高齢者、障害者、外国人との共生を目指した教育プログラム事業」として、生活支援学専攻開講科目「生活支援学演習ⅢA、ⅢB、ⅣA、ⅣB」（担当教員：古川和稔教授）において、第1回～第9回「東洋スマホ教室」を実施しました。

この企画は、赤羽台キャンパスの地元である、赤羽八幡自治会との交流会において、「スマホの使い方を教えてほしい高齢者が多くいる」という意見を聞き、古川ゼミで緊急企画として立ち上げたものです。ポスター作り、企画、運営まで、すべてゼミ生が行いました。

赤羽八幡自治会との合同企画で、毎月第二水曜日に、赤羽八幡自治会会館で開催しています。回を重ねるごとに、ゼミ生と地域住民との信頼関係が深まり、笑顔の絶えない、まるで家族のような空間と時間になりました。

スマホ相談に加えて、一緒に介護予防体操も行っています。

地域の皆様にも広く知られるようになりました。

今後も古川ゼミでは、地域住民や外国人など、さまざまな方々との交流を進めていきます。



▲第1回ポスター



▲第9回東洋スマホ教室の様子



社会貢献活動Pick up-②

群馬県若い世代食育推進協議会メンバーで小学生向けの「郷土料理パンフレット第2弾・第3弾」を作成

食環境科学部健康栄養学科 群馬県若い世代食育推進協議会メンバー、
監修：齊藤美佳助手、大津佑太助手、古河美咲助手、深澤美優助手、
井上広子教授

群馬県若い世代食育推進協議会[※]メンバーである健康栄養学科の栄養教諭を目指す学生が若い世代に対する郷土料理への興味・関心を持たせるために、群馬の郷土料理や自身の出身地の郷土料理について児童向けのパンフレット（郷土料理についての知識を深めよう～第2弾～、～第3弾～）（監修：齊藤美佳助手、大津佑太助手、古河美咲助手、深澤美優助手、井上広子教授）を作成しました。またパンフレットを群馬県内の児童の皆さんへ配布しました。本活動に携わった学生からは、「児童たちにパンフレットを活用してもらいたい」「自分の地元の郷土料理だけでなく、日本各地の郷土料理に興味を持ってほしい」「積極的に郷土料理を食べてほしい」「日本の伝統文化・食文化を大切にしてほしい」等といった意見がありました。

※群馬県若い世代食育推進協議会は、若い世代の食育を推進するために、群馬県内の大学等を中心とした有志の学生で構成されており、食育に関する実践活動を行っています。



▲昨年の本協議会メンバーである栄養教諭履修の健康栄養学科4年生と第2弾パンフレットを監修した齊藤助手、大津助手、井上教授と

※学年は2022年度時点



社会貢献活動Pick up-③

川越キャンパスで「ラグビークリニック」を開催しました

東洋大学ラグビー部、埼玉パナソニックワイルドナイツ、川越市

2023年1月22日、川越キャンパスラグビー場で「ラグビークリニック」を開催しました。

川越ラグビースクールに所属する幼児・小学生・中学生60名が集合し、本学ラグビー部員による指導やミニゲームなど一緒にラグビーを楽しむというもので、2021年11月に本学・埼玉県川越市並びに、パナソニックスポーツ株式会社とラグビーを通じた地域振興等に関する協定を締結したことにより実現しました。

セレモニーでは、本学ラグビー部が全国大学ラグビーフットボール選手権大会初出場したことなどの活躍を讃え、ラグビースクール代表の小学生から花束の贈呈を受けました。

また、埼玉パナソニックワイルドナイツの選手からビデオメッセージで川越ラグビースクールのメンバーに熱いエールが送られました。

本学ラグビー部 福永昇三監督は『ラグビー部の活躍は、みなさんの応援が力になりました。ありがとうございます。これからも一緒にラグビーを楽しみ、埼玉のラグビーを盛り上げていきましょう!』と話しました。

当日は天候にも恵まれて、充実した一日となりました。



▲小学生チームとの練習の様子



▲中学生チームとの集合写真



社会貢献活動Pick up-④

川越まつり「第17回 山車ロボットコンテスト」2022を開催しました

主催：理工学部機械工学科 山車ロボットコンテスト実行委員会(松元 明弘(代表)、山川 聡子、山田 和明、横田 祥)
共催：日本機械学会関東支部埼玉ブロック

川越まつり「第17回 山車ロボットコンテスト」2022を開催しました。

2022年11月27日に「かわごえ産業フェスタ」の会場(ウェスタ川越)にて「川越まつり山車ロボットコンテスト2022」を3年ぶりに対面開催いたしました。

このロボットコンテストは機械工学科の教員で構成する実行委員会が主催・運営しており、今年で17回目の開催となります。

本番の競技は1階多目的ホールにて実施しました。多くの観客が見守る中、参加した高校生35名はそれぞれ工夫を凝らしたロボットで競技に挑みました。

競技結果や競技写真などの詳細は下記ページをご覧ください。

山車ロボットコンテスト2022の結果

<http://www2.toyo.ac.jp/~yamakawa/robo/news20221127.html>

山車ロボットコンテスト2022の案内(ルールはこちら)

<http://www2.toyo.ac.jp/~yamakawa/robo/news20220820.html>



▲参加者とロボットの記念撮影



社会貢献活動Pick up-⑤

日本における鉄道開業150周年記念 「アジアの鉄道路線整備と社会教育の拡 充-井上円了の日本・アジアにおける遊説再考-」

アジア文化研究所主催、井上円了哲学センター後援

鉄道開業150周年記念として、明治期における日本の鉄道網の整備過程と、アジア諸国における鉄道敷設との連携過程を明らかにしつつ、井上円了の国内外の講演(巡講)を可能にしたのが、鉄道網の整備であった事を検討に加え、鉄道網の整備と井上円了の社会教育展開の意義について8名の先生方による、様々な角度からの発表報告を対面、オンラインのハイブリットにて開催した。

日時：2022年10月14日(金) - 15日(土) 13:00 - 17:00

開催方法：東洋大学白山キャンパス125記念ホールよりオンライン開催(Webex利用)

本事業は、2022年度東洋大学アジア文化研究所特別措置予算「日本における鉄道開業150周年記念 アジアの鉄道路線整備と社会教育の拡充-井上円了の日本・アジアにおける遊説再考-」により開催されました。(研究代表：三沢伸生)



地域活性化活動支援事業の概要

2016年度、社会貢献部門の活動における特徴として、地域活性化活動支援事業を新たにスタートさせた。2022年度は11企画(含追加4)応募され、社会貢献センターにて選考を行った結果、全企画が採択となった。感染症の影響で現地へ向かうことができず、1企画実施を中止したため、2022年度は10企画が活動を行った。概要は以下のとおりである。

1. 事業の目的

地域活性化活動支援事業は、過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に若い人材が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することで、都会の若者に地域への理解を促し、地域で活躍する人材として育成することに繋がるとともに、地域住民をはじめとする人材育成を目的とする。学生と教員が共同して進める地域活性化活動を経済的に支援し、今後自立した活動へと発展させていくためのサポートをする。

2. 支援金額及び採択件数の目安

- (1) 地方創生コース：キャンパスから100km以上の地方において、地域活性化活動をするものを対象。1件当たり総活動経費の最大50%以内で、かつ、30万円を上限とする。
- (2) 地域貢献コース：キャンパスから100km以内の地域において、社会貢献・地域貢献をするものを対象。1件当たり総活動費の最大50%以内で、かつ、5万円を上限とする。

3. 対象となる活動

国内の過疎地域、限界集落、農山村だけでなく、都市課題の解決や災害支援なども含め、国内外の多様な地域における教員と学生が共同して行う地域活性化活動。

4. 選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

5. 年間スケジュール

| | |
|-----------------------|---------------------------------|
| 2021年12月1日～2022年1月21日 | 募集期間 |
| 2022年2月中 | 社会貢献センター運営委員会にて書類選考(申請数：7企画) |
| 2022年3月7日 | 地域活性化活動支援事業について 採択決定通知(採択数：7企画) |
| 2022年4月1日～2022年5月10日 | 追加募集期間 |
| 2022年5月中 | 社会貢献センター運営委員会にて書類選考(申請数：4企画) |
| 2022年6月13日 | 地域活性化活動支援事業について 採択決定通知(採択数：4企画) |
| 2023年2月末まで | 各採択企画の報告書および決算書提出締切 |
| 2023年3月15日 | 報告会の実施(中止1企画を除く、10企画分報告予定) |
| 2023年3月末まで | 支援金額の支払い |

6. 2022年度実績

| 応募企画数 | 採択企画数 |
|-------|-------------|
| 11 | 11 (内1企画中止) |

2022年度 地域活性化活動支援事業一覧

| No. | 教員名 | 学部 | 活動名 | コース名 | 主な市区町村 | 支援額 (採択時) | 支援額 (結果) |
|-----|-------|--------|---------------------------|----------------|--------------------|--------------|-------------|
| | | | | | | 2,770,000 | 2,182,000 |
| 1 | 田中 雅敏 | 法学部 | 香川県さぬき市の姉妹都市交流再生プロジェクト | ①地方創生 (遠距離) | 香川県 さぬき市 | 198,000 | 198,000 |
| 2 | 秋場 勝彦 | 法学部 | GISによるフードツーリズム空間のマイニングと提言 | ①地方創生 (遠距離) | 北海道 北広島市 | 300,000 | 235,000 |
| 3 | 山田 香織 | 社会学部 | 地方都市における地域資源の活用による観光まちづくり | ①地方創生 (遠距離) | 香川県 高松市 | 300,000 | 268,000 |
| 4 | 左地 亮子 | 社会学部 | 沖縄の地域活性化の現状と将来像に関する調査活動 | ①地方創生 (遠距離) | 沖縄県 那覇市 | 300,000 | 300,000 |
| 5 | 藤本 典嗣 | 国際学部 | 高津川流域におけるフードデザートの調査 | ①地方創生 (遠距離) | 島根県 津和野町 | 300,000 | 300,000 |
| 6 | 鈴木 鉄忠 | 国際学部 | 東洋スローシティ | ①地方創生 (遠距離) | 群馬県 前橋市 赤城地区 | 172,000 | 148,000 |
| 7 | 佐々木 茂 | 国際観光学部 | 南会津町・観光まちづくりデザイン研究Ⅳ | ①地方創生 (遠距離) | 福島県 南会津町 | 300,000 | 300,000 |
| 8 | 佐野 浩祥 | 国際観光学部 | 富士宮市における食文化振興プロジェクト | ①地方創生 (遠距離) | 静岡県 富士宮市 | 300,000 | 133,000 |
| 9 | 須賀 忠芳 | 国際観光学部 | 広島県呉市・江田島市における地域活性化支援事業 | ①地方創生 (遠距離) | 広島県 呉市・ 江田島市 | 300,000 | 300,000 |
| 10 | 森下 晶美 | 国際観光学部 | 沖縄の地域観光活性化のための観光人材育成と商品開発 | ①地方創生 (遠距離) | 沖縄県 那覇市 | 300,000 | 300,000 |
| 11 | 岡本 郁子 | 国際学部 | 佐賀中山間地域における住民主導型地域活性化活動支援 | ①地方創生 (遠距離) | 佐賀県 佐賀市 | 300,000 | 中止 |

香川県さぬき市の姉妹都市交流再生プロジェクト

代表教員：田中 雅敏
法学部

■活動内容

香川県さぬき市で「さぬきイースター祭2023」を実施し、当日はさぬき市在住の小学生親子17組の参加があった。(1)イースターについてのミニレクチャー、(2)イースターエッグ工作、(3)イースターエッグ探しの3部構成とした。来年度以降の活動の指針になるよう、参加者アンケートも実施した。

■活動の成果概要

- ① 地方自治体は、国際交流にあてられる職員の数が限られており、さぬき市も例外ではない。市民部内の職員が2名国際交流推進にあっているが、それは人権推進課の担当と兼務である。市民レベルでも、国際交流について関心や意識が高いとはいえず、国際感覚を涵養することは容易なことではない。そこで、本取組では、新しい文化に敏感で、またこれからの社会を担っていく小学生をターゲットにし、若年層からの国際感覚のつきあげを狙った。子供が関心を寄せれば、その親世代も刺激を受けるだろうし、SNSなどのネットワークを介してさぬき市民の意識も変わってくるのが期待できる。本取組は、限られた人員で工夫されているが頭打ちとなっているさぬき市の国際交流を、大学の知をもって、さらに遠隔からサポートするものであり、本学の社会貢献活動に資するものであった。
- ② 当ゼミは、ゼミ生が一年次から平均して3年間ドイツ語科目を履修している。ドイツ語の授業では、言語の学習を通して、その言語圏の文化や人々の営みについても学んでいる。また、当ゼミでは、オーストリアの社会制度や文化を専門的に研究している。「日本を外から見た」自分たちの経験をもとに、さぬき市の小学生親子を対象にオーストリアを紹介する講座を行い、イースターエッグを制作・ペイントするイベントを催した。さぬき市の小学生たちには、自分たちの町の姉妹都市のことや遠く離れた欧州の文化について、ヨーロッパを知る大学生が目の前におり、その人たちからレクチャーを受けることで、今後、同じように自分の目で世界を見てみたい、という気持ちになってもらえることを狙った。2019年度地域活性化活動支援事業で助成を受けた「クリスマスリース制作」に参加してくれた小学生が、今回も3年の月日を経てリピーターとして参加してくれ、3年前の活動の萌芽も感じることができた。
- ③ 親子イベントの他、さぬき市役所本庁舎ロビーを提供していただき、「さぬき市・アイゼンシュタット市交流史」と「オーストリア紹介」のパネル展示を行った。両市の交流は、現在6年間途絶えているが、それまでは細く長く交流があったため、その歴史を紹介した。ゼミ生が現地入りし、さぬき市の空気にも触れながら展示を設営し、イベントの対象者である小学生たちと直に向き合うことができたことが極めて重要である。ゼミ生たちが自ら、「世界から見た日本」「世界の中のオーストリア」を見て感じた経験が、参加者のみなさんに伝わったと確信している。
- ④ 2020年度・2021年度は現地入りが叶わず、さぬき市ケーブルテレビのご厚意で当ゼミ制作の情報番組を放送してもらった。今後は現地型の活動を想定しており、今年度がその再スタートの年だったため、今年度に得たノウハウや反省点を活かして次年度も工夫して活動を展開していきたい。



GISによるフードツーリズム空間のマイニングと提言

代表教員：秋場 勝彦
法学部

■活動内容

寒地稲作発祥の地であり、赤毛米を用いたまちおこしをしている北広島市を中心に訪問した。北広島市は赤毛米の生産(1次産業)者が日本酒を開発、普及させるなど(2次産業)、流通・販売ルート(3次産業)を安定化させ、6次産業化に成功している。地域ブランドを活性化するまちづくりの可能性を探ることができた。

■活動の成果概要

- ①1. 今回の活動が、2022年9月7日北海道新聞朝刊14面(地方版)に掲載され、今回の活動を学生代表が「読者の声」欄(2022年9月26日北海道新聞朝刊5面)に発表したことを通じて、これまで明確に認識されてこなかった「地域イメージの普及効果」を創出している(当該記事を別添)。
2. 今回の活動で学んだ知見を、大学へ持ち帰り、学生それぞれの専門分野や個人的興味と合わせて、今後北広島市に(部分的にでも)さらに地域が活性化するための提案もしていけるよう、非常に実りの多いフィールドワークになった。
- ②地域活性化に貢献する人材を輩出するため、学生参画は不可欠である。そして、学生が、それぞれの専門性と絡めて、大学の知と地方自治体の知と経験とを融合することが期待できる。
- ③1. 学生が主体的に動いていた。そして、対外的な対応をそれぞれの方々から得ることができた。しかもかなり公的な方々に時間を割いていただいたことは大学にとって意義あることであった。
2. 学生がきちんと議論して、万全な対策をすることを考えていた。リスクを考えたうえでの最適な計画をし、万全な感染対策を行ったうえで実行した結果、大変な経験学習と危機管理の学びになった。以下のように、学生自らが行動ルールと発熱などの症状が出た場合の対処方法を実施前に定めたことで、規律のある活動となった。

特に感染対策のため、参加者が遵守しなければならない行動ルールは以下の通りです。

- ・手洗いうがい、消毒、マスク着用の徹底
- ・毎朝健康チェックをする
- ・黙食
- ・体調が悪いときはすぐに報告する
- ・三密を避ける
- ・検温

万が一、合宿中に発熱などの症状が出た場合の対処方法は以下の通りです。

- 1) 体調が悪いときは以下のように連絡する。
北広島クラッセホテルと新さっぽろアークシティホテルに宿泊時はフロントに連絡する。
小樽グリーンホテルに宿泊時は、小樽市保健所(0120-510-010)に連絡する。
- 2) そのあと、学生代表(学生代表が発熱した場合は会計係)に連絡する。
- 3) 学生代表から発熱などの症状が出た学生がいるという連絡がグループLINEに来たら全員ホテルに待機
- 4) 学生代表がフロントまたは保健所から待機解除の指示を受けるまでは待機する。
- 5) 学生代表が、その後の訪問先に連絡する。



地方都市における地域資源の活用による観光まちづくり

代表教員：山田 香織
社会学部

■活動内容

本活動では、香川県高松市にある特別名勝・栗林(りつりん)公園をフィールドとし、大切にしているものを変えずにどのような変化があれば、Z世代の誘客促進につながりうるのかを検討し、提案内容について公園関係者の方たちと意見交換を行った。

■活動の成果概要

香川県高松市にある日本特別名勝栗林公園(りつりんこうえん) 事務所様と連携して活動した。訪問約2か月前に担当者の方々と打ち合わせを行い、以下の課題に取り組み、提案を行うことになった。

課題1 Z世代に焦点をあてた誘客促進

課題2 大切にしているものを変えずにどのような変化があれば誘客につながるか

活動は6チームに分かれて実施した。各チーム、上記課題のいずれかに関して提案できるよう、テーマと現地調査項目を定めた。また、担当者の方の要望に応じ、訪問前に庭園1か所(三溪園など)にも訪れた。

現地活動は計2日半で、1日目午前は栗林公園を散策(ガイド付)し、午後は散策で気づいた点(魅力的な点、充実させるとさらによくなると思う点)をワークショップ形式で整理・報告し、公園スタッフの方と意見交換した。スタッフの方からは、報告に関する質問やコメントのほか、栗林公園を知らないZ世代から見た栗林公園のサービスや情報発信に関する印象についても質問があった。SNSを用いた情報発信については、普段どのようにSNSで情報収集をしているのか、こういった情報が目をひくのか教えてほしいといった要望があった。

活動2日目は、1日目の活動をふまえ、また3日目の提案に向けてグループごと追加調査を実施した。Z世代の集客につながる情報発信やサービスの提案、栗林公園を含む観光ルート提案を想定していたことから、それにつながる調査を香川県内の観光地やプログラム体験で行い、可能な範囲で聞き取りもした。現地活動最終日はグループ提案を行った。提案は、公園内で販売する体験型商品の価格設定に関するもの、SNSで発信する情報に関する具体的案、公園内の設備充実に関するものなどで、短時間で動画を作成したグループもあった。このうち、Z世代向けの商品とその価格設定、SNSでの発信情報、栗林公園ならではのコラボレーション案に対しては、好意的な反応を得ることができた。

今回の活動では、無料入園が可能で、同公園をよく知る地元の学生では気づくことのできない印象や感想に基づいた提案がなされた。これは、訪問するまで栗林公園をほとんど知らなかった学生が上記課題に取り組んだ成果といえる。また、学生の参画なしには生み出すことのできなかつた成果でもある。一方、参加学生にとって本活動は、地方都市の実情や課題を肌で感じる貴重な機会となり、活動成果を他世代の方に向けてアウトプットし、そうした方たちと意見交換する非常に有意義な機会にもなった。栗林公園を多くの人に知ってほしいという熱い想いを持った多くのスタッフの方と意見交換ができたことも大変刺激的だった。活動成果は報告書にまとめ、2022年10月中旬に栗林公園様に送付予定である。



沖縄の地域活性化の現状と将来像に関する調査活動

代表教員：左地 亮子
社会学部

■活動内容

本活動は、学生が沖縄県を訪問し、①歴史的記憶と平和教育、②伝統文化の継承、③多文化共生、④持続可能な経済発展にかかわるインタビュー調査を実施し、沖縄県の地域活性化の現状と将来像に関する調査報告書をまとめることで、関東に暮らす大学生の視点にもとづく新たな知見を地域社会に提示することを主な内容とする。

■活動の成果概要

本活動では、6人の学生が、①歴史的記憶と平和教育、②伝統文化の継承、③多文化共生、④持続可能な経済発展というトピックのもとで、インタビュー調査を主とした社会調査を実施し、以下の問いを検討した。

- ・沖縄において戦争の記憶の継承がこれまでどのようになされ、これからどのような平和教育が目指されているのか。
- ・沖縄の伝統文化に対して地域住民はどのような感情を抱き、それらをどのように継承しようと考えているのか。
- ・沖縄県民の国内外への移動や沖縄県への国内外からの人の移動がどのように沖縄の地域的特性をつくりあげてきたのか、またこうした各種の人の移動により、どのような地域活性化や多文化共生にかかわる社会的諸課題を沖縄地域社会が抱えているのか。
- ・地域住民の視点から見た観光業以外の沖縄経済の発展のありかたとはどのようなものか。

本調査の実施にあたっては、事前に沖縄の地方新聞社関係者に調査内容や方法についての指導と助言を受けた。加えて、ゼミでの活動で、沖縄の歴史と社会の現状に関わる文献調査を徹底した。調査実施後の9月からは、ゼミでの指導を通して、収集したデータを分析し、調査班でディスカッションを行い、卒業論文を含む合計6本の論考を作成していく。そして1月末をめどに、提出された論文を報告書にまとめる。完成した報告書は、調査協力者のみなさまに提出し、フィードバックをいただく予定である。

以上のプロセスを経ることにより、本活動では、本学学生の沖縄の社会問題や歴史と文化、日本の平和教育に関する関心を醸成しながら、「⑩住み続けられるまちづくりを」等のSDGs達成に向けて活動するとともに、関東都市圏に住む学生の視点から、沖縄の地域活性化にかかわる新たな知見を調査協力者のみなさまに返していくことを目指す。一連の活動は、沖縄の地域の人々にとっても、関東在住の大学生の視点から見た沖縄を知る機会となり得る。こうした調査活動は、教育・研究資本に恵まれた大学の強みを存分に生かしたものであり、本学の地域社会への貢献の方法として極めて重要である。



高津川流域におけるフードデザート調査

代表教員：藤本 典嗣
国際学部

■活動内容

フードデザート発生や買い物弱者対策について、島根県高津川流域地域を対象に調査・現地との交流を行った。事前に映画「高津川」（島根県在住の錦織監督作品）を鑑賞し、そこで描かれた流域地域が抱える地域的課題（少子高齢化、若年層流出、神楽の継承の必要性）を学習した上での調査・交流であった。

■活動の成果概要

2017年度からはじまった東洋大学と高津川流域地域(益田市)との交流(学生訪問など)を郡部(津和野・吉賀)も含み、かつ、フードデザートの発生やそれに伴う現地における買い物弱者対策について、学生の現地調査を伴いながら、交流を継続させるものである。本事業の特徴として、地域に根ざした文化創造者が制作した視聴覚型資料の活用がある。事前学習として、映画「高津川」（島根県在住の錦織良成監督による作品）を、2022年2月(新宿バルト9など)で鑑賞し、同地域が抱える地域的課題(少子高齢化、若年層の流出、結果としてのフードデザートの発生やそれに対する買い物弱者対策など地域政策の必要性、神楽など地域文化の継承の必要性)を、学生が学習した。映画の撮影に関わった監督、プロデューサー、津和野町町長から、地域の課題について、3月(オンライン)・5月(東洋大学)にて、事前に説明を受けた。それらの事前学習を踏まえ、現地合宿は以下のスケジュールで行われた。9月5日は、宿舎で事前のオリエンテーションを行った。6日9時30分より、益田市役所にて、山本市長による益田市の概要紹介や地域課題の提示、学生との質疑応答を行った。別途に、講演で用いられた資料が配布され、その資料に基づいて、学生との質疑応答があった。11時00分より、地域の小売業(スーパーマーケット運営事業者)である株式会社キヌヤにて、寺戸常務取締役より、株式会社キヌヤにおける買い物弱者対策について説明があり、学生との質疑応答を行った。学生から地域貢献として、どのような取り組みをしているかについて、「売り上げの30%を地元産とすることを目標」「買い物弱者対策として宅配事業があるが、慈善事業に近いこと」の説明があった。18時50分より、津和野町養老館にて、左鏡社中による石見神楽の実演が行われた。事前に津和野町役場から配布されたイラスト入りの神楽の紹介冊子に基づき、下森博之津和野町町長による津和野町の現状紹介、錦織良成監督による石見神楽の解説も行われた。7日10時より、リフトに乗り、津和野城址を見学した。リフトへの搭乗より、津和野町教育委員会の職員が、地域観光スポット、各種観光施設が地域経済に与える影響の観点から、各所の説明を行った。13時より、日本遺産センターの職員より、センター内の展示物についての説明が行われた。15時より、岩本町長(吉賀町)より、吉賀町の概要やビジョンについて説明があった。中でも、小中高の教育に力を入れている現状について、重点をおいて説明があった。事前質問に対して「大型ダム開発に依存しなかったのは、その必要がないため」「地域感情は公民館レベルでまとまる」との説明が、町の職員よりあった。8日には統括を行った。以上の調査内容を踏まえ、12月には学生が調査報告(PPTで20枚)をまとめた。

新聞報道（山陰中央新報 2022年9月7日）



東洋スローシティ

代表教員：鈴木 鉄忠
国際学部

■活動内容

前橋市及び気仙沼市のスローシティの中期交流、空き家利活用、テントサウナ観光ツアーの提案を行う。地域住民と協同し、活動過程を公式SNSで発信しながら、地域内外の人々が気軽に集まれる拠点づくりに取り組む。学生を含む都心居住者の意識を地方に向け、地域活性化と東京一極集中緩和を目指す。

■活動の成果概要

今年度から採択となった本活動は、ゼミの地域活動をベースとし、スローシティ国際連盟の日本加盟の二都市（前橋市と気仙沼市）における学生主体の地域活性化に取り組んだ。成果として以下の4点があげられる。

第1に、SNSを通して都内学生の目線で「前橋・赤城スローシティならではの」を発信した。赤城エリアの文化や風景などを若年世代と都心居住者に伝えることを目的とした。現在、計36回の投稿を行い、81のフォロワーを得た。

第2に、地域活動への参加である。前橋市大胡地区で古民家再生を進める任意団体「前橋赤城マイマイの会」の協力を得ながら、空き古民家、田畑・雑木林の利活用に参加した。敷地林を活用した「木製ベンチ製作」では、木の伐採から始め、地域の方々と協力して作業を行った。完成したベンチは、10月開催の「第1回マエバシBOOKFES」で披露された。2023年4月には、前橋市が開業する新しい道の駅「まえばし赤城」に設置予定である。この作業を記録した動画は、「若者たちの活動を世界に示せることが誇りだ」と山本龍前橋市長の高い評価を得て、10月に韓国で開催された第6回全州ワールドスローネスフォーラム2022で放映された。

第3に、「食の体験会」の企画を地域と協同しながら企画・運営した。本会は地産の食材をすべて手作りで料理を作り、地域内外の方々に振舞う企画である。本活動をSNSで発信したところ、フォロワー数1万2千人を有する前橋市観光政策課のInstagram公式アカウントに取りあげられた。

第4に、9月21日～23日にゼミ生8人が気仙沼研修を行った。現地視察に加えて、前橋での取り組みをゼミ生3人が地域の人々に発表した。その様子が『三陸新報』（9/27付）と『上毛新聞』（10/8付）に掲載された。また12月に前橋市役所への視察報告会で発表し、『上毛新聞』（12/6付）に掲載された。



南会津町・観光まちづくりデザイン研究Ⅳ

代表教員：佐々木 茂
国際観光学部

■活動内容

9月に実施予定の本格的なヘルスツーリズムに向けてフレイル予防の実験的なプログラムを行った。外部企業監修の食育学習を通じた世代間交流、医療機関による骨密度検査などの健康チェックや講演会、地元住民が参加したウォーキング、地元事業者によるセミナーや体験プログラムを実施した。

■活動の成果概要

今回の南会津町訪問は昨年10月に実施したフレイル予防ツーリズムを踏まえ、県外からの参加者を募る9月の本格的な開催を見据えて実施された。「フレイル」とは健康な状態から要介護に移行する中間の段階のことであり、フレイルを予防するために「栄養・運動・社会参加」の3つを軸に取り組みを行った。

まず、「栄養」の観点からは外部企業監修のもと、事前に学生とイベント参加者に共食支援コーディネーター講座を受講してもらい、年齢にかかわらず普段から意識すべき栄養バランスの知識を身につけた。この食育学習は事前の座学のみならず、3日間の訪問の中で南会津の食材を使った食事を楽しむ機会が設けられた。普段野菜をあまり好まない学生も舌鼓を打つほどの美味しさで、外部からの来訪者にとってはもちろん地元の方々にとっても新しい食べ方の提案を通じて食材の良さを再確認する機会となった。また、これらの得た知識を参加者がサポーターとして新たな参加者に伝えていくことで今後の持続可能なツーリズムの確立を目指すという狙いもある。

「運動」を促進する取り組みとしては、地元ボランティアガイドの協力を得て1時間程度のウォーキングを実施した。運動前後に医師による問診や骨密度検査、ストレス値を測定するAGE検査を行いヘルスツーリズムとしての意義を高めることができた。

そして「社会参加」については、今回の訪問で最も学生が寄与することができたと言えるだろう。問診の待機時間やウォーキングの最中、ランチタイムなどで密に話を聞くことができる場面が多く見られ、初めて南会津を訪れた学生にとって地域を知る絶好の機会となった。このような交流の場は双方にとって新たな発見があり、若者の人口流出と高齢化が深刻化する地域において関係人口の拡大や人口還流を促進する一つの契機となる。

9月の規模を拡大したヘルスツーリズムの開催にあたり、参加者の人数に応じたグループ分けやウォーキングコース、道の駅を利用した地元食材の販売促進案など今後さらなる検討の余地がある点がいくつか挙げられた。今後はOB・OGとともに立ち上げたNPOを活用しながらより地域に入り込んだ調査を重ね、3年生が現在取り組んでいる研究活動を通じて多様な視点で地域活性化に貢献できる提案をしたいと考えている。



富士宮市における食文化振興プロジェクト

代表教員：佐野 浩祥
国際観光学部

■活動内容

富士宮市の観光まちづくりに向けた課題解決に取り組むべく、文献調査と現地調査を行った。因果ループ図による課題の構造化、複数回の現地調査による関係者インタビューや社会実験を実施し、それらを取りまとめ現地での成果報告会を実施し、学生と地域の双方にとって有意義な機会となった。

■活動の成果概要

本年度もコロナ禍の中での活動を余儀なくされたものの、昨年度までに比べれば条件が緩和されたため、積極的な現地調査を展開することができ、有意義な活動が可能となった。4月からは富士宮市の現状を把握するための文献調査を開始し、因果ループ図の作成を通して、富士宮市の中心市街地が抱える問題の構造化を試み、好循環につながるような解決策の方向性を模索した。また昨年度活動したゼミ生との情報共有も実施し、昨年度から本年度にかけての継続性についても配慮した。6月11日には学生13名と現地調査を実施し、中心市街地を4エリアに分けてチームごとに分担し、現地調査でしか得られない情報を入手するためにひたすら歩き回り、パブリックライフマップを作成、ツーリズムEXPOにてプレゼンテーションを行った。第1回現地調査を踏まえ、そのテーマに応じて3チームに分かれ、第2回現地調査以降の活動につなげていった。9月17日から18日にかけては、18名の学生が第2回現地調査を実施し、各チームが解決策の精度をさらに高めるための調査を企画・実施した。観光協会をはじめ、宿泊施設や商店街組合、飲食店の方に精力的にインタビューし、地域の多くの方にご協力いただくことができた。12月10日から11日にかけても8名の学生が第4回現地調査を実施、社会実験を実施したり提案の実現性を高めるための調査を実施した。その後、学生による食文化振興と中心市街地活性化に関する提案をとりまとめ、2023年1月30日、地元関係者に広く声をかけ、富士宮市役所410会議室において報告会を実施した。報告内容については好意的な反応が多く、また、今後の活動についての意見も複数いただき、来年度の活動に向けた素地をつくることができた。地元新聞(静岡新聞・岳南朝日新聞)にも大きく取り上げられ、より一層、東洋大学としての活動が当該地域に周知された。以上の一連の調査にもとづく調査報告を通して、今後の取り組みに向けて富士宮市のカウンターパートとの信頼関係を醸成できたこと、そして学生によるビジョンや社会実験の提案に対して、ある程度の地元側の理解を得ることができたことが、昨年度に引き続き、今年度の活動の主な成果と言えよう。学生が主体となることによって、様々な関係者と接触することができた他、学生ならではの斬新なアイデアによって地元住民の関心をひくことができた。そして、東洋大学の学生が出したアイデアに刺激され、報告会では「次は私たちが立ち上がる番だ」といった意見が地元住民から相次いで出され、地元住民との協働が動き出す機運が醸成された。



広島県呉市・江田島市における地域活性化支援事業

代表教員：須賀 忠芳
国際観光学部

■活動内容

ゼミ学生3年次14名で、広島県呉市・江田島市について調査し、両地域の活性化のために何が必要かを考察するとともに実現可能な観光施策を提言する取り組みを行った。文献をもとにした事前学習を経て、8月5日から8月8日にかけて現地調査を実施し、その後、調査事業報告会の実施、報告書の作成に取り組んだ。

■活動の成果概要

現地調査では、呉市について、呉市元市長、観光振興課担当者、地元博物館学芸員の方などから聞き取りを行うとともに、地域市民団体の方のご案内で地域に残る文化資源、まちなみについて見学した。また江田島市では、6次化に取り組む地元農業団体の担当者や、解体を免れた歴史的建造物の保存活用にあたるNPO団体担当者から聞き取りを実施した。また、グループ別の活動も実施し、地域住民や、地区内の観光事業者、他地域からの移住者の方などへの聞き取りも実施し、地域の実状と新たな可能性について理解を深めた。呉市における現地調査は、昨年度に引き続いて実施したことから、江田島市も含めて、地域の方にもさらにご助力いただき円滑に調査を実施することができた。

現地調査をふまえて、より現実的、かつ実効性のある地域活性化のための観光施策の提言に取り組み、12月上旬には、調査に関する成果と観光施策提言につながる内容を発表する調査発表報告会をオンライン形式で実施する予定である。報告内容は、昨年度の報告をふまえて、より地域の実態に即した、実現可能な施策提言となるように留意したい。当該発表報告会には、当地の地域振興、観光施策に直接関わっていらっしゃる呉市役所・江田島市役所の皆様、また、呉市東京事務所所長、及び、呉市・江田島市の地域住民の方などにもご参加いただく予定である。その際、学生発表について、皆様からご講評をいただき、さらに観光施策提言内容を精査し、年度末に刊行するゼミ論集において、論評し、活動全体についてまとめることとする。

こうした取り組みは、地方における観光施策支援としての本学の社会貢献活動の一つとして、地元からも高い評価を受け、大きな成果を得るものともなると思われる。また、首都圏出身の者が多い参加学生にとって、地域振興にかけ強い思いを有する地域の方々と直に接することは大いに刺激となるもので、地域貢献活動の意義について、強く実感する契機となっている。同時に、現地において学生が提示した意見についても、当地の皆様からも大いに興味を持っていただくことができた。今後も、呉市・江田島市の担当者や地域住民の方と連携しながら、当地の観光施策実現に向けて留意し、貢献していきたいと考える。

当事業については、交通費・宿泊費等は自己負担で、学生の経済的負担は大きなものがあった。こうした中で、今回、交通費・宿泊費について、補助、支援いただくことで学生の経費負担分も大きく軽減され、学生にとって、より参加しやすく、教育的効果は各段に高まったものと思料される。



沖縄の地域観光活性化のための観光人材育成と商品開発

代表教員：森下 明美
国際観光学部

■活動内容

オーバーツーリズムの懸念される一方、観光が大きな収入源となる沖縄において持続可能な観光と地域活性化の両立を目的に、地域固有の自然と文化を活かし質の高いインバウンド旅行者を誘致するため、地元観光協会やガイド、旅行会社などと共にアドベンチャートラベルの商品化に取り組んだ。

■活動の成果概要

- ①インバウンド旅客の増加は地域経済への好影響と共に環境への負荷と疲弊を生じさせた。また、オーバーツーリズムを背景に日本の観光戦略も量から質への転換を模索している。
沖縄県も例外ではなく、北部やんばる地区が2021年世界自然遺産に登録され有数の自然と琉球文化を持つことから、これを活かした良質のインバウンド客の誘致を県をあげて目指している。固有の自然と文化を理解する質の高いインバウンドとして、世界的に注目されているのがアドベンチャートラベルで、本取組は沖縄県、国頭村などと共にアドベンチャートラベル(自然・文化・アクティビティを通じ地域を理解する観光)で地域の独自性と持続性のある観光産業基盤をつくるもので、観光収入が大きなウエイトを占める沖縄県においては特に意義が大きい。
- ②沖縄は主要産業である観光を担う人材不足で、観光を学ぶ学生との協働により企画アイデア、若い人材育成の方法論を考察できる。特に北部やんばる地域は若年層の人口減少も激しく、アドベンチャートラベルはアクティビティが観光資源となるため、若いアイデアや考察は欠かせない。また、森下ゼミでは経年に渡りアドベンチャートラベルを研究してきており、その知識と成果を役立たせることができる。
- ③ゼミでは、4月からやんばるに関する資料調査とオンラインによる現地関係者との情報交換を行って、やんばるでのアドベンチャートラベルの可能性を考えてきた。今回、さらに実際に視察と地元関係者との意見交換、学生の提案を行ったことで、やんばるでアドベンチャートラベルを進める上での課題や、観光資源を生かしたプランなどが少しずつ整理できた。これは実際に現場を見て、担当者とは異なる意見交換を行ったことによるところが大きい。やんばる地区では、2023年北海道で行われるアドベンチャートラベルワールドサミット2023(アドベンチャートラベルの世界大会)でプランの提案を目指しており、ここで評価されれば国際的なアドベンチャートラベラーを誘致でき、これにより質の高いインバウンド旅客を誘致でき、環境・文化保護と経済の発展が両立できるため、学生が果たした意義も大きい。また、別件ではあるが、やんばる地区は、現在、観光庁事業として「第二のふるさと創生事業」に取り組んでおり、これに対しても学生と地元関係者との意見交換を行い事業への協力を行った。



社会貢献活動助成・表彰制度

■東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び社会貢献活動に対する表彰

2019年度より社会貢献部門の活動における新たな取り組みとして、学生の社会貢献に対する活動助成と個人の活動を含む学生の社会貢献活動に対する表彰を行う制度を設立した。これは、2018年度まで本学学生支援課で行っていた表彰制度を一部引き継ぐ形で作られたもので、学生の社会貢献活動のサポートをするボランティア支援室が社会貢献センター内にできたことによる。社会貢献センターにおいては4年目となる2022年度の概要は以下のとおりである。

なお、2020年度より続く新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため、学生の「課外活動」はほぼ2年間実施することができなかった。

2022年度は「対面」の活動が“条件付き”ながら実施ができるようになってきたが、宿泊を伴う企画については条件をクリアすることが難しいケースもあり、結果的に「中止」を選択する団体が今年度も発生した。

学生へはこれまで行ってきた活動を「Web」を活用する等、抜本の見直しを検討させてきたが、「現地での体験」を主たる目的とする企画が多く、2023年度こそ実現をさせたいと考えている。

I 学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成事業の目的

本事業は、東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援するものである。

II 学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

1. 助成対象となるプロジェクト活動

社会貢献センター運営委員会が設定する社会貢献活動等に参加する学生への支援及び直接的な実施経費に充当するため、主として国内で行われる学生による社会貢献プロジェクト(ボランティア活動を含む。)で、次の2区分による活動を対象とする。

また、本学の学生(大学院生を含む。以下同じ)が活動する団体で、1団体あたり本学学生が最低3名以上在籍しており、かつ、メンバーの大半が本学学生であること。ただし、ゼミ活動は対象外とする。

(1) 新規活動助成

ア 初めの一步を踏み出そうとする、又は踏み出しつつある学生団体であること。

イ 応募年度が初めての活動になること。

(2) 継続的活動助成

ア 自らの団体の持ち合わせている技術力や特技を最大限に生かしたボランティア活動を行っている学生団体であること。

イ 団体として最低1年以上の活動実績があること。

2. 助成内容

(1) 新規活動助成

ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～10万円以内(1万円単位)とする。

イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

(2) 継続的活動助成

ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～20万円以内(1万円単位)とする。

イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

3. 選考

社会貢献センター運営委員会による第1次審査(書類審査結果発表)、第2次審査(プレゼン審査)

Ⅲ 社会貢献活動による表彰

1. 表彰の対象

(1) 本助成金を受けて活動した団体(以下「助成団体」という。)

(2) 本助成金を受けないで活動した団体(選考漏れの団体を含む。)及び個人又は学外の団体に所属して活動した個人(以下「助成を受けない団体及び個人」という。)

(3) 前号の団体及び個人については、別に定める活動実施結果報告書を提出のうえ本助成による「活動報告会」に参加し、その活動が表彰に値すると評価された場合に限る。また、同一内容の活動の表彰に対しては在学期間中1回限りとし、継続しての表彰はしない。

2. 表彰内容

表彰の内容は次のとおりとし、年度等によって、社会貢献センター運営委員会が定める。

(1) 助成団体 表彰状と記念の楯を授与する。

(2) 助成を受けない団体及び個人 表彰状と表彰金(1件3万円を上限)を授与する。

3. 選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

Ⅳ 年間スケジュール

● 学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

2022年1月5日～2月28日 募集期間(第1次)

2022年3月中 社会貢献センター運営委員会にて第1次書類選考(申請数：6団体)

2022年3月22日 決定通知(採択数：6団体)

2022年4月1日～5月10日 追加募集期間(第2次)

2022年6月 追加決定通知(申請無し)

2023年2月末まで 各採択企画の報告書および決算書提出締切

2023年3月15日 報告会の実施(活動できなかった4団体除く2団体が報告予定)
2023年3月末まで 支援金額の支払い

● 社会貢献活動による表彰

2022年12月1日～2023年1月31日 募集期間

2023年2月22日 社会貢献センター運営委員会にて書類選考
(申請数：[個人] 2名 [団体] 0団体)

2023年2月22日 結果通知(受賞：[個人] 1名 [団体] 0団体)

2023年3月15日 報告会の実施(オンライン参加)

2023年3月末まで 表彰会の支払い

V 2022年度実績

● プロジェクト助成

応募数 9団体

採択数 9団体 (内9団体中止)

● 表彰

応募数 1名、1団体

受賞数 0名、0団体

2022年度 社会貢献活動助成 表彰式・報告会

東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成 及び社会貢献活動に対する表彰の概要（抜粋）

●目的

本事業は、東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援するものである。

学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

●助成対象となるプロジェクト活動

(1) 新規活動助成

- ア 初めの一步を踏み出そうとする、又は踏み出しつつある学生団体であること。
- イ 応募年度が初めての活動になること。

(2) 継続的活動助成

- ア 自らの団体の持ち合わせている技術力や特技を最大限に生かしたボランティア活動を行っている学生団体であること。
- イ 団体として最低1年以上の活動実績があること。

●助成内容

(1) 新規活動助成

- ア 助成金額は、年間 1件当たり、1万円～10万円以内(1万円単位)とする。
- イ 採択件数は、年間 5件程度を目安とする。

(2) 継続的活動助成

- ア 助成金額は、年間 1件当たり、1万円～20万円以内(1万円単位)とする。
- イ 採択件数は、年間 5件程度を目安とする。

2022年度実績 応募 6団体 採択 6団体
(内5団体は新型コロナウイルス感染拡大のため中止)

社会貢献活動による表彰

●表彰の対象

- (1) 本助成金を受けて活動した団体(以下「助成団体」という。)
- (2) 本助成金を受けないで活動した団体(選考漏れの団体を含む。)及び個人又は学外の団体に所属して活動した個人(以下「助成を受けない団体及び個人」という。)
- (3) 前号の団体及び個人については、別に定める活動実施結果報告書を提出のうえ、本助成による「活動報告会」に参加し、その活動が表彰に値すると評価された場合に限る。また、同一内容の活動の表彰に対しては在学期間中1回限りとし、継続しての表彰はしない。

●表彰内容

- (1) 助成団体 表彰状と記念の楯を授与する。
- (2) 助成を受けない団体及び個人 表彰状と表彰金(1件3万円を上限)を授与する。

2022年度実績 応募件数 3件(個人2名/0団体) 受賞数 1件(個人1名/0団体)

学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成 採択団体活動紹介

団体名：Smile F LAOS

【活動概要】

「フェアトレードに対する認知度の向上、フェアトレード商品の普及・コーヒー販売から得た収益をもとに現地への調査に向けた活動準備」という目標を掲げ、自分たちでラオスのフェアトレードコーヒーをフェアトレードのルートを通じて輸入し、自分たちで梱包作業・製品化を行い、学校内の販売会や外部へのイベントにて販売を行う。



社会貢献活動による表彰 受賞者活動紹介

受賞者：樋口佳純さん

【活動概要】

2022年8月、ウクライナとポーランドの国境の街「メディカ」「プシェミシル」を訪れ、ウクライナ支援のボランティア活動と取材を行った。帰国後、自身の所属する学生新聞「キャンパス・スコープ」にて、経験をルポとして執筆した。記事を読んだ学生から、「大学で、ロシア人学生と議論をした」との言葉が寄せられた。このことから、私は学生の目線から「平和とは何か」「今、自分にできることは何か」と自身の経験を問題提起に繋げることができたと感じる。



国境「メディカ」
避難民滞在施設の撤去作業

キャンパス・スコープ 46号
掲載したルポ記事



2022 年度 東洋大学 SDGs 実践講座 活動報告



2022 年度「SDGs 実践講座～17 ゴールへの第一歩～」活動報告

| | | |
|-------|----------------|----|
| I. | はじめに | 1 |
| II. | 運営委員 | 2 |
| III. | 運営委員会の開催 | 2 |
| IV. | 広告宣伝 | 2 |
| V. | 募集 | 2 |
| VI. | 受講者数一覧 | 3 |
| VII. | 「総合」履修者数 | 3 |
| VIII. | 予算執行報告 | 3 |
| IX. | 骨子およびプログラム | 4 |
| X. | 講義プログラム | 7 |
| XI. | 講義要旨 | 8 |
| XII. | 受講前・受講後アンケート結果 | 16 |

「SDGs 実践講座」は、2022 年度より初年度開講として、全 15 回の講義を教員および外部講師に担当いただき、対面・オンライン講義として比較的円滑に運営することができた。

以下、今年度の活動報告を行う。

I. はじめに

全学総合講義「SDGs 実践講座 -17 ゴールへの第一歩-」をふり返って

代表担当者：東洋大学副学長/生命科学部 川口 英夫

SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。この SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルなものであり、皆が日々行っている諸活動の中で SDGs に取り組むことが求められています。さらに、2020 年に「行動の 10 年」がスタートしたという宣言がありました。2015 年に公表された目標に対し 5 年間の予備期間を経て、2020 年から 10 年間をかけて目標を実現しようという、次のフェーズに移ったことが宣言されたということです。

これらの状況を鑑み、本学でも今年度から全学部を対象とした講義「SDGs 実践講座 -17 ゴールへの第一歩-」を立ち上げました。本講義の目的は下記の 3 つです。

①SDGs に関し、その理念と各ゴールに対する具体的な取り組みを体系的に学ぶ。

②この学びを「自分ごと」として理解し、「自らの行動や選択を学生生活の中で具体的に变化させて行く」。

③在学中あるいは卒業後に国内外の社会で活躍できる人材に成長する。

これらの目標に対し、受講生の講義の最終発表や最終レポートから、「行動の 10 年」に相応しい、SDGs をベースとした「行動変容を伴う学び」がある程度実現できたと考えています。

学祖井上円了先生の言葉である、本学の建学の精神は「諸学の基礎は哲学にあり」ですが、これに「他者のために自己を磨く」「活動の中で奮闘する」という言葉を纏めると、「深く考え、実行する」ということとなります。この井上円了哲学の実践版として本講義を実施したわけですが、全受講生が将来、「深く考え、実行する」人材として、国内外で大いに活躍してくれるものと確信しています。

II. 運営委員

| | |
|-----------|-----------------|
| 教学担当常務理事 | 金子 光一 |
| 学長 | 矢口 悦子 |
| 教務部長(副学長) | 東海林 克彦 |
| 社会貢献センター長 | 高山 直樹 |
| 講座運営担当責任者 | 川口 英夫(生命科学部教授) |
| 講座運営担当者 | 小瀬 博之(総合情報学部教授) |
| 講座運営担当者 | 清水 宏(法学部教授) |
| 講座運営担当者 | 堀本 麻由子(文学部准教授) |

III. 運営委員会の開催

- 第1回: 2022年 1月11日 (火)
- 第2回: 2022年 2月 3日 (木)
- 第3回: 2022年 5月30日 (月)

IV. 広告宣伝

学内掲示、本学公式アプリ、ToyoNet-G、ToyoNet-Aceによる配信等で広報活動を行なった。

V. 募集

- 申込期間: 2022年7月11日(月)～9月2日(金)
- 申込総数: 38名
- 書類選考: ①選考期間 9/6(火)～9/12(月) ②選考結果発表 9/15(木)
- 書類選考(延長): ①選考期間 9/16(金)～9/17(土)正午まで ②選考結果発表 9/17(土)午後
※選考担当者: 川口 英夫、小瀬 博之、清水 宏、堀本 麻由子
- 受講決定者数: 31名
- 受講手続期間: 秋学期履修登録期間までに「履修希望申請書」を提出のうえ各学部教務課で履修登録を行う。
- 授業開始: 9/23(金) A101 教室(10号館1階)

VI.受講者数一覧

単位:人数

| | |
|------|----|
| 申込者数 | 38 |
| 受講者数 | 31 |

● 受講者数(学部・学年別)

単位:人数

| 学部/学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|---------|----|----|----|----|----|
| 文学部 | 1 | | 1 | | 2 |
| 経済学部1部 | 1 | | 3 | | 4 |
| 経済学部2部 | | | 1 | | 1 |
| 法学部第1部 | | 1 | | | 1 |
| 社会学部第1部 | 3 | 1 | | 2 | 6 |
| 社会学部第2部 | 1 | | | | 1 |
| 国際学部 | 4 | | 1 | | 5 |
| 国際観光学部 | | | 2 | | 2 |
| 情報連携学部 | | 1 | | | 1 |
| 理工学部 | | 2 | | | 2 |
| 総合情報学部 | | 2 | 2 | | 4 |
| 生命科学部 | 2 | | | | 2 |
| 合計 | 12 | 7 | 10 | 2 | 31 |

VII.「総合」履修者数

1、履修登録者数

「総合ⅢB/全学総合J」 24名 (白山・板倉キャンパス)

「総合ⅡB/全学総合J」 1名 (赤羽台キャンパス)

「総合B/全学総合F」 6名 (川越キャンパス)

2、単位修得者数

31名

VIII.予算執行報告

支出

| 予算目的 | 予算件名 | 予算額 | 執行額 | 残額 |
|----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 授業・講座等運営 | SDGs 実践講座 | 186,000 円 | 128,634 円 | 57,366 円 |

IX. 骨子およびプログラム

2022年度 SDGs 実践講座「17ゴールへの第一歩」の骨子(シラバス)

1. 講座の目的・内容

「SDGs (Sustainable Developmental Goals)」とは、2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す、17項からなる国際目標である。本講義の目的は、このSDGsについて、その理念と各ゴールに対する具体的な取り組みを体系的に学ぶことである。さらに、この学びを「自分ごと」として理解し、「自らの行動や選択を学生生活の中で具体的に変化させて行く」ことで、在学中、あるいは卒業後に国内外の社会で活躍できる人材に成長することを目指す。なお、本講義受講期間中にSDGsに繋がる活動をスタートしていただく。社会貢献センター(ボランティア支援室)等で実施する活動、若しくは自身での活動を通じて、本講義の学びを「自分ごと」にする。これらの活動を踏まえ、グループでの最終発表および各自の最終レポートをまとめる。また、本講座終了後、受講者には東洋大学SDGsアンバサダーへの登録を推奨します。

2. 本講座の名称

本講座は「SDGs 実践講座」を正式名称とする。

3. 本講座の募集人員、応募方法等

- 1) 募集人員: 40名程度
- 2) 対象: 本学の学部生
- 3) 授業期間: 秋学期(9月23日～1月20日まで)
- 4) 応募方法: グーグルフォームより応募する。記載の志望理由等により選考を行う。

4. 学修到達目標

受講生は、以下の力を涵養し獲得することが期待される

1. SDGsの理念と具体的な取り組みを「自分ごと」として理解する力
2. 「自分ごと」として理解したことを、主体的な行動として行動変容につなげる力
3. 課題・問題を発見する力
4. 他者と関わりチームとして成果をあげる力

5. 講義スケジュール

I. 1) 学長講義(矢口 悦子 学長)

2) 本学、他大学の SDGs 取り組み状況説明等

(川口 英夫 生命科学部教授、副学長、東洋大学 SDGs 推進委員長)

3) アイスブレイク(清水 宏 法学部教授)

II. ワークショップで考える SDGs「世界がもし 100 人の村だったら」から考える SDGs

(外部講師 NPO Dear)

III. 世界と日本の子どもの貧困について考えよう(小野 道子 社会学部准教授)

IV. 見える飢餓と見えない飢餓ー植物科学からの挑戦ー(廣津 直樹 生命科学部教授)

V. 移民・難民と私たち: 共生社会へのカギ(南野 奈津子 ライフデザイン学部教授)

VI. 気候変動対策とエネルギー・陸域生態系の保全(小瀬 博之 総合情報学部教授)

VII. うまい棒から考える「パートナーシップで目標を達成」する意味と意義(外部講師 JICA 高田 健二)

VIII. 対話的な深い学びへのアプローチ(堀本 麻由子 文学部准教授)

IX. 開発途上国の生活環境改善に向けて(北脇 秀敏 国際学部教授)

X. 学校の中のジェンダーと子どもの権利(内田 塔子 ライフデザイン学部准教授)

XI. 人工知能と人間社会(佐野 崇 情報連携学部講師)

XII. 海の豊かさを守ろうーイルカ、クジラの世界から見つめる SDGsーワークショップ

(外部講師 アイサーチ・ジャパン)

XIII. 住み続ける社会のデザイン(水村 容子 ライフデザイン学部教授)

XIV. 日本人の働き方と働きがいはいこれからどうなるのか(久米 功一 経済学部教授)

XV. 最終グループ発表

上記プログラムを受講したまとめとして、グループ毎に受講生が、口頭および文書により発表する。

予め書面を作成し、当該書面に基づいて口頭報告をさせることで、プレゼンテーション能力の涵養を

図る。口頭報告については、教員が講評を行い、さらに思考を深化させるように指導する。

6. 成果の公表について

授業の成果については、運営、プログラム内容、最終報告書などをまとめた活動報告書として公表する。

7. 授業科目としての提供

授業科目「総合」(半期 15 回 2 単位)として提供し、単位認定を行う。

8. 録画収録および ToyoNet-Ace の活用

講義については、録画収録して講義記録として保存する。また、ToyoNet-Ace を活用して、授業運営に関する管理を行う。

9. 講師謝礼

学内者:授業コマを含む 学外者:33,000 円(税込)

X. 講義プログラム

2022年度 東洋大学SDGs講座

| 秋学期・金曜日5時間 | 日時 | 授業内で扱う17目標No (*4は共通) | 授業形式 | 内容詳細(例) | 講師 | 所属・肩書き |
|------------|--------|-------------------------|---------|--|----------------------|--------------------|
| 第1回 | 9月23日 | 全体 | ハイフレックス | (16:30~17:10)学長講義 | 矢口 悦子 | 学長 |
| | | | | (17:15~17:25)本学、他大学のSDGs取り組み状況説明等 | 川口 英夫 | 副学長/SDGs推進委員長 |
| | | | | (17:30~18:00)アイスブレイク | 清水 宏 | 法学部教授 |
| 第2回 | 9月30日 | 全体 | Web/対面 | 「世界がもし100人の村だったら」から考えるSDGs | 外部講師 NPO Dear | 特定非営利活動法人 開発教育協会講師 |
| 第3回 | 10月7日 | 1・5・11 | ハイフレックス | 世界と日本の子どもの貧困について考えよう | 小野 道子 | 社会学部准教授 |
| 第4回 | 10月14日 | 2 | ハイフレックス | 見える飢餓と見えない飢餓—植物学からの挑戦— | 廣津 直樹 | 生命科学部教授 |
| 第5回 | 10月21日 | 3・10・16 | ハイフレックス | 移民・難民と私たち:共生社会へのカギ | 南野 奈津子 | ライフデザイン学部教授 |
| 第6回 | 11月4日 | 7・13・15 | ハイフレックス | 気候変動対策とエネルギー・陸域生態系の保全 | 小瀬 博之 | 総合情報学部教授 |
| 第7回 | 11月11日 | 17 | ハイフレックス | うまい棒から考える「パートナーシップで目標を達成」する意味と意義 | 外部講師(JICA高田健二) | 外部講師 |
| 第8回 | 11月18日 | 4 | ハイフレックス | 対話的な深い学びへのアプローチ | 堀本 麻由子 | 文学部准教授 |
| 第9回 | 11月25日 | 3・6・11 | ハイフレックス | 開発途上国の生活環境改善に向けて | 北盛 秀敏 | 国際学部教授 |
| 第10回 | 12月2日 | 4・5 | ハイフレックス | 学校の中のジェンダーと子どもの権利 | 内田 塔子 | ライフデザイン学部准教授 |
| 第11回 | 12月9日 | 9・12 | ハイフレックス | 人工知能と人間社会 | 佐野 崇 | 情報連携学部講師 |
| 第12回 | 12月16日 | 14 | ハイフレックス | 海の豊かさを守ろう〜イルカ、クジラの世界から見つめるSDGs〜(ワークショップ) | 外部講師 (アイサーチ・ジャパン) | 外部講師 |
| 第13回 | 12月23日 | 11 | ハイフレックス | 住み続ける社会のデザイン | 水村 容子 | ライフデザイン学部教授 |
| 第14回 | 1月6日 | 8 | ハイフレックス | 日本人の働き方と働きがいこれからどうなるのか | 久米 功一 | 経済学部教授 |
| 第15回 | 1月20日 | 全体 | ハイフレックス | 最終グループ発表 | 運営担当教員 | |

*プログラム内容・授業形式については変更する場合があります。

1: 貧困をなくそう 2: 飢餓をゼロに 3: すべての人に健康と福祉を 4: 質の高い教育をみんなに 5: ジェンダー平等を実現しよう 6: 安全なトイレを世界中に 7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8: 働きがいも経済成長も 9: 産業と技術確立の基礎を作ろう 10: 人の国の不平等をなくそう 11: 住み続けられるまちづくりを 12: つくる責任、つかう責任 13: 気候変動に具体的な対策を 14: 海の豊かさを守ろう 15: 陸の豊かさを守ろう 16: 平和と公正をすべての人に 17: パートナーシップで目標を達成しよう

SDGs17 目標よりテーマを設定し、講義を行った。毎回の講義では、グループを設定し、グループワークやディスカッションを重視し、意見を出し合いながらグループ毎の意見をまとめ、発表した。

XI. 講義要旨

SDGs 実践講座第1回 講義要旨

9月23日(金)

講師名: 矢口 悦子(文学部教授)

テーマ: 東洋大学の歩みとSDGs、そして現在の取り組み

本学の歴史を振り返り、創立者井上円了先生のお思想に基づく建学の精神の中に、すでに現在のSDGsに通じる考え方が示されていることを明らかにした。創立直後からの講義録の送付による通信教育や当時の専門学校として初の女子学生の受け入れなど具体的な事項で説明した。講義の後半では、夜間部の教育による歴史の継承や男女共同参画によるキャンパス文化の存在を背景として、2021年6月に制定された「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」を読み直した。現在の具体的な取り組み事例として、学生SDGsアンバサダーを中心とした多様で主体的なムーブメント、教員による重点研究としての探求、そして大学としての平和にかかわる取り組みとなるウクライナからの学生の受け入れなどを取り上げながら、受講者と共にSDGsに関する問題意識を持つこと、行動することの重要性を確認することができた。

SDGs 実践講座第2回 講義要旨

9月30日(金)

講師名: NPO 法人 Dear 八木 亜希子

テーマ: 「世界がもし100人の村だったら」から考えるSDGs

インターネット上で、拡散することによって世に知られることとなった、「世界がもし100人の村だったら」は、世界をひとつの村にたとえ、人種、経済状態、政治体制、宗教などの差異に関する比率はそのままに、人口だけを100人に縮小して説明している。受講者には、気になった文章をグループ内で共有し、なぜその部分が気になったのか、どういう感情を抱いたのかを考え、グループごとに発表を行った。2030年までに達成すべき開発目標として掲げられている「SDGs」。受講者はこの年に世界がどうなって欲しいか、あるいはどうなっていると思うかを話し合い、それまでに自分たちができることは何かについて考え、地球社会に住む自分たちのあり方、未来について考えるきっかけとなった。

SDGs 実践講座第3回 講義要旨

10月7日(金)

講師名: 小野 道子(文学部准教授)

テーマ: 「世界と日本の子どもの貧困について考えよう」(第3回)

この講義では、SDGs 目標1の「貧困をなくそう」の内容やターゲット、絶対的貧困と相対的貧困の違いについて説明できるようになること、世界と日本の子どもの貧困の現状や対策について自分なりの考えを持つことができるようになることを目的とした。まずは「子どもの貧困」のイメージについ

て考えてもらった。講義を聴くだけでなく、世界で極度の貧困状況にある子どもの数は減っているのか、マイクロファイナンスは子どもの貧困削減に役立っているのかなど、グループで話し合い発表した。子どもの貧困だけでなくおとなの貧困も自己責任ではないこと、災害などが起きれば誰でも脆弱層になり得るため、レジリエンスの構築が大切であること、今、貧困の状況にある子どもだけでなく、「すべての子ども」への支援が大切であることなどを伝えた。日本政府は2030年までに貧困を減らせるのか、どのようにしたら減らせるのか、この授業を通して世界や日本の子どもの貧困について考え続けてもらいたい。

SDGs 実践講座第4回 講義要旨

10月14日(金)

講師名：北脇 秀敏(国際学部教授)

テーマ：開発途上国の生活環境改善に向けて

講義では、まずMDGsからSDGsへ世界的な開発目標が移り変わった過程を紹介した。先進国から途上国への国際協力が中心課題であったMDGsと比較し、「誰一人取り残されない」SDGsに変わり多くの人に受け入れられたことを述べた。次に途上国の生活環境を守る重要な要素として水供給、し尿・排水処理、廃棄物処理の3つの公共事業が途上国住民の健康に係る要素であり、健康的な生活を送るためには、これらが破綻のない形で実施されていることが必要なことを述べた。講義において特に強調した点は、これらの不備があるとどのような健康上の問題点があるかという点に加え、途上国において生活環境を改善する上でどのような適正技術を導入すれば良いかという点にも考察を加えた。また東洋大学の卒業生が途上国の環境改善に青年海外協力隊員として活躍している様子も紹介し、聴講生がどのようにこうした活動に関わるかの議論も行った。

SDGs 実践講座第5回 講義要旨

10月21日(金)

講師名：南野 奈津子(ライフデザイン学部教授)

テーマ：移民・難民と私たち:共生社会へのカギ

本講義では、SDGsの目標3, 10, 16をテーマとして、1)世界での人の移動と難民・移民の実情、2)移動する人々が経験する事. 彼らの経験、3)日本で起きていること、4)共生に向けて:私たちは何ができる?という4項目について学んだ。

世界における難民・移民の数や地域、人が移動をする/強いられる要因や背景をデータから学んだのちに、「自分の大切なもののほとんどを急に手放す」という経験を感じるための個人ワーク、グループワークを行った。そして、日本で移住者がどのような状況にあるのかを、日本で起きている外国人差別に関する資料を通じて学んだ。最後に、グループワークにて、「共生社会のカギとは何か」について話し合った。「自分たちが実情を知ること」「身近な移住者との関わりを積極的にもっていくこと」「自分事としてとらえること」等が最後の共有の場で報告された。

SDGs 実践講座第 6 回 講義要旨

11 月 4 日(金)

講師名: 小瀬 博之(総合情報学部教授)

テーマ: 気候変動対策とエネルギー・陸域生態系の保全

SDGs(持続可能な開発目標)のうち「7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「13.気候変動に具体的な対策を」「15.陸の豊かさも守ろう」の 3 つの目標について、現状ではトレードオフになっている関係を、事例を示しながら説明した。次に、1 回目のグループワークでこれらの目標を中心とした持続可能な開発の課題をまとめ、グループごとに発表してもらい情報共有した。続いて、取組事例として講師が関わっている「かわごえ環境ネット」、「東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊」、「NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ」の取組を紹介した。その上で、2 回目のグループワークで 3 つの目標を中心としたグループや大学で実施できることのアイディアをまとめ、発表してもらい情報共有した。最後に「行動しながら学ぶことも大切」、「人に広めること」、「好きこそものの上手なれ」の 3 点を総括として講義をまとめた。

SDGs 実践講座第 7 回 講義要旨

11 月 11 日(金)

講師名: 高田 健二 島根県立大学客員教授/海士町グローバル・フロンティア大使

テーマ: うまい棒から考える「パートナーシップで目標を達成」(SDGs 目標 17)

SDGs 目標 17 は、国家間の制度改善や資金調達といったターゲットを軸としており、大学生の肩幅を超えた取り組みである。ただ、いまは大学生でも、東洋大学卒業生としてこれからの生涯をおして取り組むことはありえるため、そのために必要となる考え方(6 次の隔たり、ステューションナル・リーダー、想像力、3 つのカン等)について講義前半で取り上げた。

講義後半では、東洋大学卒業生が代表取締役社長をしている「やおきん」の代表商品である「うまい棒」を事例にして、「パートナーシップでも目標を達成」ということについて、講義前半の考え方も大いに関連して実践していることを伝えた。

2022 年 11 月時点で大学生である受講生たちは、これから平均寿命でも 60 年近くの未来があることから、これから希望のある世界観を描いて、世界の多くの課題にチャレンジして、変革をする人材になっていくことを、受講生たちに期待している。

SDGs 実践講座第 8 回 講義要旨

11 月 18 日(金)

講師名: 堀本 麻由子(文学部准教授)

テーマ: 「対話的な深い学びへのアプローチ」

本講義は、SDGs 17 ゴールに関し、「自分ごと」として理解したことを、主体的な行動として行動変容につなげる力を育むこと、さらにこれまでの授業内容を振り返りつつ、対話的なディスカッション

ンを通して、問題・課題(SDGs17 ゴール)への取り組み方を考えることをねらいとした。はじめに、「対話的なディスカッション」に関する講義を行い、その後グループ演習を実施した。各グループは17 ゴールの中で関心の近い学生同士による5名程度の編成とした。各自の問題関心を深めるため、質問中心の話し合いによる自己紹介ワークなどを活用し、グループメンバーの互いを理解することで、共通関心を探る機会とした。また最終回のグループ発表に向けて、今回のグループ演習をキックオフミーティングの場として位置付けた。

SDGs 実践講座第9回 講義要旨

11月25日(金)

講師名: 廣津 直樹(生命科学部教授)

テーマ: 見える飢餓と見えない飢餓—植物科学からの挑戦—

本講義では、SDGs の目標2「飢餓をゼロに」に焦点を中心に講義を行った。まず、世界で地域的な偏りが大きい飢餓人口の分布など世界の飢餓状況について説明した。このような食料問題の原因と解決策についてグループワークを実施し、学生からは、社会的手段としては気候変動対策やフードロス対策など、技術的手段としてはストレス耐性作物や昆虫食の普及など数多くの意見が出された。次に、ビタミンA や鉄や亜鉛などのミネラルの不足といった目に見えない飢餓“hidden hunger”の状況と今後の予測について紹介し、「”hidden hunger”の対策と予想される問題点」についてグループワークを実施した。学生からは、栄養素を増やした穀物の育種や、目に見えない栄養素についての啓蒙活動や食育の必要性などの意見が出された。様々な学部が集まる本講義では、グループワークにより様々な視点の意見が出された点が特徴的であった。最後に、文理融合の重要性や、教育を受けている者の責任として学生個人個人の第一歩の必要性について総括し、講義を締めくくった。

SDGs 実践講座第10回 講義要旨

12月2日(金)

講師名: 内田 塔子(ライフデザイン学部准教授)

テーマ: ジェンダーギャップと学校—ジェンダーギャップを解消するために自分にできることとは—

本講義では、SDGs の17の目標の中の4「質の高い教育をみんなに」と5「ジェンダー平等を実現しよう」を取り上げ、学校におけるジェンダーギャップの問題を自分事として捉えることをねらいとした。はじめに、セクシュアリティという概念や、セクシュアル・マイノリティの多様性について理解した上で、ジェンダーステレオタイプに関わる自己の体験についてグループで共有した。次に、ジェンダーステレオタイプに関する子ども意識調査の結果、ジェンダーギャップ解消に向けた国の施策や学校の取り組みを学んだ。最後に、学びを踏まえて、自分にできることについてグループで話し合い、多様な意見があることを知り、自己の考えを深める場とした。

SDGs 実践講座第 11 回 講義要旨

12 月 9 日(金)

講師名: 佐野 崇(情報連携学部講師)

テーマ: 人工知能と人間社会

SDGs 講座の第 11 回として、「人工知能と人間社会」というテーマで講義を行った。この講義では、人工知能の技術的側面だけではなく、社会への影響についても話した。非理科系の学生も聴講していることを考慮し、技術的な側面よりも、人工知能を作成、使用する際の倫理に重点をおいて、最新の話題提供を行った。

人工知能という言葉の使われ方の変遷を説明した後、ニューラルネットワークの簡単な技術的内容を紹介した。ここでごく簡単な計算の例題を提示し、実際に解いてもらうことで、講演へ集中してもらう工夫をおこなった。後半では人工知能を使う際の問題点や、倫理について話した。特に、一見高性能に見える人工知能も、人間と同じようには問題を理解していないことを指摘し、それゆえに予想できない振る舞いをすることを説明した。さらに、人工知能を作成したり利用したりする場合は作成者や利用者の責任が問われることを説明し、倫理的問題にどう向き合えばよいかの示唆を行った。講演中に、一部最新の人工知能のデモンストレーションを行うことで、学生の興味を引くことができたのではないかと考えている。

最後に学生の考えを発表してもらう機会を設けたが、介護や地方支援といった、こちらが想定した以上の内容があり、驚くとともに、私としても非常に参考になった。

SDGs 実践講座第 12 回 講義要旨

12 月 16 日(金)

講師名: アイサーチ・ジャパン

テーマ: 海の豊かさを守ろう ～イルカ・クジラの世界から見つめる SDGs～

SDGs 目標 14 番目、「海の豊かさを守ろう」について、海に起きている現状を、イルカ・クジラの生態、海洋ゴミによる被害に関することをふまえて伝えた。海洋ゴミによって、イルカやクジラの体内にプラスチックゴミが消化されずに残されてしまったり、浜辺に打ち上げられたゴミの多さを写真で見ることにより、海洋汚染の深刻さを知る。グループディスカッションでは、SDGs14 を“自分ごと”として考えられるよう、自分たちに何ができるのか、どんな取り組みをしていけば良いのかを話し合い、各グループから様々なアイデアが出された。SDGs 目標 14 番目を考えることは、その他の目標にも繋がっているということを実感し締めくくった。

SDGs 実践講座第 13 回 講義要旨

12 月 23 日(金)

講師名: 水村 容子(ライフデザイン学部教授)

テーマ: スウェーデンにコレクティブハウスにおける共食活動の運営と環境

本講義は、ヨーロッパ諸国において古くから継承される共同性の高い集合住宅「コレクティブハウ

ス」に関してスウェーデンでの取り組み事例を紹介した。「コレクティブハウス」は広義には「コ・ハウジング」とも表現される、18 世紀後半からは中～低所得階層に対して家事労働が合理化された住宅として建設が進んだ。スウェーデンでは、1970 年代以降は女性の社会進出を支える居住形態として定着し、現在スウェーデンモデルと称される家事労働分担協働モデルは、スウェーデン国内の各地に建設されている。スウェーデンモデルの特徴は、集合住宅に暮らす住民が平日の夕食の食事当番を担当し、住民皆で夕食を取るコモンミールという活動に代表される。講師が 2019 年に実施した調査では、こうした活動は住民同士の連携に大きな効果をもたらしており、単身世帯の孤独の払拭にも寄与している状況が明らかになった。またフードロスの削減や個人への経済的負担の軽減など、持続可能な居住形態として近年注目されている。

SDGs 実践講座第 14 回 講義要旨

1 月 6 日(金)

講師名：久米 功一(経済学部教授)

テーマ：日本人の働き方と働きがいとはこれからどうなるのか

SDGs 目標8「働きがいも経済成長も」をテーマとして、日本人の働き方と働きがいについて議論した。はじめに、少子高齢化が進む日本経済の課題は、多様な人材の活用と生産性の向上であることを共有した。その上で、労働市場の変化は、企業に対して、従業員とどう距離をもつか(副業やフリーランスをどう活かすか)、どう対話するか(どのような人材をどう育成するか)、信頼関係を築くか(「職場」の力をどう再生するか)を問うものであることを提示した。こうした変化の中で働きがいをもつためには、従業員のポジティブな心理状態であるワーク・エンゲイジメントの向上や自律的な行動である組織市民行動の促進が望ましいことを提示した。これらの議論を経て、30 分ほど、副業意向、能力開発、ジョブ型 vs.メンバーシップ雇用、働きがいの向上、不正告発の各テーマに関するグループディスカッションを行い、その内容を全体共有した。

XII. 終わりに

運営担当教員

小瀬 博之 (総合情報学部教授)
清水 宏 (法学部教授)
堀本 麻由子 (文学部准教授)
高山 直樹 (社会学部教授)

小瀬 博之(総合情報学部教授)

「SDGs 実践講座 —17 ゴールへの第一歩—」をサブタイトルとした全学部を対象とした総合科目であり、ディスカッションを中心に据え、志望理由を事前に提出してもらったことにより、SDGs の達成と実践に対して意欲の高い学生が多数履修できたと思う。また、SDGs 学生アンバサダーなどのすでに実践活動をしている学生の刺激もあって、履修者全体が学習到達目標にある『SDGs の理念と具体的な取り組みを「自分ごと」として理解する力』と『自分ごと』として理解したことを、主体的な行動として行動変容につなげる力』をおおむね身につけることができたと思う。授業運営の課題としては、ディスカッションを中心に据えたことにより、講義の時間と情報がかなり限定されてしまった。また、学部横断のグループを作ることは有意義であるが、非対面の学生はかなり情報量が限られてしまっているとレポートを見て感じた。次年度はこれらのことについて改善の余地がある。

清水 宏 (法学部教授)

本講座は、実践を謳っているところ、最終レポート等では、日々の生活において、本学の SDGs アンバサダーとして、あるいは、学内または外部の様々な団体においてSDGsの理念の実践に取り組んでいる旨が報告された。社会および大学がポスト・コロナへと完全には移行できていないことを考えると、大きな成果であると評価できよう。もっとも、今後コロナ以前の状態に戻った場合に、今以上の実践活動に従事できるように環境を整備していくことを考えておくべきではないかと思われる。身近に実践活動をしている人がいる者、自らがリーダーとして実践活動を立ち上げることのできる者がいる一方で、そうではない者もいるため、後者に属する者が円滑に実践活動に従事できるようにする道筋をつけておくことが、この講座の設置の趣旨に適うものであると思われる。そして、将来的には、そうして実践活動に従事している者が、講座の講師あるいはアドバイザー等としてフィードバックを行うようになれば、なおよいものと思われる。

堀本 麻由子(文学部准教授)

学修到達目標の 4 項目は、おおむね達成できたと考えている。受講生は、「自分ごと」として理解したことを、主体的な行動として行動変容につなげることができていた。SDGs の 17 項目を知識として理解するだけでなく、学生自身が、様々なアクションプランを考え、実践していることが、最終回のグループ発表や最終レポートの中で述べられていた。

本講座の成果は、学内外における様々な専門分野における講師陣の充実した講義だけでなく、講座の流れとして、学生が同じ問題意識をもつ「仲間」と議論し、共に行動を考える仕組みができていたことによる。また、運営担当教職員による打ち合わせを何度か実施し、講座のねらいや課題を共有したうえで、講座運営ができたことも要因としてあげられる。

一方で、本講座だけでなく、講座終了後の積極的な社会活動を学生に促す仕組みの構築という課題は残った。しかし、オンライン環境を活用したキャンパス間をつなぐ新しい講座のあり方を探究できた点は、グループ演習を含んだ全学講座のモデルになるのではないかと考える。

高山 直樹（社会学部教授）

「SDGs 実践講座 —17 ゴールへの第一歩—」の授業は、SDGsを「我がこと」としてとらえていくことを目的として、発信につなげていく方向性をつくることであった。その目的は概ね達成できたことは、学生のプレゼンテーションやレポートから認識できた。

持続可能な開発目標(SDGs)とは、すべての人々にとってよりよい、持続可能な未来を築くための青写真であり、価値である。貧困や不平等、気候変動、環境問題、平和と公正など、どれをとっても「その通り」の事象である。しかし「我がこと」としてとらえてみようとするところには、大きな乖離があったり、また無意識の偏見(Unconscious bias)があるのではないか。その内在する矛盾に関して葛藤し、対話していく必要がある。そのためには、対話する仲間が必要不可欠である。その対話づくりの起点となり、「我がこと」をより深化させ、仲間を拡げ、17 ゴールへの第一歩から第二歩を、踏み出すことに至った授業となったと考える。

以上

※SDGs 実践講座 最終レポートについては、社会貢献センターホームページにて掲載いたします。

XII. 受講前・受講後アンケート結果

運営担当教員からのメッセージ（法学部 清水教授）
～受講前・受講後 アンケートから～

講座の受講を通じて、SDGsの目標全体に対する理解が促進されているとともに、関心ある目標がメジャーなものから、本当に自分が興味を抱いたものへと変化していることが見て取れます。
その上で、最も重要な事として、目標の実現に向けた実践を計画しているさらには、それに着手している者が増加しています。この講座は、単なる知識の習得に終わるのではなく、実践できる人財の養成をも目標として掲げていたのであり、その文脈では、大いに目標を達成できているものと考えられます。
さらに、各自が単独で活動するのではなく、お互いに協力し合い、仲間をつくって活動していることから、SDGs実践のための活動が組織化され、より実効的なものとなることが期待されます。
このように、本講座は、本学における学生によるSDGs活動の促進に大きく寄与しており、今後さらに活動の輪が広がっていくことを願っております。

★SDGs実践講座 受講前/受講後アンケート結果
回答者数：受講前 31名 受講後 27名

1.1 SDGsの項目をいくつ知っていますか。

受講前

| 知っている目標の個数 | 回答 |
|------------|----|
| 3 | 2 |
| 4 | 3 |
| 5 | 7 |
| 6 | 2 |
| 7 | 3 |
| 8 | 3 |
| 10 | 2 |
| 12 | 1 |
| 17 | 8 |
| 31 | |

受講後

| 知っている目標の個数 | 回答 |
|------------|----|
| 5 | 2 |
| 6 | 2 |
| 10 | 1 |
| 11 | 1 |
| 14 | 1 |
| 17 | 20 |
| 27 | |

1.2 SDGsの目標のうち、現在あなたが最も関心を持っているものを一つ上げてください。

受講前

| 最も関心を持つ目標 | 回答 |
|------------------------|----|
| 1: 貧困をなくそう | 1 |
| 2: 飢餓をゼロに | 2 |
| 4: 質の高い教育をみんなに | 2 |
| 5: ジェンダー平等を実現しよう | 8 |
| 7: エネルギーをみんなに そしてクリーンに | 1 |
| 8: 働きがいも経済成長も | 3 |
| 11: 住み続けられるまちづくりを | 3 |
| 12: つくる責任つかう責任 | 5 |
| 13: 気候変動に具体的な対策を | 1 |
| 14: 海の豊かさを守ろう | 5 |
| 31 | |

受講後

| 最も関心を持つ目標 | 回答 |
|-----------------------|----|
| 2: 飢餓をゼロに | 2 |
| 4: 質の高い教育をみんなに | 1 |
| 5: ジェンダー平等を実現しよう | 3 |
| 6: 安全な水とトイレを世界中に | 3 |
| 8: 働きがいも経済成長も | 1 |
| 11: 住み続けられるまちづくりを | 3 |
| 12: つくる責任つかう責任 | 4 |
| 14: 海の豊かさを守ろう | 6 |
| 17: パートナーシップで目標を達成しよう | 4 |
| 27 | |

1.3 あなたは、設問2で挙げた目標の実現に向けて、何かを実践しようと計画していますか。

受講前

| (していない)1←3—5→7(している) | 回答 |
|----------------------|----|
| 1 | 12 |
| 2 | 1 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 10 |
| 7 | 1 |
| 31 | |

受講後

| (していない)1←3—5→7(している) | 回答 |
|----------------------|----|
| 1 | 2 |
| 3 | 1 |
| 4 | 5 |
| 5 | 10 |
| 6 | 1 |
| 7 | 8 |
| 27 | |

1.4 あなたは、設問2で挙げた目標の実現に向けて、既に計画の実践の段階に入っていますか。

受講前

| (していない)1←3—5→7(している) | 回答 |
|----------------------|----|
| 1 | 14 |
| 2 | 4 |
| 3 | 5 |
| 4 | 3 |
| 5 | 4 |
| 7 | 1 |
| 31 | |

受講後

| (していない)1←3—5→7(している) | 回答 |
|----------------------|----|
| 1 | 2 |
| 2 | 2 |
| 3 | 5 |
| 4 | 2 |
| 5 | 9 |
| 6 | 4 |
| 7 | 3 |
| 27 | |

1.5 設問3と4のいずれかでSDGsの目標実現に向けた実践を計画している、または、既に実践段階に入っていると回答した人（5～7のいずれかを選択した人）は、具体的に、どのようなことを実践しようと、あるいは、既に実践していますか。自由に記述してください。

受講前

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsアンバサダーとして企画を検討していたり、その活動に参加していたりする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県茅ヶ崎市と湯河原町で居場所づくりのボランティアに関わり、その地域の人々が安心して過ごせるようなまちづくりに関わっている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・これからの計画は未定なのですが、過去にインターンで、オンラインで中高生に学びを届けるという仕事をしていました。オンライン会議ツールを使用して、全国の中高生がプレゼンやデザイン、イベント企画などの方法について学ぶプログラムの運営に関わっていました。時にプログラムの講師をすることもありました。無償かつオンラインでの実施なので、デザインなどを学ぶ場所が身近にないなどの教育環境に恵まれていない地方の子どもや、有料で学ぶのは難しいという子どもにも学びを届けることができたことから、「質の高い教育を『みんな』に」という目標の達成に近づくことができているのではないかと考えます。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロス削減の為に家庭で出来る事として、賞味期限の近い調味料や食材から使用し、出来るだけ廃棄を無くす取り組みをおこなっている。また料理をする際に、普段捨ててしまう野菜の茎など、アレンジをして食べる事を心がけている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題に関わるボランティア活動に積極的に参加しようと計画していて、最近だと清掃ボランティアに参加しました。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスを減らすべく、食べ残しはしないようにしている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに興味関心のある団体や法人だけでなく個人や学生で単発の地域密着清掃活動や広告を出せると面白そうだと考えた。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・個人的な小さな取り組みにはなってしまうが、ご飯を残さず食べたり、文具を最後まで使い切ったりしている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・これからになってしまうが民間などの団体の活動などに参加したいと思っている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「質の高い教育をみんなに」という目標に対する取り組みとして、東洋大学は誇らしい実績を誇っていますが、私もその東洋大学の学生としてできることはないか模索中です。今日、小中学生の放課後や長期休暇のあり方が変化し、親や家族に宿題や勉強を見てもらえなかったり、不登校等で学校へ行く意欲を失ってしまうケースが見受けられると聞きます。そこで、勉学に勤しむという点で共通点がある我々大学生が行うサポートボランティアに参加し、ゆくゆくは地元でそういった団体を設立してみたいと考えています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりについて学ぶため、いろいろな街や施設を巡っている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・いま参加しているビジコンで、食品ロスの問題にフォーカスして生産者、販売者、消費者が情報できる場を提供するアプリの制作をしている。例えば販売者側が、消費期限が近くて割引になっている商品があることを消費者側に伝えるなど。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・春学期の授業でゴミ箱の位置情報やゴミの蓄積量を把握し、管理するシステムについてのRFPを作成した。このシステムは、管理者はゴミ回収を効率よく行え、利用者はいつでもごみを捨てられる、という利便性だけでなく、SDGsの達成にもつながる。このような人にも地球にも優しいシステムを作成してみたいと考えている。 |

受講後

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・性別に対する偏見や差別的な言葉を言わない。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・これから、SDGsアンバサダーに応募しようと考えている。そこで、ジェンダー平等としての案を上げようかと考えている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・飲料水を買わないことを実践しています。また、SDGs14とは関係ないですが、お手洗いを使用した後に便座の蓋をしてから流すことも徹底しています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・パートナーシップを確立するためのワークショップや組織活動の実践(SDGsアンバサダー内での) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsアンバサダーとして、メンバーのSDGsに対してどのように取り組めばよいか、好きなこととSDGsをつなぎ合わせて考えるワークショップを企画し、実行に移している。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提案したウォーターサーバーの件と、海岸の清掃活動 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・つくる側の責任として産業廃棄物を少しでも減らすために、アルバイト先のアップルパイ専門店で、形の悪いパイを焼かずに廃棄していたが、それらを焼いて割引で販売してはどうかと社員に提案した。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・海で問題となっている海洋プラスチックを減らすために、ペットボトル消費量削減、そしてマイボトルを推進することができるウォーターサーバー設置を実行することを計画しようとしている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスをなるべく出さない。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルの使用を避けること、不要な服を捨てないこと |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーターサーバー(注ぐタイプ)の設置 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・アンバサダーに入って今回学んだことを実践したい |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本当に身近なことから始めています。例えば、シャワーに入る時は、なるべく節水を心がけたり、石鹸を使うようにしています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大学に設置されている給水機をマイボトルへの詰め替え専用で使用再開する案や、衛生面を考慮しウォーターサーバーを新たに設置してもらう案をグループで要望書にまとめ、提案しました。マイボトルの持参を普及させることでプラゴミの削減を目指すねらいがあります。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスに気を付けるために計画的に買い物をし、食べ残しは持ち帰って食べるなどしている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsアンバサダーへの志願を計画中である。また、「SDG-6:安全な水とトイレを世界中に」に合わせ、特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン(認定NPO)のウォーターエイド・スピーカークラブにも参加し、水の問題をパートナーシップで考えるきっかけを作り広めていくことも計画している。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・近い内容の活動や研修に参加する |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ごみを出さないようにマイボトルやマイバックを持ち歩くようになった。また、普段の生活で最低限以上のごみを出さないように心がけるようになった。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ拾いのボランティア活動に参加する |
| <ul style="list-style-type: none"> ・100円均一などの安くてもろい物を使い捨てるのではなく、良いものを長く使う。 |

1.6 あなたには、SDGsの目標のうち、設問2で挙げたもの以外にも、大きな関心を抱いているものがいくつかありますか。個数を選択してください。(選択必須)

受講前

| 設問2で挙げたもの以外に関心を抱く目標の個数 | 回答 |
|------------------------|----|
| 1 | 3 |
| 2 | 5 |
| 3 | 5 |
| 4 | 6 |
| 5 | 5 |
| 6 | 2 |
| 7 | 2 |
| 16 | 2 |
| 特になし | 1 |
| 31 | |

受講後

| 設問2で挙げたもの以外に関心を抱く目標の個数 | 回答 |
|------------------------|----|
| 2 | 10 |
| 3 | 5 |
| 4 | 1 |
| 6 | 1 |
| 7 | 1 |
| 9 | 1 |
| 11 | 2 |
| 12 | 1 |
| 13 | 1 |
| 16 | 2 |
| 特になし | 2 |
| 27 | |

1.7 設問6でひとつでも「ある」と回答した方に尋ねます。設問2で挙げたものと設問6で挙げたものを、あなたなりに関連付けて考えていますか。(考えていない)1←3→5→7(考えている)

受講前

| (考えていない)1←3→5→7(考えている) | 回答 |
|------------------------|----|
| 1 | 2 |
| 2 | 2 |
| 3 | 10 |
| 4 | 6 |
| 5 | 6 |
| 6 | 1 |
| 7 | 4 |
| 31 | |

受講後

| (考えていない)1←3→5→7(考えている) | 回答 |
|------------------------|----|
| 1 | 0 |
| 2 | 1 |
| 3 | 3 |
| 4 | 5 |
| 5 | 6 |
| 6 | 2 |
| 7 | 8 |
| 25 | |

1.8 あなたは、SDGsの目標のうち設問2で挙げたものについて、自分の考えを社会に強く発信していますか。(発信していない)1←3→5→7(発信している)(選択必須)

受講前

| (発信していない)1←3→5→7(発信している) | 回答 |
|--------------------------|----|
| 1 | 19 |
| 2 | 2 |
| 3 | 4 |
| 4 | 2 |
| 5 | 2 |
| 6 | 1 |
| 7 | 1 |
| 31 | |

受講後

| (発信していない)1←3→5→7(発信している) | 回答 |
|--------------------------|----|
| 1 | 5 |
| 2 | 4 |
| 3 | 8 |
| 4 | 5 |
| 5 | 1 |
| 6 | 2 |
| 7 | 2 |
| 27 | |

1.9 設問7で、SDGsの目標のうち設問2で挙げたものについて、自分の考えを社会に強く発信していると回答した人(5～7のいずれかを選択した人)は、具体的に、どのようなことを発信しようと、あるいは、既に発信していますか。自由に記述してください。

受講前

・ジェンダーレスの映画やドラマなどをSNSを使って発信している。
 例えば、BLなど。個人的にそのようなストーリーが好きなので色々見たり、友人におすすめしている。
 ・ボランティア支援室のサポートスタッフとして、イベントの運営に関わり、他学生にSDGsの活動を広めている。
 ・「きっかけ格差」を問題だと感じていて、卒業論文(研究)のテーマにもしています。具体的には、子どもの教育や体験、人との出会いなど、子どもに関する様々な「きっかけ」や「機会」が、生まれ育った地域や環境、災害などによって左右されてしまうことに問題意識を持っています。発信の仕方としては、自分の考えをまとめた卒業論文を執筆したり、インターンやボランティア活動などで出会った大人に自分の考えについて話したりしてきました。自分の考えを発信して何かを変えたりすることはできていませんが、このような自分の意見を人に伝えることで、キャリア教育に関するボランティアの機会をいただくこともでき、社会貢献や経験を積むことができたので、やはり自分の考えややりたいことを発信することは非常に重要だと感じています。
 ・SNSを活用してイベント活動やボランティア日常のSDGsを動画や写真形式にして頻りに投稿している。
 ・私は現状としてはこれとして行なっていることはありませんが、これから「4:質の高い教育をみんなに」については設問5にあるようにボランティア等に参加したり、本講座を受講する上で気づいたことを踏まえ、ブログやSNS等を正しく活用する上で社会に発信したり、市民意見交換ワークショップ等に参加した際に行政や民間団体、企業に対してアピールしたいと考えています。

受講後

・SNSを通じて、自分が読んだSDGsに関する記事をそこに張って、自分の意見を載せている。
 ・SDGsの達成のためにはパートナーシップの構築が必要不可欠であることを広め、実際に自分自身が人、もの、ことをつなげる役割を担うこと。例えば、ボランティア支援室サポートスタッフとして、南三陸ツアーなどのボランティアを企画し、他学生に魅力を伝える活動や、個人的な活動拠点である湯河原の居場所づくりや単発のボランティアを友人を誘って一緒に参加するというをやっている。
 ・アルバイト先の社員とどうしたら少しでも産業廃棄物を減らせるか話し合うようになった。今後は就職先で食品ロスを減らす為の工夫を提案したり、過剰包装を控える、使い切りサイズでの販売の検討など自ら根拠を持って提案していきたいと考えている。
 ・これから開始することになるが、SDGsアンバサダー、ウォーターエイド・スピーカークラブともにSDG-17を意識して周囲に発信すべく活動を計画しているものである。特にSDGsの達成のためには自分ごととして受け止め、アクションし、周りに広げていくというフローを各ステークホルダーで繋げていき、強力なパートナーシップを構築することが必要不可欠であることは間違いないと考えている。その中で、SDG-17やパートナーシップの持つ意味合いはどのようなものかという点を特に強く発信していきたいと考えている。
 ・自分自身が得た知識をわかりやすく発信する。
 例:セクシャリティやジェンダーはグラデーションである。アセクシュアルについて。

1.10 あなたは、SDGsの目標の実践が社会をより良いものにすると思っていますか。
 (思っていない) 1←3—5→7(思っている) (選択必須)

受講前

| (思っていない)1←3—5→7(思っている) | 件数 |
|------------------------|----|
| 1 | 0 |
| 2 | 0 |
| 3 | 3 |
| 4 | 6 |
| 5 | 8 |
| 6 | 5 |
| 7 | 9 |
| | 31 |

受講後

| (思っていない)1←3—5→7(思っている) | 件数 |
|------------------------|----|
| 1 | 0 |
| 2 | 0 |
| 3 | 0 |
| 4 | 6 |
| 5 | 4 |
| 6 | 3 |
| 7 | 14 |
| | 27 |

1.11 あなたは、SDGsの目標の実践があなた自身を成長させるとしていますか。
 (思っていない) 1←3—5→7(思っている) (選択必須)

受講前

| (思っていない)1←3—5→7(思っている) | 回答 |
|------------------------|----|
| 1 | 0 |
| 2 | 1 |
| 3 | 2 |
| 4 | 3 |
| 5 | 10 |
| 6 | 3 |
| 7 | 12 |
| | 31 |

受講後

| (思っていない)1←3—5→7(思っている) | 回答 |
|------------------------|----|
| 1 | 0 |
| 2 | 0 |
| 3 | 1 |
| 4 | 3 |
| 5 | 7 |
| 6 | 3 |
| 7 | 13 |
| | 27 |

1.12 設問11で、SDGsの目標の実践があなた自身を成長させると回答した人(5~7のいずれかを選択した人)は、具体的に、どのような点で成長できるとお考えですか。自由に記述してください。

受講前

- ・SDGsの目標達成のために、一つ一つのことをひとつごとではなく、自分のこととして捉え、自分自身が社会に貢献し、未来をすることができるという点で、成長にもつながると思う。
- ・SDGsで出てきた問題が明確になり、影になっていた大きな問題に焦点を当てられる。それがその問題で悪影響を受けている人が助かるかもしれない可能性があることに大きな意味を持つと考える。さらに自分がそれを知ることによって情報を発信して世界の人と解決策を作れるかもしれない。さらに今まで考えてこなかった考え方が出てくる。これが自分の思考の視野が広がると思う。
- ・問題意識を持って課題解決に取り組む活動をすれば、目標を達成するために試行錯誤するので思考力や行動力、能動的に動く力がつくと思います。
- ・SDGsの目標に自ら取り組むことで、社会問題の解決に貢献してる感覚を持つようになり、自信を持てるようになる。
- ・社会への関心を絶やさないとという点において、大学生活から始められるので、成長できているのではないのでしょうか。
- ・今まで気にしていなかったことに意識が向く為、物事の視野が広がると思いました。また、新たな発見や学びをすることで、自分が今できることにより正確に向き合え、社会問題の貢献に取り組めると思いました。
- ・これまで行ってきた自分自身の活動は、「SDGsの目標を達成したい」というような大きな思いからではなく、自分の純粋な「やってみよう」「面白そう」という思いから行ってきましたが、自分の知見が広がった点やコミュニケーション能力が高まった点、人脈が広がった点などから成長できたと思っています。また今後も活動を継続することで、成長し続けられると思っています。
- ・SDGsの目標実践を心がける事によって、身近な生活だけでなく、広く社会問題や環境問題にまで視野を広げることが出来、思考の幅が広がるという点で成長出来ると考えている。更に就職した際にSDGsの知識と活動経験を活かす事で、消費者だけでなく環境へなど、多方面にメリットのある商品開発のように、これまで自分自身が持ち得なかった新たな視点でアイデアを発揮出来る可能性があると考えている。

| |
|---|
| <p>・まず、自国の社会状況を客観的に見る力がつくと思う。深く考えずに過ごしていても、時より違和感を感じる問題がSDGsの17の目標には織り込まれていると感じる。水を出しっぱなしで手指を洗っている人を見ると、世界では飲み水すら満足に確保できない人もいるのに、とったりする。そういった身近に感じているのに、解決できていない事案が詰まっているSDGsの目標を知り、解決策を模索していくことが自身の成長につながると思う。</p> |
| <p>・世界全体で関わっている問題を自分ごととして考え、行動していく点で成長できると思います。</p> |
| <p>・SDGsについて知ることは、社会について知ることで考えている。17のゴールに社会が解決しなければならない、考えていかなければならない問題が集まっているからだ。それらの問題について考えることで、社会の一員として自分がやらなければならないことが見えてくると思うので、それは成長につながると思う。</p> |
| <p>・国際社会への理解を深め、国際理解力の向上につながると思う。</p> |
| <p>・現状から課題を見つけ、改善しようと考え、学ぶことは私自身の成長につながる十分なきっかけになると考えている。</p> |
| <p>・SDGsは17個の目標に大きく分けることができるが、世の中で起きていることの因果関係を探っていくと、複数のGoalを融合していることがほとんどだと感じている。 世の中の問題を解決するためには広い視野から考えることが必要不可欠であると考え。そのため、SDGsの目標の実践に取り組むことでその結果の良し悪しはさておき、社会に出て本格的に問題を解決する側に立った際に必要になる、様々な観点から物事を考える力を十分に鍛えることが可能であると考え。</p> |
| <p>・自分の将来の目標であるインフラ関係の職業にSDGsは深いかかわりを持っているため、実践経験を得ることで社会人になった際にその知識と経験を活かせると思った。</p> |
| <p>・SDGsの実態や、その活動に対して、自分自身がどう社会と向き合っていくべきかを考えられる力を付けられるのではないかと考えています。</p> |
| <p>・自分も社会の一員であるという意識を持ち行動に移すことで、周りに目を向けられる人間になると思います。</p> |
| <p>・SDGsの目標を知るだけでも、日常生活の中で気に留めることが多くなり、その気付きや関心が行動に繋がると思います。</p> |
| <p>・何か目標を決めてそれに向けて実践することは、成功or失敗に関わらず、良い経験になると思ったから。また、実践するためにはそれまでの思考の過程があると思うので、それがまた、身の回りの様々なことを考え直す良いきっかけになると思うから。</p> |
| <p>・SDGsにおける目標を実践するには、現状として起こっている諸問題を的確に認識し、考察し、意見交換やワークを通じて行動のベースを作るという一連のフローが不可欠だと思います。その過程で認識力、言語力、考察力、行動力の増強に繋がるとは思っています。</p> |
| <p>さまざまな考えを取り入れることができる</p> |
| <p>・実際に自分たちで考えてSDGsの目標の実践をすることで、受け身だけの時は気づかなかった新たな発見があると思うから。</p> |
| <p>・世界各国でどのようなことが問題なのか学ぶことで世界の状況を知り、その問題に対して日常生活で意識することができると思ったからです。</p> |
| <p>・地球や、社会全体の問題について考えることで、本当に自分のやりたいことや、自分の意思を再確認することができると思うから。</p> |
| <p>・環境問題や、平等などの問題はまずはその問題に対する知識を得ることが必要であり、その知識を行動に移すことで自分化して考えることができると考えています。自分化して考えることで自分自身の在り方を考えることができるのではないかと考えています。</p> |

受講後

| |
|--|
| <p>・SDGsの目標はどれも容易に達成できるものではないからこそ、努力が必要。そして、それは1人だけの努力ではなく、社会全体で協力し動き出す必要があるため、自分がSDGsに対する行動によって、四苦八苦しながらも、変化をもたらせた時、成長が実感できると思う。</p> |
| <p>・普段生きている中で、深くかかわらないものであるから。なので、授業を受けたことで、SDGsに対する理解度も上がり、より社会をよりよくするためにどうしたらよいか考えるようになったから。</p> |
| <p>・SDGsについて学ぶことで知識を得られる点、同じ志を持っている人同士で集まってイベントに参加したり企画したりすることで新たな知見や発見を得られる点。</p> |
| <p>・目標を何かに向かって行動できるということ。SDGsは目的ではなく、手段であり、そのコミュニケーションツールとを使いながら、いかに社会に貢献できるかを考えられるようになった。</p> |
| <p>・SDGsを実践することで、自身の人生の充実感につながると思う。先日アイサーチの講師の方の講義を受けた後、その団体が主催するピーチクリンのボランティアに参加した際に、人との交流があることが実践の大きな魅力だと感じた。そこからさらに別のボランティアと一緒に参加してみようなど輪が次第に大きくなり、SDGsの達成だけではなく、自身の充実感も満たされていくのを感じることができた。</p> |
| <p>・学生のうちから考えておくことで、将来の行動変容につながるという点</p> |
| <p>・社会問題を自分事に捉え、自身からできることを自ら進んで始めるようになる。</p> |
| <p>・「質の高い教育をみんなに」という目標に関連して私がこれまで行ってきたことは、教育系NPOでのインターンや海外の子どもたちに学びを届ける海外研修である。これらの実践を通じて、主に3点で成長できた。1点目に日本や海外の子どもたちがどのような学習状況なのか、どのような子どもたちなのかを知ることができたことである。2点目に多様な子どもたちと関わる中でコミュニケーション能力が向上したことである。3点目に、どのようなアクションでも共通するが、自らの意思で挑戦して「うまくいった」「挑戦して良かった」という成功体験を積めたことである。</p> |
| <p>・SDGsの目標の実践をする事でこの社会で生きる人間としての責任をもてるようになり、なんとなく生きる状態から脱し、自ら考える力、人に伝える為に言語化する力、行動力などが養う事が出来ると思う。</p> |
| <p>・日本や世界の現状を知り、改善案などを考える力がつく点。</p> |
| <p>・SDGsの問題を自分ごととして考え、取り組むことで自分の考え方やSDGsの活動を通して知り合った仲間とパートナーシップを築くことができる点で成長できると思う。</p> |
| <p>・地球にやさしい生活がおくれるようになること。</p> |

- ・平和で不自由も無く、安全・安心に暮らせる日本で生活しているだけだと気付けない多くの問題が世界には沢山あるということ、日本のような国の方が世界全体でみると少ないということを改めて知ることができる。また、どうすればそのような問題を解決できるか考えるきっかけに繋がり、実行することで社会をより良く、自身も成長できると考える。
- ・より良い社会づくりを目指すために11は必要不可欠であるから
- ・地球にやさしい生活を自分なりに実行していくことで、後々無駄のない生活ができるようになってきたから。
- ・SDGsの目標達成のために周りの人と協力して取り組むことで協調性や主体性を身につけることができると考えています。
- ・SDGsに対するアクションには複雑な課題を的確に洗い出し、考察して行動を起こすことが必要不可欠である。そのためまず課題発見力、考察力、行動力といった点が成長すると思う。また、考えや行動を周りに広めていこうとする発信力、パートナーシップを持って課題に取り組むパートナーシップ力の成長も期待できると考えている。そしてなにより、SDGsの達成のために必要なパートナーシップやアクションの根源として重要な、何事も自分と関連付けて捉える「自分ごと」の意識の成長が期待できると考えている。
- ・消費するだけの現状を変えようとする中で、社会の一員としての自覚を芽生え、先のことまで見通す力を養うことができると考えるため。
- ・SDGsの目標達成のために行動することで、課題解決のために自分で考える力や、実行力、広い視野をもって物事を見れるようになると思う。
- ・世界の問題を知ることで世界への関心につながり、自分が恵まれていることの大切さを知ることが出来る。実施することで、行動力向上にも繋がる。
- ・自分勝手に行動するのではなく、社会を考えて環境に良いものを選ぶことでより環境について考えるようになる。
- ・多くの人の価値観を学ぶことができ、それに感銘を受けたりして自分の心も豊かにできると考えいる。

1.13 あなたは、SDGsの目標の実践を通じ、仲間たちと連携しながら社会に貢献しようと考えていますか。
(考えていない) 1←3—5→7 (考えている) (選択必須)

受講前

| (考えていない) 1←3—5→7 (考えている) | 回答 |
|--------------------------|----|
| 1 | 0 |
| 2 | 1 |
| 3 | 3 |
| 4 | 7 |
| 5 | 9 |
| 6 | 5 |
| 7 | 6 |
| 31 | |

受講後

| (考えていない) 1←3—5→7 (考えている) | 回答 |
|--------------------------|----|
| 1 | 0 |
| 2 | 1 |
| 3 | 1 |
| 4 | 5 |
| 5 | 6 |
| 6 | 6 |
| 7 | 8 |
| 27 | |

1.14 あなたは、SDGsの目標の実践に際して、仲間たちと連携しながら社会に貢献していますか。
(していない) 1←3—5→7 (している) (選択必須)

受講前

| (していない) 1←3—5→7 (している) | 回答 |
|------------------------|----|
| 1 | 10 |
| 2 | 10 |
| 3 | 3 |
| 4 | 2 |
| 5 | 2 |
| 6 | 2 |
| 7 | 2 |
| 31 | |

受講後

| (していない) 1←3—5→7 (している) | 回答 |
|------------------------|----|
| 1 | 2 |
| 2 | 2 |
| 3 | 7 |
| 4 | 4 |
| 5 | 9 |
| 6 | 0 |
| 7 | 3 |
| 27 | |

1.15 設問13と14のいずれかで、SDGsの目標の実践を通じ、仲間たちと連携しながら社会に貢献しようとしている、あるいは、既に貢献していると回答した人(5～7のいずれかを選択した人)は、具体的に、どのような貢献をしようと、あるいは、既に貢献をしていますか。自由に記述してください。

受講前

- ・差別問題について仲間と議論し、そこで出たユニークな着眼点を世の中に発信し、より多くの人がある問題を知ることによって差別というものがあることが社会に伝わる。直接差別問題に大きな影響を与えることは難しいが、一人でも多くの人がこの問題に気づくことで今までとは違う思考を持ち、行動できるのではないかと考える。
- ・SDGsに関連したアプリを作るビジネスコンテストに参加しています。まだ考えはまとまっていますが10月下旬に選考がある予定です。
- ・SDGsアンバサダーとして企画の参画のみならず、実際外部と連携したフィリピンの若者とSDGsアクションに学生リーダーとして関わらせてもらったりしている。海外と連携してSDGsを考える活動も経験している。確実に歩み始めている。
- ・自分1人でできるような課題であっても、あえて仲間を巻き込んだり、仕事を任せたりすることで、周りの人が少しでもSDGsに関心を持てるように意識している。
- ・大学の企画のフィリピンボランティアで学んだことを、友達に話したりしたことで、学びに貢献した。
- ・例えば、海のゴミ拾いを実際に自分達の手で取り組み、そこから学べることを次にどのように発展、繋げられるか考え合い、まだ知らない人に発信出来るようにしたい。
- ・SDGsとも関連しているボランティア活動を通じて、仲間たちとともに社会貢献ができていると考えています。ボランティア活動は所属しているサークルの活動やボランティア支援室が実施している活動に参加してきました。これまでの活動としては、お祭りの運営ボランティア、プレーパークの運営ボランティア、ゴミ拾い、キャンパスツアーのガイドなどを行ってきました。お祭りやプレーパークの運営ボランティアは、「11:住み続けられるまちづくりを」に関連する活動だと考えています。また、プレーパークは遊びを通じて子どもたちの自主性や冒険心を伸ばしたり、大人と出会い肯定してもらおうという経験をする中で自己肯定感を高めたりすることができる場所なので、そういった意味で「4:質の高い教育をみんなに」にも繋がる場所があるのではないかと考えます。ゴミ拾いは、「11:住み続けられるまちづくりを」「14:海の豊かさを守ろう」「15:陸の豊かさを守ろう」などに繋がる活動だと考え、公園や河川敷でのゴミ拾いを実施してきました。高校生向けキャンパスツアーのガイドも「4:質の高い教育をみんなに」と関連する活動だと考えます。

| |
|---|
| <p>・私はジェンダー平等に興味があるので、不平等な扱いを受けることなく生きていける社会づくりに貢献したいと考えている。現在LGBTGの人々は肩身の狭い思いをして、生活に不便もあると思う。また女性は家庭に入り男性が仕事に向く、社会的風潮があまりにも定着し過ぎているため、性別役割分業が進んでいるのも、私は違和感を感じる。そういった自分の中にある感覚や感じていることを元に貢献できることを探していきたいと思っている。</p> |
| <p>・SDGsの目標の達成に少しでも関わる貢献をしたいと考えています。</p> |
| <p>・NPO法人チームクジラ号さんの深海のプラスチックごみについての小学生向けのイベントがあり、そのお手伝いに行った際、実験中の子供の『なぜ?』に対し一緒に考え学び時にアドバイスを送ることができ今後SDGsを学び始める子供たちに少しでも楽しんでもらえたのではないかと考えているため既に貢献できたといえる。</p> |
| <p>・この講座に参加しているからには、「SDGsの目標の実践を通じ、仲間たちと連携しながら社会に貢献しようとしている」のスタート地点には立てており、実際に個人で心掛けていることもあるため、貢献しようとしていると言えると思う。</p> <p>・しかし、具体的に貢献していることが自信をもって言えることがないため、説明でもあったように今後SDGsに関連するイベントに参加していきたい。</p> |
| <p>・やっぱり一人だと自分に何ができるかわからないし、同じようにSDGsに興味を持っている人たちと意見の交換とかしながら活動できたらいいなと思います。</p> |
| <p>・高校3年生の夏休みにボランティアプラットフォームという団体のオンラインSDGs研修に参加して、SDGsの17の目標1つ1つについて学び、自分に何ができるのかを考えました。また、オンライン上でカンボジアの子どもと話したり、日本語や日本の文化を教えました。</p> |
| <p>・現時点では、これといった実践は思いつかないが、せっかくこの講義を受講したからには、グループで意見を出し合い、数ある目標の中から何をどのように取り組んでいくのが良いかを熟考した後に実践していきたい。</p> |
| <p>・知識がない中でSDGsの目標の実践のための行動を行うことは難しいので、大学生が参加できる様々なボランティアに参加し、実際に行動を起こす上で知識を得たいと考えています。</p> |
| <p>・1人では成し遂げられないことなので、関心のある人と一緒に取り組みたい。</p> |
| <p>・いま参加しているビジコンのチームで開発途中のアプリが実際に世間で活用される日が来れば、食品ロス問題を少しでも良い方向へと前進させ、社会に貢献できると思う。</p> |
| <p>・SDGsに関するボランティア活動などに積極的に参加して、社会に貢献したいです。</p> |

受講後

| |
|--|
| <p>・SDGsについて、この講義で学んだことや知ることのできた現状を他者に伝えたり、発信すること。そして、その課題に向かって、自分達にできることを実行する。</p> |
| <p>・SDGsアンバサダーになって主体的に目標実践に携わりたいです。</p> |
| <p>・まだまだ未熟ではあるが、自分だけではなく、仲間のSDGsに対する取り組みも応援し、サポートし、実践に向かって一緒に取り組んでいくことを大切にすることで十分の意味があると思う。</p> |
| <p>・ボランティアやワークショップなどを通して、一度つながった人とその場限りで終わらせないようにすることを意識し実践している。一度知り合った人とは連絡を取り続け、相手に自分の名前を覚えてもらえるようにして、自分からも次のボランティアなどのイベントに誘うようにしている。私の場合、湯河原での活動をSDGsアンバサダーやその他の団体、個人に向けて、知り合った人に紹介し、魅力を発信し続けている。</p> |
| <p>・授業内で提案した要望書の提出など、給水機の件で大学に提案をしたことは一種の社会貢献なのではないかと考えています。</p> |
| <p>・海岸のゴミ拾い、フードバンク、リサイクルショップに使わなくなった物を出す</p> |
| <p>・4月から小売業の会社に勤めるため、仲間(同僚)と連携して、地域のお客様の生活を支えていくという点で社会貢献をしていきたいと考えている。</p> |
| <p>・アルバイト先での産業廃棄物削減への提案をするにあたり、「もったいない」という意識を持っていなかったバイト仲間に意識を持ってもらい、後ろ盾してもらった。今後は自分自身が当たり前実践を日常生活の中で行う事で少しずつ周囲の人間の当たり前にし、同じ疑問を持ってもらい仲間を広げていきたいと考える。</p> |
| <p>・ボランティア活動をしたり、SDGsを仲間に伝える活動をしたと考えている。</p> |
| <p>・SDGsアンバサダーでの活動を通して、アンバサダーの仲間とSDGs目標の達成に関わる活動をし、貢献をしようとして取り組んでいる。</p> |
| <p>・まずはSDG14「海の豊かさを守ろう」に着目して、ウォーターサーバー(注ぐタイプ)の設置、SDGsポイント制度の導入、空のペットボトル回収時の返金制度を実現させたいと考えている。</p> |
| <p>・自分たちの考えを述べ、まだ行動に移せていないのでアンバサダーになったり、今度の救助活動の講習などで行動で示していきたい</p> |
| <p>・ゴミの分別を意識する。また、プラスチック製品をなるべく使わず紙製品に移行したり、マイボトルを持ち歩いたりしている。</p> |
| <p>・SDGsに対して、本講座で培った見解や経験等を自分だけのものとするのではなく周りに広げていくためという意味合いも込めてアクションを起こそうと考えている。そのためSDGsアンバサダーやウォーターエイド・スピーカークラブを通して、ただSDGsを紹介するのではなく、誰もが自分も何か行動を起こしてみたい、と心から思えるように情報発信していこうと計画している。</p> |
| <p>友人と一緒にボランティア活動を探して、実際に参加している。</p> |
| <p>・町のゴミ拾いに参加した。</p> |
| <p>・ジェンダーのステレオタイプを打ち砕くような製品の開発をしたいと考えている。玩具を作る企業で働きたいと考えているが、玩具においてもジェンダー関係なく遊べるものが普及することでその考え方も広がるのではないかと私は考えている。</p> |

1.16 その他、何かあれば自由に記述してください。

受講前

| |
|--|
| <p>・この講義を非常に楽しみにしています。</p> <p>・よろしくお願ひいたします。</p> <p>・自分の今の考え</p> <p>私は現在、SDGsの目標の実践をしていると言い張れる自信がありません。このSDGs実践講座を通して、SDGsのそれぞれの目標について自分の考えや意見を言えたり、積極的にボランティア活動に参加して、SDGsの目標の達成に貢献したいと考えています。また、SDGsについて自分の考えを社会に強く発信できるような人になりたいと思っています。</p> |
| <p>・よろしくお願ひいたします。</p> <p>・SDGsの中身を知るために、この講義を履修させていただいたので、とても楽しみにしています。</p> |
| <p>・私が関心を持っているジェンダー平等の実現は、一人一人の心に訴えることが目標達成に繋がると思うので、行動を起こすことが他の目標に比べて難しいと思いますが、私が主観的に見てジェンダー平等を実現させているこの東洋大学で、具体的な解決方法を探っていこうと思います。</p> |
| <p>・SDGsの到達目標がこれだけある中で、今僕たちが身近に始められることは何かをこの講義を通して学び、実践に移していけるように頑張りたい。</p> |
| <p>・SDGsに関心はあれど、今はまだ持つ知識が少なすぎることから、本講義を受けてこれからSDGsにどう関わり、そのためにどう行動できるのかを考えられるようになりたいと思います。</p> <p>その上で、SDGsそのものが社会にどう影響を与えるのかを含めじっくりと考察しながら受講したいと思います。</p> |
| <p>・広い視野で良いシステム開発をしていけるよう、この講義でインプットとアウトプットを同時に行い、多くのことを学んでいきたいです。</p> |

受講後

| |
|---|
| <p>・私は、持続可能な社会に向けて、世界が変わるベストなタイミングは、今であると思う。これまで蓄積してきた環境問題や労働問題、人権問題、様々な課題を少しでも減らしていかなければ、この世界は続かなければ、発展も見込めない。だからこそ、日本は先進国として他の国をリードしていける存在になってほしい、そのためにも日本の今ある課題から、私たち国民も目を逸らさず、向き合わなくてはならないのである。</p> |
| <p>・アンバサダーとして来年もやらせていただくつもりです。この講座で見つけた仲間とぜひ一緒に何かに取り組みたいと考えております。初めての講座でしたが、とても充実していたものであったと感じております。勧誘含めて頑張っていきたいと考えております。</p> |
| <p>・15回の講義を通じて、自分の本当に取り組みたかったSDGsの活動を知ることができました。まさに私は17番目のゴールである「パートナーシップ」という言葉をキーワードに、人と人をつなげ、誰もがやりたいことをやる場所、機会の創出という活動がしたいということがわかりました。それによって、今後の就職活動や残りの大学生活の具体的なプランを立てることができ、自分の人生にとっても大きな影響を与えた講座だったと思います。</p> <p>これからは、ここで出会った仲間と関係を終わらせるのではなく、最終プレゼンで発表した、それぞれのプランをみんなで取り組んでいけたらよいと思います。</p> <p>約半年間ありがとうございました。</p> |
| <p>・半年間ありがとうございました。SDGsについて詳しくなることができました。将来の行動変容につなげたいと思います。</p> |
| <p>・学びのある講座をありがとうございました。学生最後に大学生らしい(=真剣に講義を聞く、ディスカッションをする、発表をする、レポートを書く)授業を取りたいと思い、見つけたのがこの講座でした。ありがとうございました。</p> |
| <p>・全15回を通し、とてもよい勉強の機会になりました。ありがとうございました。</p> |
| <p>・特になし。</p> <p>・本講座でSDGsがどういったものかを理解しただけでなく、SDGsに対する自分の考えを持つことができたと感じている。特に自分ごとの意識、パートナーシップの大切さについては周りに発信していきたいと思い、実際にSDGsアンバサダーへの参加などを真剣に検討している自分に対して正直驚きを隠すことができない。ただ、SDGsに正解はなく、地球規模で自然や社会、経済の捉え方なども常に変化しているような環境なので、SDGsに対する考察や学びを止めることがないように強く意識しなければならぬと一層強く感じている。また、SDGsが社会にもたらす効果や影響に対しても考察や学びを蔑ろにしないように注意していきたいと考えている。</p> |

社会貢献センター 内部評価

東洋大学社会貢献センターに対する内部評価結果

(学部：社会学部 氏名：高山直樹)

I 判定：A

| | |
|---|--|
| S | 社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標の達成が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。 |
| A | おおむね、社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標がほぼ達成されている。 |
| B | 社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成がやや不十分であり、改善すべき点がある。 |
| C | 社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多く、抜本的な改善が求められる。 |

II 総評

本学の「建学の精神」「教育理念」「心」の方針に基づいた活動が展開されている。特に「開かれた大学」として「大学の教育を広く民衆に届ける」理念の具現化として、講師派遣事業は多くの教員の協力を得て、全国各地に本学の知を届けている。また地域活性化活動支援事業も各学部や学科の特徴を活かし、学生が主体となる地域貢献につながる成果を上げている。一方、活動に参加する教員や学生が各学部、学科に偏っている傾向もみられることから、まず学部・学科の教員に対する社会貢献活動の理解の促進、教員の研究や教育の社会化の方向と社会貢献の有機的連動を図っていく方向性を意識化していくことに取り組む必要がある。また白山キャンパスに情報が集約され、発信されることから、他キャンパスの活動に展開されていきにくい体制があり、体制強化が求められる。

III 概評及び提言

1. 理念・目的

〈概評〉

① 社会貢献センターの理念・目的を適切に設定しているか。

本学の建学の精神と社会貢献センターの理念・目的がつながっており、生涯学習、講師派遣事業、地域活性化活動支援事業等により目的を達成している。

② 社会貢献センターの目的を明示し、社会と共有しているか。

本学ホームページで「社会貢献センター報告書」を公開しており、社会との共有を果たしている。

③ 社会貢献センターの目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

社会貢献活動に関する中期計画が作成され、「人生100年時代の学びのサポート」「前世代型グローバル教育の提供」、リカレント・リスキリング、大学院との連動、卒業生の活用などの具体的な施策が検討されており、大学の将来を見据えた形の社会貢献活動を掲げている。

〈提言〉

長所

1. 多様な学部・学科、研究科を擁し、多様な社会貢献活動を展開する基盤としての、研究・教育活動がある。
2. 社会貢献活動と卒業生34万人の協働ができる基盤がある。

改善課題

1. 活動が多岐にわたり、その活動を調整・支援していく体制の強化が求められる。
2. 白山キャンパス以外のキャンパスにおける、社会貢献、地域貢献センターの分室が求められる。
3. 社会貢献活動が教員の研究や教育の発展、社会化していくことにつながっていくという意識の醸成とそれを支えるインセンティブをつくっていく必要がある。



2022 年度
東洋大学 社会貢献センター年報

発行 2023 年 7 月 20 日



Toyo University supports the Sustainable Development Goals



東洋大学

社会貢献センター（エクステンション課）

〒113-0021 東京都文京区本駒込 1-10-2 雨水会館 1 階

TEL : 03-3945-7635